

長野県松本市

松本城下町跡

KOIKEMACHI

小池町

—— 第1次発掘調査報告書 ——



2007.3

松本市教育委員会

長野県松本市

松本城下町跡

KOIKEMACHI

小池町

——第1次発掘調査報告書——

2007.3

松本市教育委員会

序

松本城下町跡は、松本市の中心市街地に位置する江戸時代の遺跡です。この遺跡は、本町や小池町など13の町から構成され、遺跡総面積は約14万㎡にも及びます。これまで数多くの発掘調査が行われてきましたが、小池町での発掘調査は、今回が初めての調査となります。

このたび、当地にダイア建設株式会社による高層集合住宅の建設が計画されたため、松本市がダイア建設株式会社から委託を受け、埋蔵文化財を記録する目的で緊急発掘調査を実施することになりました。

発掘調査は、平成18年2月13日～同年4月14日にかけて行われました。折からの寒風の中での調査となりましたが、関係の皆様のご尽力によりまして、無事に調査を終了することが出来ました。発掘調査の結果、江戸時代初期から幕末にいたる町屋の様々な生活痕を発見することができました。これらは、今後地域の歴史を解明する上で、大変重要な資料になることと思われまます。

しかしながら、開発事業に先立って行われる発掘調査は、記録保存という遺跡の破壊を前提とする側面があることは事実です。開発により私たちの生活が豊かになる一方、それにともない歴史遺産が失われてしまうのは残念なことです。発掘調査により当時の生活が明らかとなり、私たちの郷土松本が歩んできた歴史が一つずつでも解き明かされることは大変貴重なことだと考えられます。

最後になりましたが、発掘調査に多大なご理解とご協力をいただいたダイア建設株式会社、地元関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成19年3月

松本市教育委員会 教育長 伊藤 光

例言

- 1 本書は、平成18年2月13日～同年4月14日に実施された松本市中央3丁目640番、641番、642番、643番、639番1、639番2に所在する松本城下町跡小池町第1次の緊急発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、ダイア建設株式会社による集合住宅建設に伴う緊急発掘調査であり、同社より松本市が委託を受け、松本市教育委員会が発掘調査を実施し、本書の作成を行ったものである。
- 3 本書の執筆は、竹内靖長が行った。
- 4 本書作成にあたっての作業分担は以下のとおりである。

遺物洗浄・注記・接合：久根下三枝子（木器）、竹平悦子、中澤温子（土器・陶磁器）

土器陶磁器実測・トレース：白鳥文彦、竹内直美、竹平悦子、中澤温子、八板千佳

土器・陶磁器図版作成：八板千佳 木製品整理・図版作成：久根下三枝子

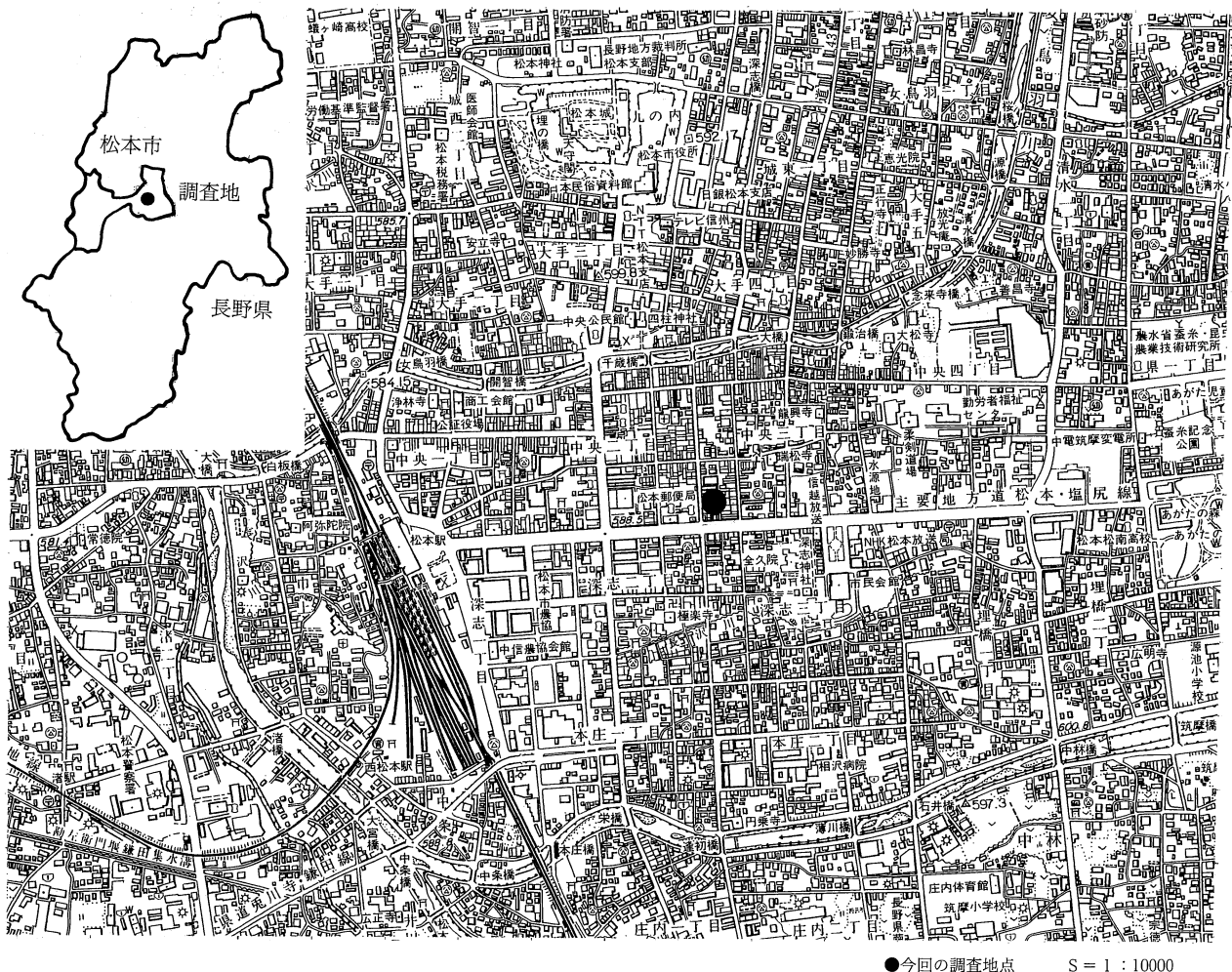
金属製品整理：内堀 団、洞沢文江 遺構図調整・トレース：村山牧枝

遺物写真：宮嶋洋一 総括・編集：竹内靖長

- 5 本書中で用いた遺構図の細部表現は次の通りである。

●・・・韃羽口出土地点 ▲・・・鉄滓出土地点 ■・・・埴塙出土地点

- 6 本調査で得られた出土遺物及び調査の記録類は、松本市教育委員会が保管し、松本市立考古博物館（〒390-0823 長野県松本市大字中山3738-1 TEL 0263-86-4710 FAX 0263-86-9189）に収蔵されている。



第1図 調査地の位置

目次

例言

目次

I 調査の経緯…………… 1

1 調査に至る経過

2 調査体制

II 調査の概要…………… 2

1 遺跡の概要

2 調査地の基本土層

3 調査の方法

4 調査の成果

III 調査結果

1 遺構…………… 6

(1) 第I検出面

(2) 第II検出面

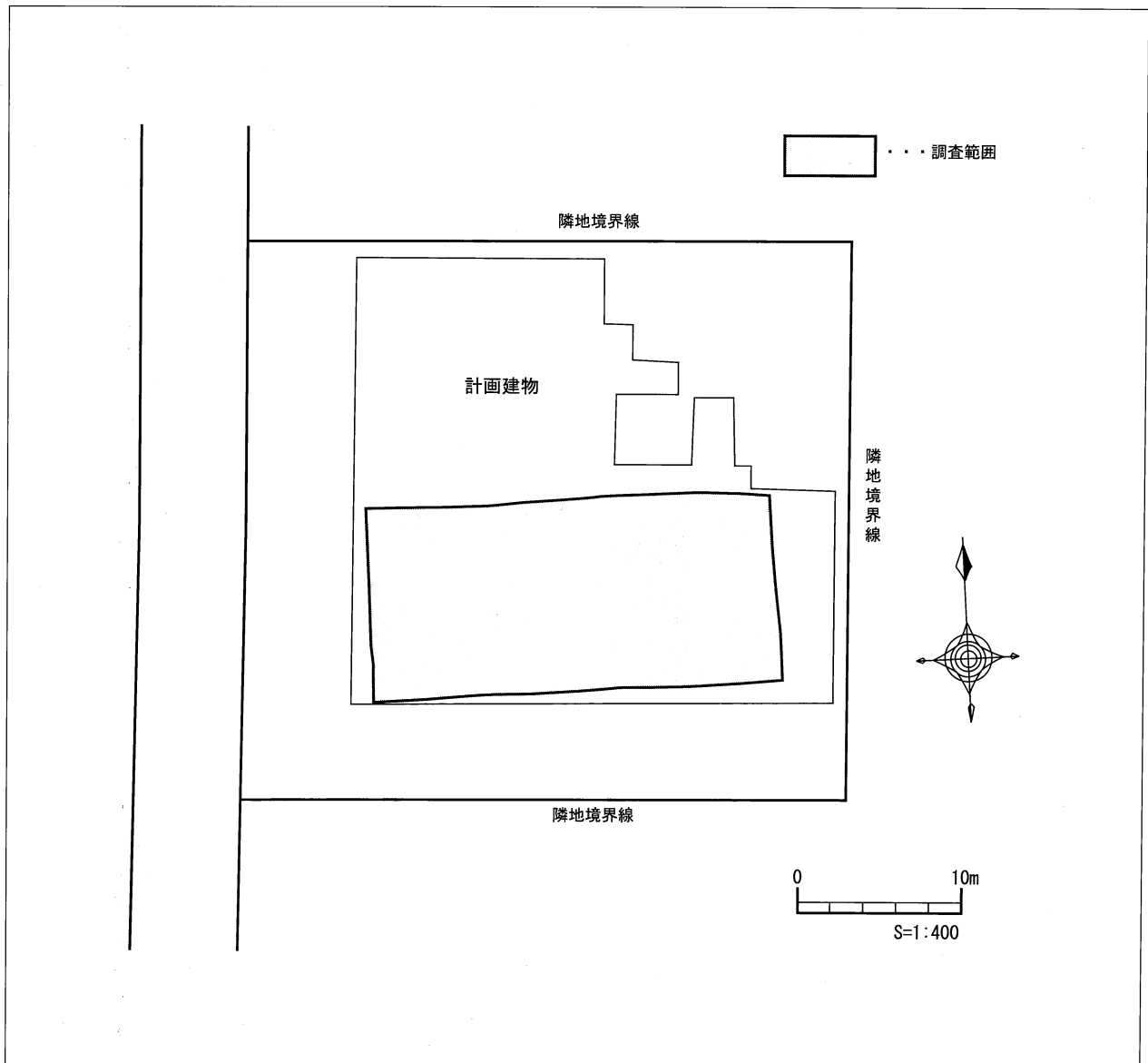
(3) 第III検出面

2 遺物

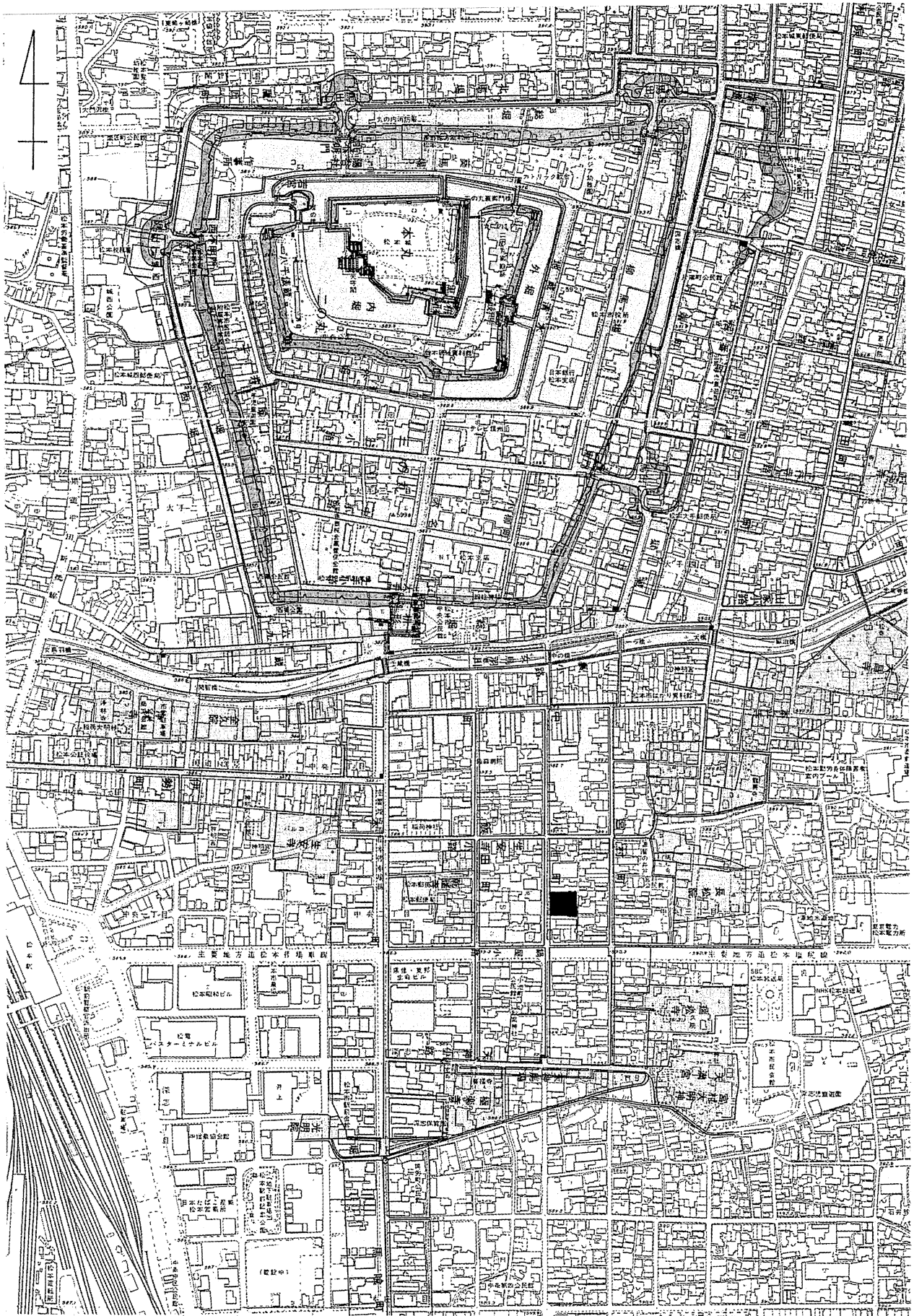
(1) 土器・陶磁器・土製品…15

(2) 木製品……………30

写真図版



第2図 調査範囲図



復元図は享保13年（1728）秋改松本城下絵図を都市計画図に重ねたもの

■…調査地

第3図 城下町復元図にみる調査位置

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

松本城下町跡は、松本城を中心に現在の松本市街地一帯に広がる近世の遺跡である。近年の市街地再開発事業などに伴って、50箇所以上におよぶ発掘調査が行われ、多くの遺構・遺物が確認されてきた。

このような中、松本中央3丁目639番1、639番2、640～643番において、ダイア建設株式会社による高層集合住宅建設事業が計画された（文化財保護法第93条に基づく届出書：平成18年1月18日提出）。事業予定地は、松本城下町跡小池町地点の町屋跡にあたり、開発事業が実施された場合には埋蔵文化財が破壊されるおそれが生じた。このため松本市教育委員会は、平成18年1月20日～1月26日にかけて試掘確認調査を実施した。この結果、開発事業によって埋蔵文化財が破壊されることが明らかとなったため、協議のうえ発掘調査を実施して記録保存を行うこととし、平成18年2月13日付でダイア建設株式会社と松本市長 菅谷昭との間で当該遺跡に関する発掘調査委託契約を締結して、松本市教育委員会が発掘調査を実施した。発掘調査は、平成17～18年度にまたがって実施されたので、平成18年度の発掘調査および報告書作成の委託契約を平成18年4月1日付で締結した。発掘調査は平成18年2月13日～同年4月14日にかけて実施した。調査終了後、平成18年4月18日付で長野県教育委員会に終了報告書を提出し、また同日に松本警察署に埋蔵物発見届を行い、平成18年4月25日付で長野県教育委員会教育長から埋蔵物の文化財認定を受けた。

出土遺物及び現場測量図・写真等の整理作業と本報告書の作成作業は現場作業に引き続き松本市立考古博物館において行い、本報告書を刊行するに至った。

2 調査体制

調査団長：竹淵公章（松本市教育長 ～H18. 3）、伊藤 光（同 H18. 4～）

調査担当：竹内靖長（文化財課主任～H18. 3 主査H18. 4～）、朝倉一樹（同 主任）、岡崎武祥（同 嘱託）

調査員：今村 克、宮嶋洋一、森 義直

協力者：荒井留美子、飯田三男、井口方宏、久根下三枝子、清水陽子、白鳥文彦、澤柳 博、竹内直美、竹平悦子、中澤温子、洞沢文江、待井敏夫、道浦久美子、宮澤文雄、宮田勝年、村山牧枝、本木修次、山崎照友、渡辺順子

事務局：松本市教育委員会 教育部 文化財課

宮島吉秀（課長）、市川恵一（部課長～H18. 3）、上嶋乙正（部課長H18. 4～）、

熊谷康治（課長補佐～H18. 3）、横山泰基（埋蔵文化財担当係長H18. 4～）、

直井雅尚（主査）、関沢 聡（主査H18. 4～）、渡邊陽子（嘱託～H18. 3）、花村かほり（嘱託）

II 調査の概要

1 遺跡の概要

今回調査を実施した小池町は、親町3町・枝町10町と言われた松本城下町13町の一つにあたる。水野氏時代に編纂された『信府統記』によれば、慶長18年（1613）小笠原秀政が飯田より入部した際、南半分を奉公人衆の屋敷、北半分を町人地と定めたとの記述がある。今回の調査地は、北半部の町人地にあたる。小池町という町の名前の由来は2説あり、小池甚之丞という軍学兵法の達人がいたためとか、もともとこの辺りに小さな池があったためなどと言われている。享保8～9年（1723～24）の『小池町町割図』（川辺家文書）によると、町人の屋敷は68軒あり、従事していた職種は18種におよぶ。内訳は、商人8軒、紺屋7軒、桶屋4軒、大工4軒、張子屋3軒、作人3軒、鍛冶2軒、綿打屋2軒、油屋、木挽屋敷、鉛屋、仕立屋、屋根屋、鞆師などである。調査地に該当するとみられる箇所には、「鍛冶屋」との記載がある。今回の第Ⅱ検出面では、金属滓や鞆羽口などが大量に出土したため、町割図の記載と一致するものと考えられる。

2 調査地の基本土層

調査地の基本土層については右下の第4図に示した。現地表下40cm までが表土層である。第Ⅰ検出面として捉えたのはⅣ層上面の層理面である。この下層のⅤ層は、女鳥羽川系の洪水による堆積層と考えられる。Ⅰ検の推定年代が19c 中頃～後半、Ⅱ検が18c 後半～19c 中頃であるため、この間の洪水と考えられる。近世の史料によれば、幕末期の安政6年（1859）7月梓川はじめ諸川氾濫、万延元年（1860）5月薄川・女鳥羽川の氾濫、慶応元年（1865）年5月大雨での諸川決壊など複数回の洪水記録がみられる。その下層のⅥ層が第Ⅲ検出面である。Ⅲ検の下層は地山で、薄川系の堆積土と考えられる。深掘り掘削での観察では、地表下2mまでは、滞水状態の堆積を示す黒色土層と流水状況を示す砂層が交互に堆積していた。

3 調査の方法

本調査事前の試掘調査においては、開発区域のほぼ全域に江戸時代の整地層を確認していたので、建物建設範囲を中心に281.8㎡を調査区として設定した。本調査は、試掘トレンチとサブトレンチを掘削し、土層の観察を実施しながら上面から順次面的調査を進めていった。また、最下層の地山面についても面的に確認調査を実施したが、上層面で捉えていなかった遺構以外は発見されなかった。しかし、摩滅した古墳時代の土器が数点出土しており、付近に該期の遺跡の存在が窺える。現場における遺構の測量作業は、Ⅰ～Ⅲ面共通で国土座標を用いた3m方眼を設定して行った。座標値は、原点座標（NS0、EW0）がX=25494.000、Y=-47211.000である。

4 調査の成果

調査期間：平成18年2月13日～4月14日

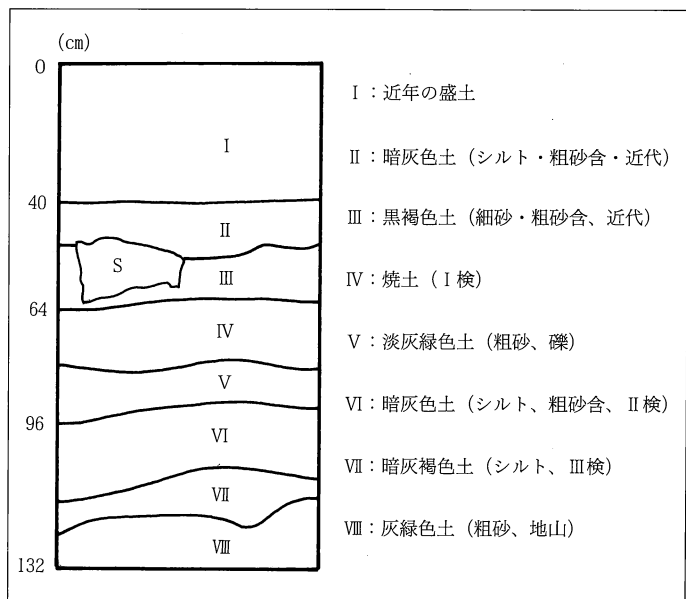
調査面積：281.8㎡（Ⅰ～Ⅲ検のべ面積759.1㎡）

検出遺構：

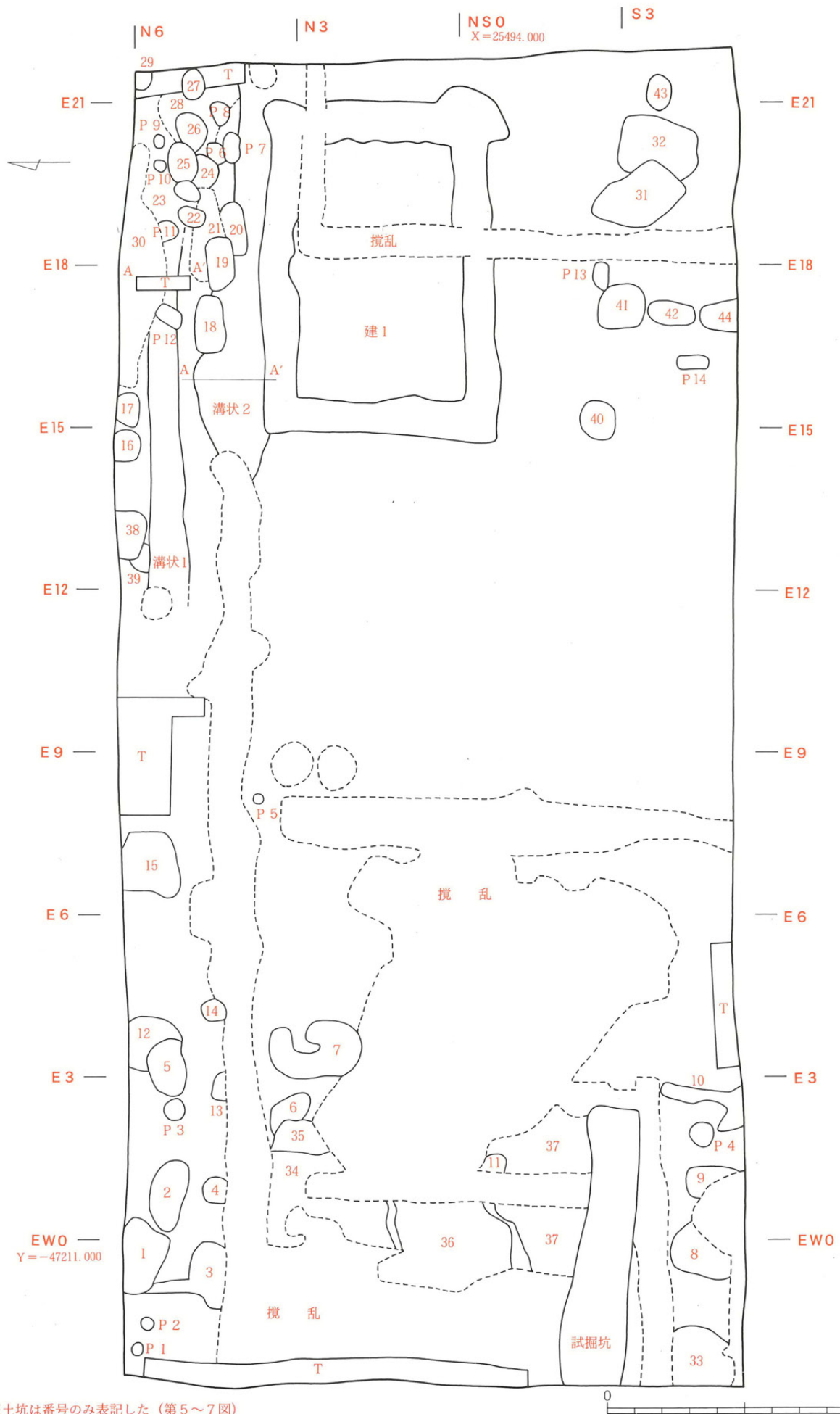
Ⅰ検（19c 中～後半）：土坑44、ピット14、溝状遺構2、建物址1

Ⅱ検（18c 後～19c 前）：土坑137、ピット24、溝状遺構5、水道遺構1、埋設桶1、石列1

Ⅲ検（17c 前半～中）：土坑50、ピット8、溝状遺構1

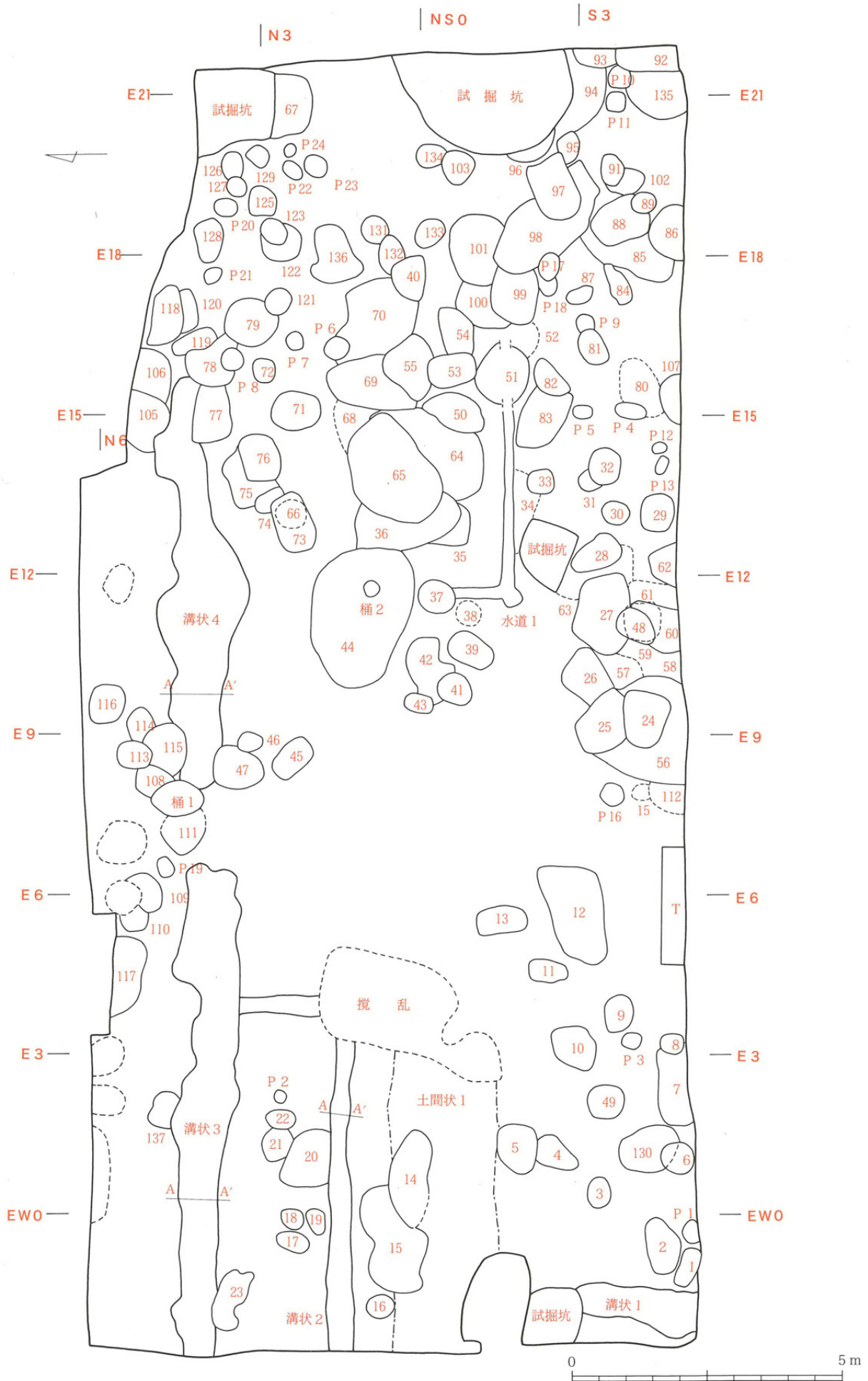


第4図 調査区西壁南端基本土層図

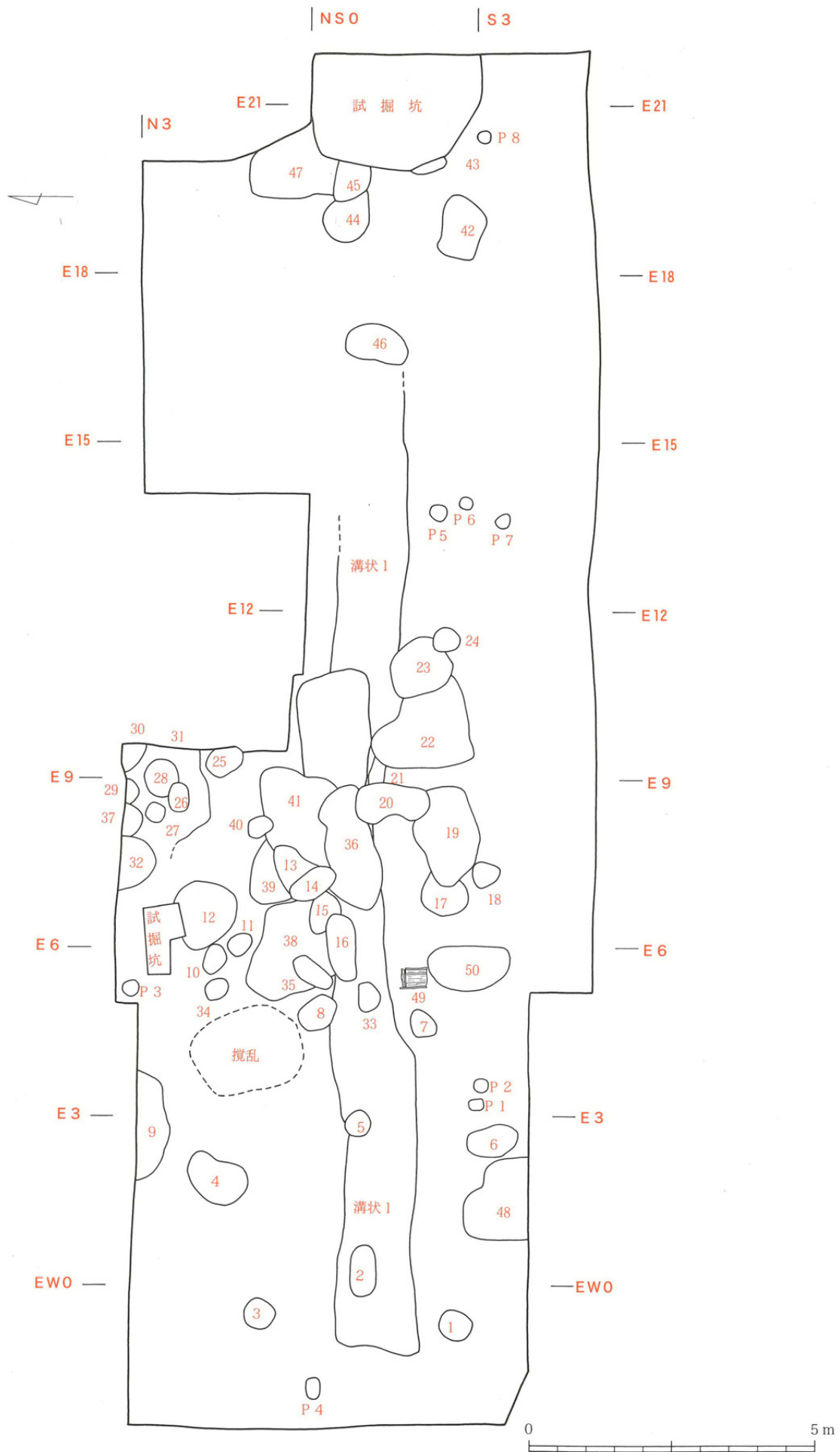


※土坑は番号のみ表記した (第5～7図)

第5図 第I検出面遺構全体図



第6図 第II検出面遺構全体図



第7図 第三検出面遺構全体図

Ⅲ 調査結果

1 遺構

(1) 第Ⅰ検出面

調査区西半部は広範囲に攪乱を受けていたため、遺構は調査区東半部を中心に検出された。発見された遺構は、土坑44、ピット14、溝状遺構2、建物址1である。検出面には被熱痕が明瞭に確認でき、その上面に火災に起因すると考えられる焼土層が覆っていた。これらの焼土層と第Ⅰ検出面（以下○検と略）からは、幕末～明治期の陶磁器が混在しており、焼土層中から出土した最も新しい時期の出土遺物が、明治20年代の瀬戸・美濃産の染付印判手製品であった。Ⅰ検の年代推定にはこの火災層が指標となるが、出土陶磁器と史料に記された火災記録を併せて考えると、明治21年(1888)1月4日の極楽寺から出火した火災(松本大火)の可能性が高い。明治21年1月7日付の『信陽日報』によると、この大火で焼失した家屋は総計1,550戸にのぼり、小池町もほぼ全域にわたり類焼したようである。

ア 土坑

調査区北東隅で発見された土18・19・20は、いずれも長軸1～1.3m、短軸0.5～0.6m前後の小形土坑である。これらの土坑の覆土中からは、埴塼と金属滓が多量に出土した。出土した埴塼の個体数は、土18が23点、土19が2点、土20からは8点である。また鉄滓の出土量は、土18は1207.2g、土19は350.6gで、この他にも土22・25・26・41で多量に出土している(Ⅰ検鉄滓出土総量2,023.4g)。これらの土坑には、鍛冶生産に関連した痕跡は認められないため、埴塼・金属滓等の廃棄土坑と考えられる。

イ 溝状遺構

調査区北東部に東西に約12m延びる状態で1条検出された。幅0.8～1m、深さは0.4mを測る。掘り方内部には溝壁面に沿って板材が通り、それを固定すると考えられる杭材が打ち込まれている。覆土底部には砂層や漆黒層がみられ、水流あるいは滞水していた状況が窺える。位置・方向から敷地境の溝と考えられる。

ウ 建物址

調査区東端中央部において1棟検出された。規模は南北4～4.5m、東西6.0mで平面形態は長方形を呈する。建物基礎は布掘礎石工法で、幅0.5～0.8m、深さ0.2～0.3mの布基礎溝が長方形に巡っていた。この溝はグリ石と砂質土で根固めされ、その上面には礎石状の平坦な根石が設置されていた。一部の根石の上には間知石が設置されていたため、本来は長方形プラン全体に間知石が巡っていたものと考えられる。このような基礎構造の建物は、松本城下における他の調査事例から土蔵と考えられる。

(2) 第Ⅱ検出面

第Ⅱ検出面では、敷地表側と推定される西側に、礎石列・集石・土間状の遺構が確認された。中央部分は比較的遺構が少なく、調査区東側に土坑が集中して発見された。特に東側で発見された遺構は、ほとんどが廃棄土坑と考えられ、遺構の重複関係が著しい。

ア 土坑

調査区西側で発見された土坑は、比較的出土遺物が少ないものが多い。これに対して東側で検出された土坑は、出土遺物が多く、重複関係が著しい。Ⅱ検で発見された土坑の特徴を大別すると、①礫が多く含まれる土坑、②被熱痕がみられる土坑、③陶磁器や木製品などの出土遺物が多く含まれる土坑の3種類に分けられる。①とした礫が多量に伴うのは、土2・7・12・15～18・50・55・64・66・71・73などで、拳大の礫が覆土から底面にみられる。②とした被熱痕が確認されたのは、土4・5・15で、調査区西側でのみ確認されている。底面から壁にかけて被熱しており、一部に粘土が固まって見られた。③とした遺物が多量に出土したものは、土7・56・130などがある。調査区東部で検出された土坑は、ほとんどが遺物を多量に伴う。絵図等か

ら推定すると、調査区東側が敷地の奥側に相当すると考えられるが、松本城下町でのこれまでの調査結果から、これらは廃棄土坑と考えられる。このような廃棄土坑からは、一般的に陶磁器・木製品・金属製品など多種多様な遺物が出土するが、今回の調査では金属滓や鞆羽口などが多量に出土したという特徴が挙げられる。こうした遺物は、日常生活で排出される廃棄物ではなく、調査箇所の町屋の生業にかかわる産業廃棄物と考えられる。Ⅱ検からの出土総量は、金属滓110.0179kg、鞆羽口33.459kg(74個体以上)を測る。特に、土78・79・36などは出土量が多量であった。

土44は、2.6×1.9mの不整楕円形を呈する。掘り方の北壁面では、径2～4cmの杭が垂直に24本打ち込まれ、その杭の前後を交互に竹を絡ませていた。このような遺構は、江戸遺跡(汐留遺跡ほか)や松本城下の調査事例においても確認されている「しがらみ遺構」(土留め遺構)と考えられる。松本城下では、今回検出された事例の他に、杭の前後に板材を交互に絡ませている事例も認められている。出土遺物は、陶磁器の他に沢瀉文(城主水野氏家紋)の軒丸瓦が出土した。本址中央やや東寄りには、桶2が検出された。径約30cmの桶で、底板も残されていた。土44の底面を20cmほど掘り込んで設置されていたが、用途は不明である。

イ 溝状遺構

調査区西・北部において、計5条検出された。溝状2・5は、覆土中に多量の拳大の礫が含まれていた。溝状3・4は部分的なトレンチでの確認であったが、底面端から壁面に杭材が打たれており、東西方向に直線的に延びている。敷地境の区画溝の可能性が考えられる。

ウ 水道遺構

調査区中央やや南東寄りに位置している。幅20～25cmの掘り方の中に、径6～10cmの節を抜いた竹製の管が設置されていた。この竹製の管は、木製の継手(ジョイント)により接続されるのと同時に、継手部分で配管方向を北へ90°振っている。継手部分の周囲は、水漏れ防止のために粘土で厚く固めてあった。竹管は土37に接続していることは確認できたが、その北側の土44まで延びているのかどうかについては、湧水のため捉えられなかった。

(3) 第Ⅲ検出面

Ⅲ検として捉えた面は、地山面の上層である第7層(第4図)の層理面である。地山面には遺構は発見されなかったため、城下町の生活面としては最下層となる。Ⅲ検で発見された遺構は、溝状遺構と土坑である。このうち土坑の中には、Ⅱ検で捉えきれなかったものをⅢ検で調査したものがある。なお、Ⅲ検調査終了後に地山面の面的確認作業を実施したところ、遺構は皆無であったが、古墳時代とみられる摩滅した土器片が出土した。このため、付近には該期の遺跡が存在する可能性が考えられる。

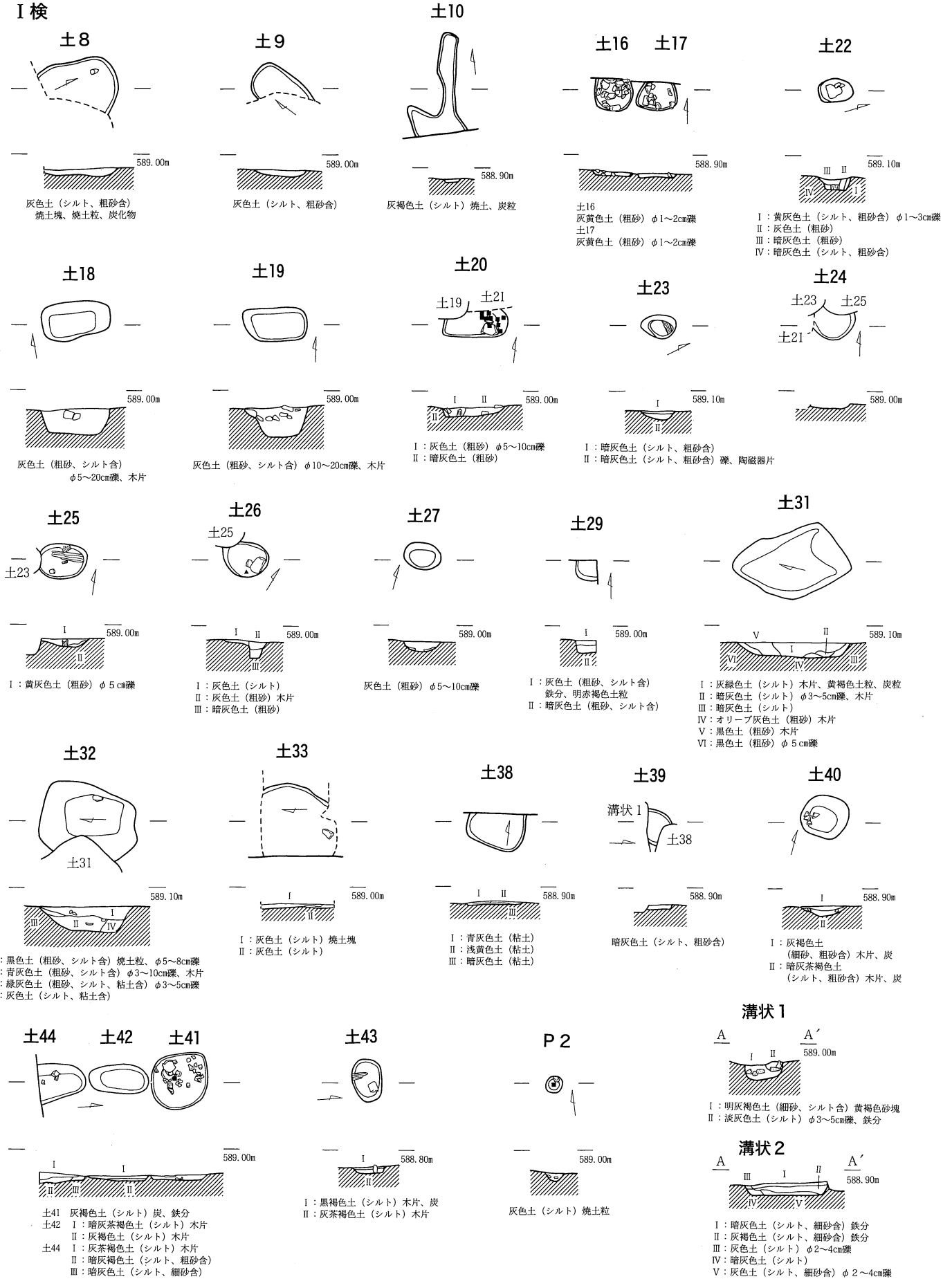
ア 土坑

調査区中央付近において、溝状1を切る状態でかなり重複して検出された。それらのほとんどの土坑には遺物が多量に含まれていたため、廃棄土坑と考えられる。出土遺物をみると土13～16・26～32・36・39～41などはⅡ検の遺構である可能性も考えられる。土48は、覆土中に炭化種子が多量に含まれていた。この種子は、マメガキ(通称コガキ)とみられる(森義直氏ご教示による)。マメガキは、食されたり柿渋の原料とされているものである。土49は、36×46cmの木板を箱型に組んだ状態で発見された。明確な掘り方は無く、周囲に拳大の礫が集中していた。用途等は不明である。

イ 溝状遺構

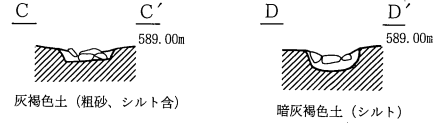
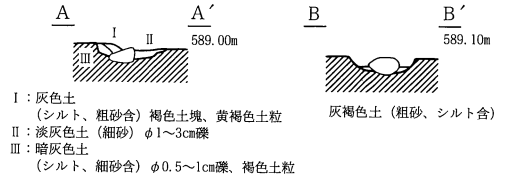
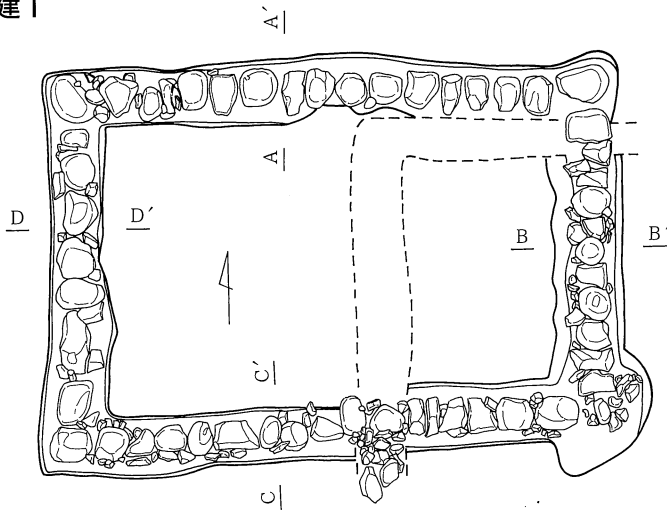
調査区中央付近に東西方向に通る溝状遺構が1条発見された。長さ17m、幅1.2～1.5m、深さ0.3～0.4mを測る。調査区東端は多量の湧水で調査不可能であったため、本址東端部は捉えきれなかった。断面形は西側がU字形、東側はV字形を呈している。溝断面形が東と西で異なり、中央部分でやや方向が変わることから2条の溝状遺構の切り合いである可能性がある。覆土中からは17c前半の遺物が出土した。

I 検

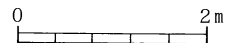
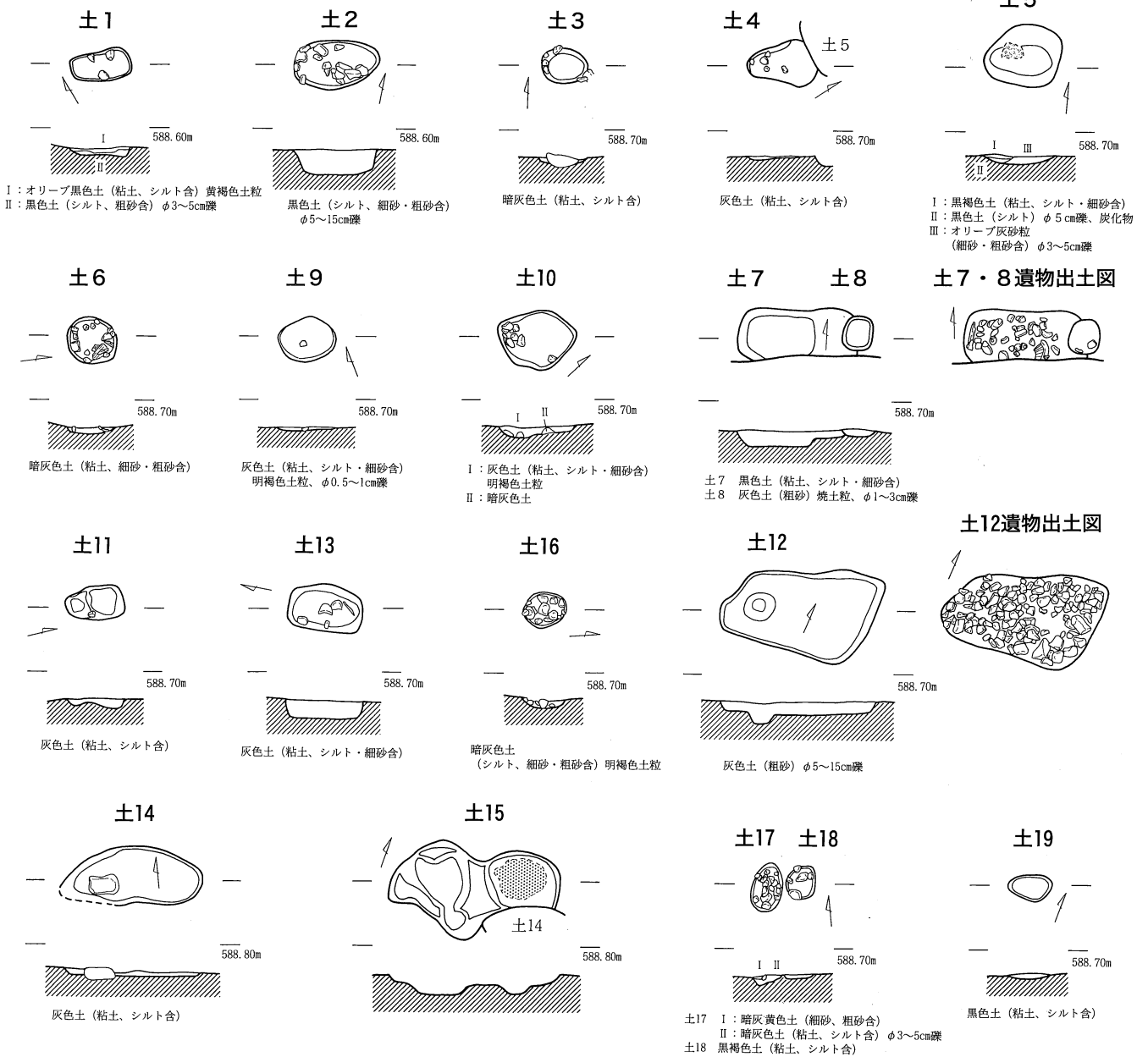


第8図 遺構(1)

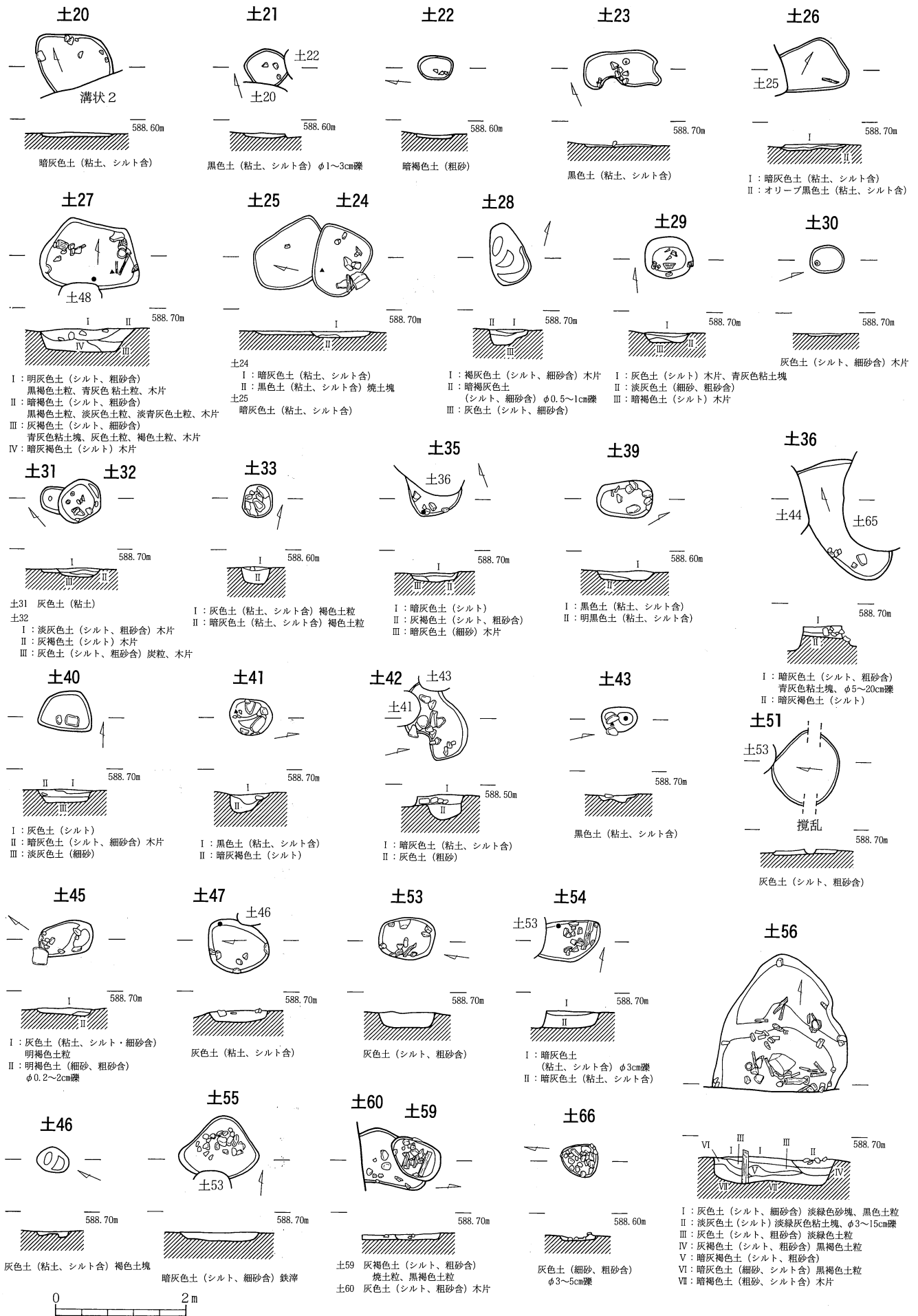
建1



II 検

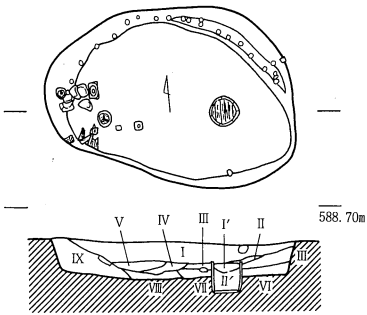


第9図 遺構(2)

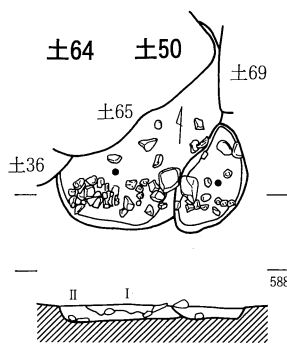


第10図 遺構(3)

土44 桶2

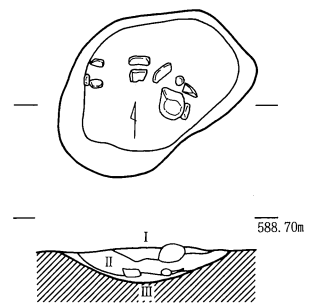


- 土44 I: 灰色土(粘土、粗砂含) 木片、 $\phi 3\sim 7\text{cm}$ 礫
 II: 明灰色土(粘土)
 III: 暗灰色土(細砂) 褐色土粒、 $\phi 0.1\sim 0.5\text{cm}$ 礫
 IV: 明灰色土(粘土、粗砂含) 木片、 $0.5\sim 2\text{cm}$ 礫
 V: 灰褐色土(粗砂、シルト含) 木片、明灰色土粒
 VI: 灰緑色土(粗砂) 褐色土粒、 $\phi 0.5\sim 1\text{cm}$ 礫
 VII: 明灰褐色土(細砂、シルト含) 木片
 VIII: 暗灰色土(粘土、粗砂含) $\phi 0.5\sim 1\text{cm}$ 礫、木片
 IX: 灰褐色土(粗砂) $\phi 5\sim 20\text{cm}$ 礫、木片
 桶2 I': 明灰色土(シルト) $\phi 2\sim 5\text{cm}$ 礫
 II': 暗灰褐色土(シルト) 木片



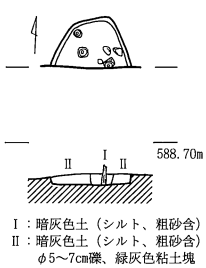
- 土50 灰緑色土(粗砂) 鉄粒、 $\phi 0.5\sim 1\text{cm}$ 礫、鉄滓
 土64 I: 暗灰色土(シルト) 明灰色土塊
 II: 暗褐色土(シルト、細砂含) $\phi 0.5\sim 2\text{cm}$ 礫、淡灰色土粒

土65



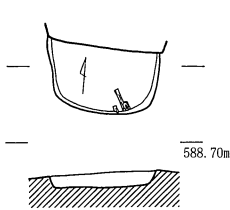
- I: 灰褐色土(シルト、細砂含) 木片
 II: 褐色土(シルト) 木片、 $\phi 1\sim 3\text{cm}$ 礫
 III: 明灰色土(シルト、粗砂含) $\phi 1\sim 2\text{cm}$ 礫

土62



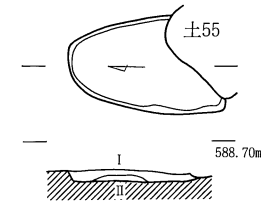
- I: 暗灰色土(シルト、粗砂含)
 II: 暗灰色土(シルト、粗砂含) $\phi 5\sim 7\text{cm}$ 礫、緑灰色粘土塊

土67



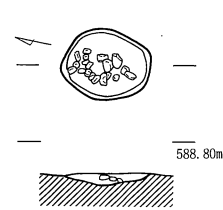
- 暗灰色土(シルト、粗砂含) 炭粒

土69



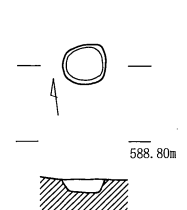
- I: 灰色土(シルト、細砂含) $\phi 3\sim 5\text{cm}$ 礫
 II: 暗灰色土(シルト)

土71



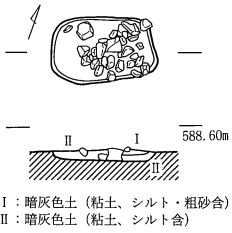
- 暗灰色土(粘土、シルト含)

土72



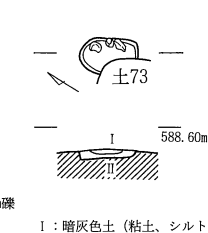
- 暗灰色土(シルト)

土73



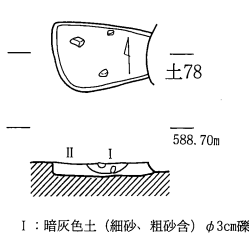
- I: 暗灰色土(粘土、シルト、粗砂含) $\phi 3\text{cm}$ 礫
 II: 暗灰色土(粘土、シルト含)

土74



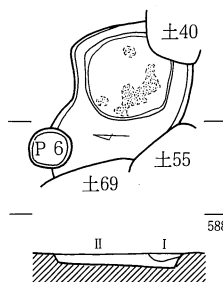
- I: 暗灰色土(粘土、シルト、粗砂含) 暗褐色土、 $\phi 2\sim 3\text{cm}$ 礫
 II: 暗灰色土(粘土、シルト)

土77

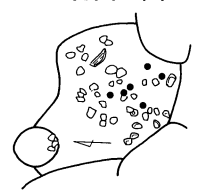


- I: 暗灰色土(細砂、粗砂含) $\phi 3\text{cm}$ 礫
 II: 黒褐色土(シルト)

土70

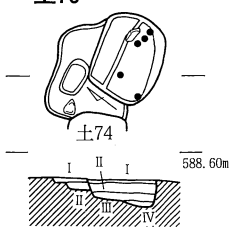


土70遺物出土図



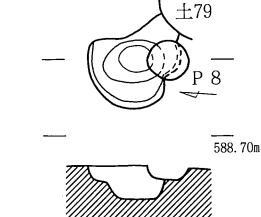
- I: 暗灰色土(粘土、シルト含) $\phi 3\sim 5\text{cm}$ 礫
 II: 灰色土(粘土、シルト含) 緑灰色粘土

土75 土76



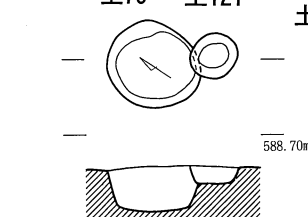
- 土75 I: 緑灰色土(粘土、シルト含)
 II: 淡灰褐色土(シルト、細砂含)
 土76 I: 緑灰色土(粘土、シルト含)
 II: 暗緑灰色土(粘土、シルト含)
 III: 暗緑灰色土(粘土、シルト含) $\phi 1\text{cm}$ 礫
 IV: 暗灰色土(粘土、シルト含)

土78



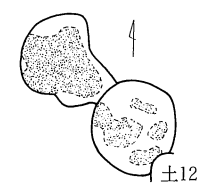
- 暗オリーブ色土(シルト、粗砂含) $\phi 3\sim 5\text{cm}$ 礫

土79 土121



- 土79 緑灰色土(シルト、細砂含) 木片、 $\phi 2\sim 3\text{cm}$ 礫
 土121 暗灰色土(シルト、細砂含) 木片、 $\phi 0.5\sim 3\text{cm}$ 礫

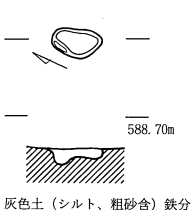
土78・土79鉄滓出土図



土78・土79遺物出土図

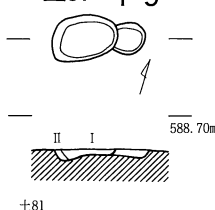


土87



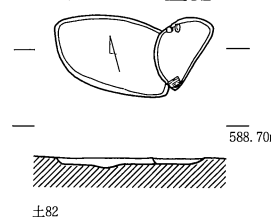
- 灰色土(シルト、粗砂含) 鉄分

土81 P 9



- 土81 I: 暗灰色土(シルト) 鉄分
 II: 灰色土(シルト) 鉄分
 P 9 灰色土(シルト) 鉄分

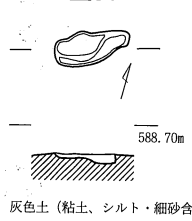
土83



- 土82 暗灰色土(シルト) 木片
 土83 灰色土(シルト、粗砂含) 鉄分

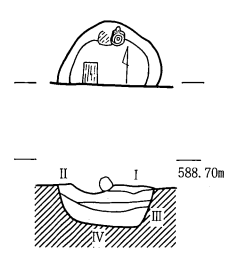
土82

土84



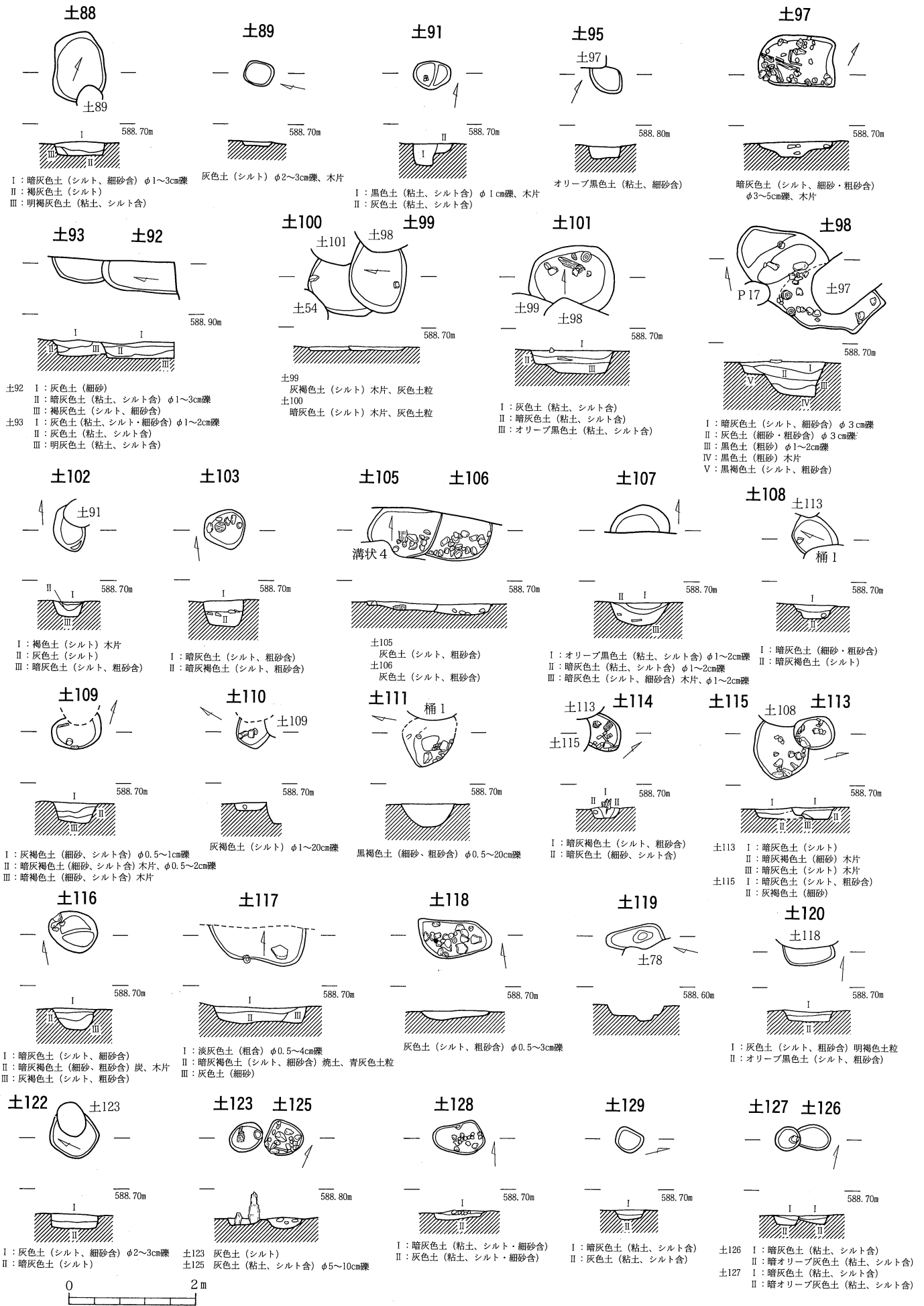
- 灰色土(粘土、シルト、細砂含)

土86

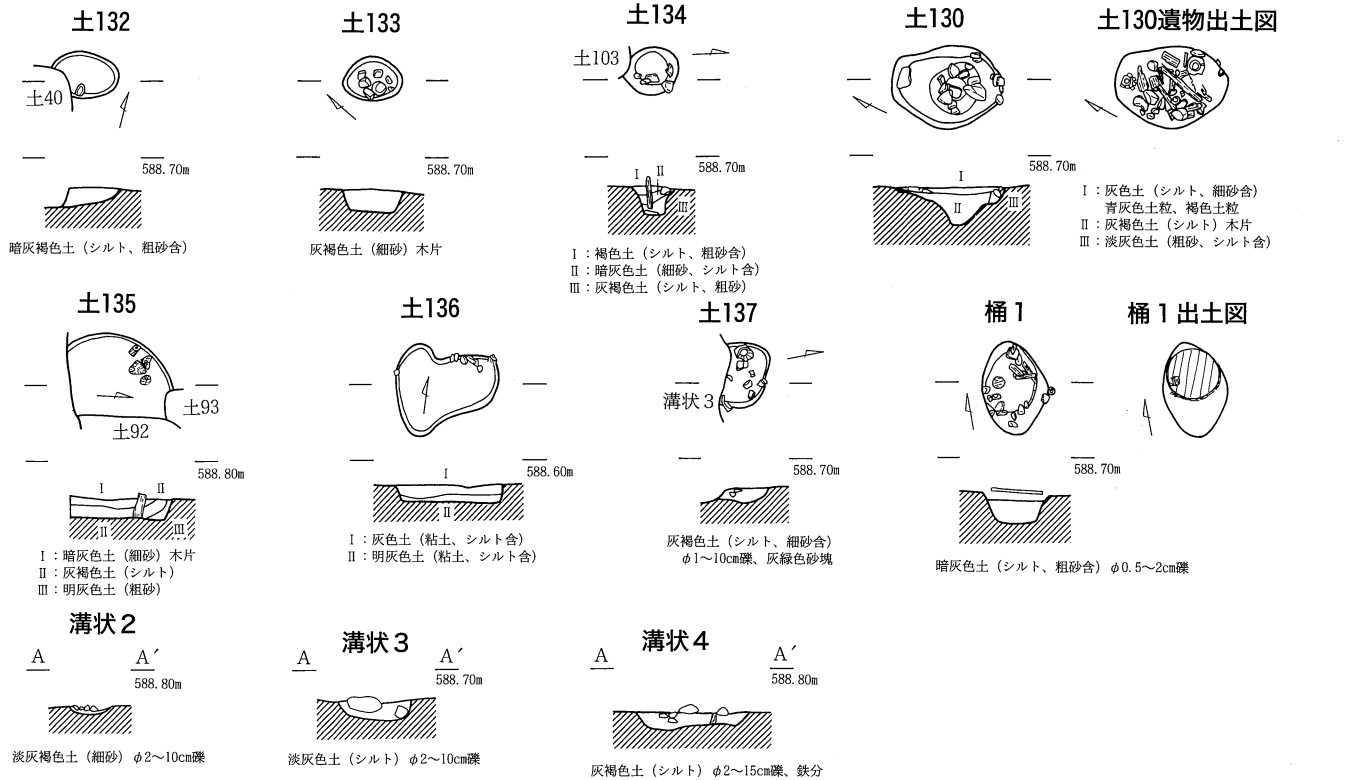


- I: 暗灰色土(細砂、粗砂含) 木片
 II: 灰色土(シルト、細砂) $\phi 3\text{cm}$ 礫
 III: オリーブ黒色土(細砂、粗砂含) $\phi 5\sim 8\text{cm}$ 礫
 IV: 暗灰色土(細砂、粗砂含) 木片、 $\phi 2\sim 3\text{cm}$ 礫

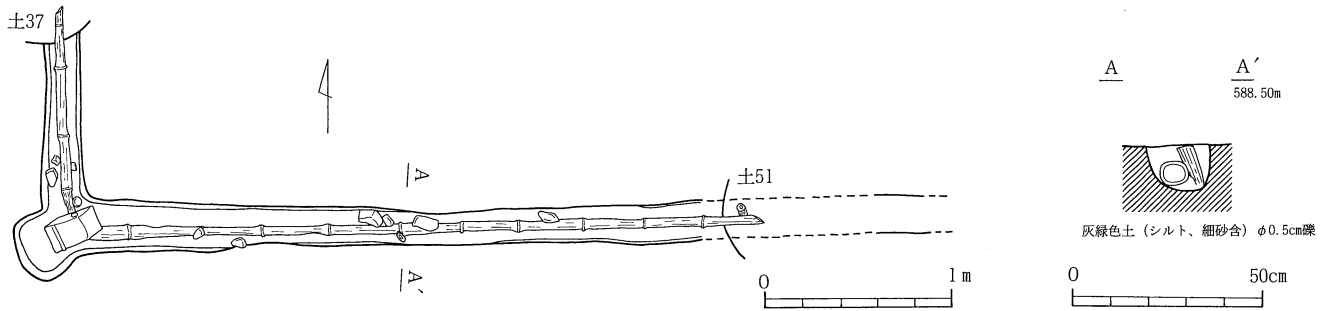




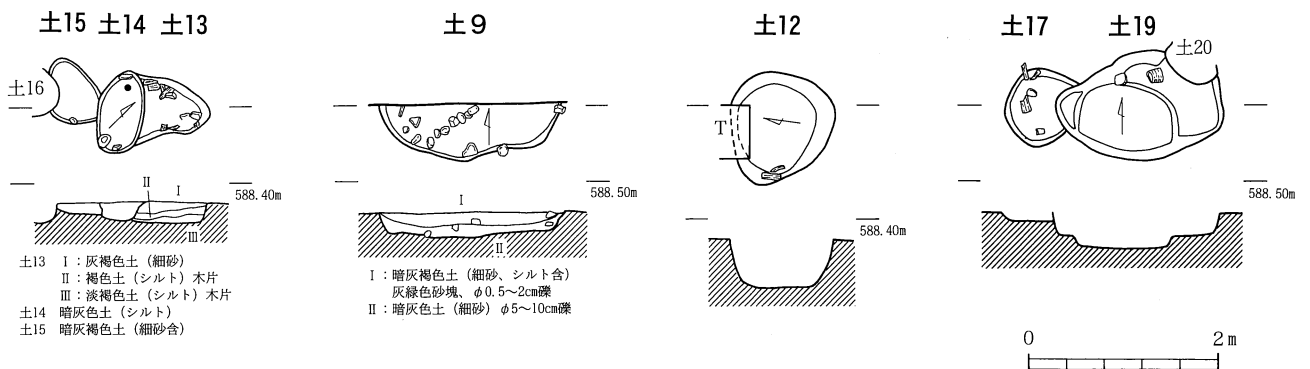
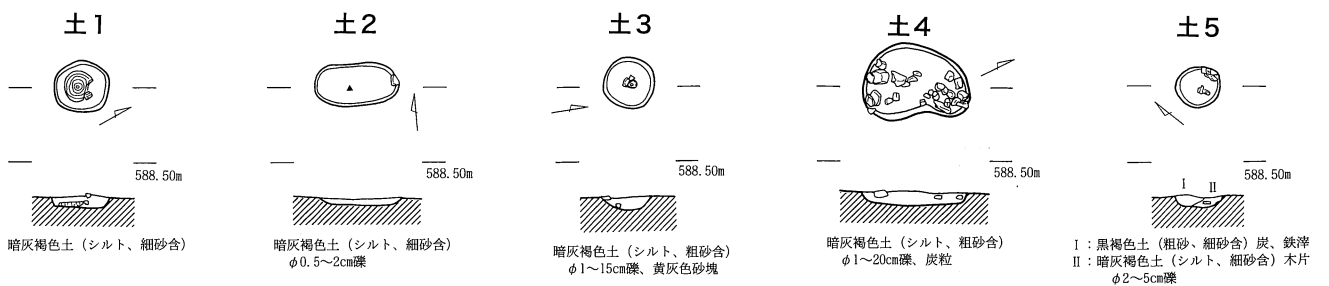
第12図 遺構(5)



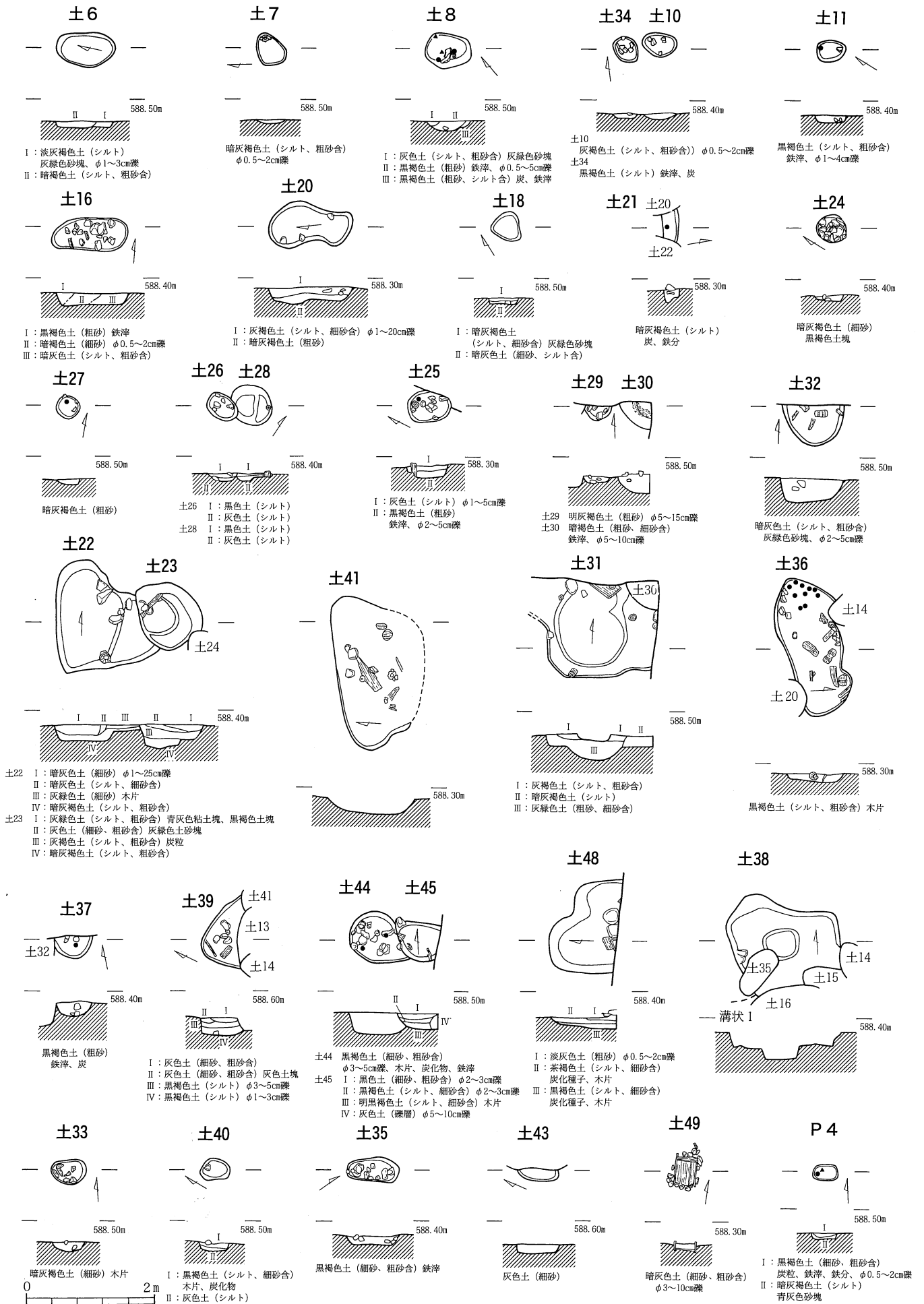
水道遺構 1



III 検



第13図 遺構(6)



第14図 遺構(7)

2 遺物

(1) 土器・陶磁器・土製品

今回の調査で出土した土器・陶磁器・土製品は、総計コンテナ28箱にのぼった。これらの出土総重量は、166.707kg（Ⅰ検：46.301kg、Ⅱ検：82.404kg、Ⅲ検：38.002kg）を測る（出土量平均：1㎡あたり591.6g）。このうち図示可能な512点の実測図を掲載した。これらの遺物の細かな観察は第2表で示したので、各検出面と全体の様相を以下に述べていく。

ア 第Ⅰ検出面の様相

Ⅰ検の実測個体数は228点である。種別は、陶器・磁器・瓦質土器がみられる。生産地は、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、常滑がみられる。肥前産は26点で全体の11.4%【内訳：陶器1点(0.4%)・磁器25点(11.0%)】である。これに対して瀬戸・美濃産は、128点で56.1%【内訳：陶器38点(16.7%)・磁器90点(39.4%)】を占め、Ⅰ検出土土器・陶磁器群の主体となっている。特に磁器製品では肥前産を大きく上回り、器種別においても食膳具の主体を占めている。瀬戸・美濃産の磁器製品は、染付方法が手書きのものに加え、型紙摺り・銅版転写のものも出土していることから、19世紀中頃から1870～80年代（明治20年代）までの時期設定が考えられる。その他では、京・信楽産は10点（4.4%）、常滑は1点（0.4%）、この他、産地不明の多量の埴塼や土師質・瓦質土器の焜炉・火鉢などが出土した。

イ 第Ⅱ検出面の様相

Ⅱ検では、197点の実測図を掲載した。種別は、陶器・磁器・瓦質土器・土器がみられ、産地は、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、常滑がみられる。年代観の上限は、瀬戸・美濃産の漆黒釉拳骨茶碗製品・灰釉鉄釉掛け分け製品などがみられることから1750～70年代以降と考えられ、下限は瀬戸・美濃磁器染付製品（炆器・磁器）の出土から19世紀中頃と推定される。産地別組成をみると、肥前産は65点（33.0%）【内訳：陶器4点（2.0%）・磁器61点（31.0%）】で、磁器製品の主体生産地となっている。これに対して、瀬戸・美濃産は99点（50.3%）【内訳：陶器91点（46.2%）・磁器8点（4.1%）】で、陶器製品が主体となっている。その他は、京・信楽産14点（7.1%）、常滑産2点（1.0%）、在地産土器（皿）5点（2.5%）、瓦質土器3点（1.5%）がみられる。全体組成での特徴をみると、陶器製品は瀬戸・美濃産、磁器製品は肥前産という種別により産地が固定している状況で、両生産地で全体量の78%を占める。

ウ 第Ⅲ検出面の様相

Ⅲ検では83点の実測図を掲載した。種別は、陶器・磁器・土器である。産地別にみると、瀬戸・美濃、肥前、在地産がみられる。瀬戸・美濃製品は、大窯期のものは1点のみで、ほぼ連房期以降の製品で構成される。肥前産は、磁器製品の他に、京焼風肥前陶器などの陶器製品も若干量出土している。これらの様相から、Ⅲ検は17世紀前半～18世紀前半の年代が推定できる。産地別の組成は次の通りである。瀬戸・美濃産は陶器製品のみで、42点（50.0%）出土した。肥前産は28点（33.3%）【内訳：陶器10点（11.9%）・磁器18点（21.4%）】である。京・信楽産は1点のみ（1.2%）、在地産土器皿は11点（13.1%）である。

エ 陶磁器の産地別出土傾向について

各検出面の産地別組成を集計し、出土傾向を第1表に示した。これをみると、常に高い割合で安定的に流通していたのは瀬戸・美濃産の製品であることが明らかである。各検出面においては全体量の50%を越えている。碗・皿などの食膳具をはじめ、挿鉢・練鉢などの鉢類では瀬戸・美濃産がほぼ独占する。特にⅡ・Ⅲ検段階で肥前産が独占していた磁器類において、Ⅰ検の段階では瀬戸・美濃産が独占ようになる。これに対して肥前産は、Ⅱ・Ⅲ検の段階では3割強の流通がみられたものの、Ⅰ検では1割ほどに減少している。急激に減少した背景は、京・信楽産の増加や、瀬戸・美濃における磁器生産の開始などが考えられる。明治期では、瀬戸・美濃染付製品がさらに増加し、肥前産磁器製品は減少の一途を辿る。京・信楽系は、18c後

～19c前にかけて僅かに増加しているが、近畿地区のように出土陶磁器での主体製品とはならない。このような状況は、概ね長野県の中・南信地区では同様の傾向にあるが、東・北信においては肥前産の日常雑器製品（搦鉢など）が一定量流通しており、長野県の北と南では異なった様相を示している。

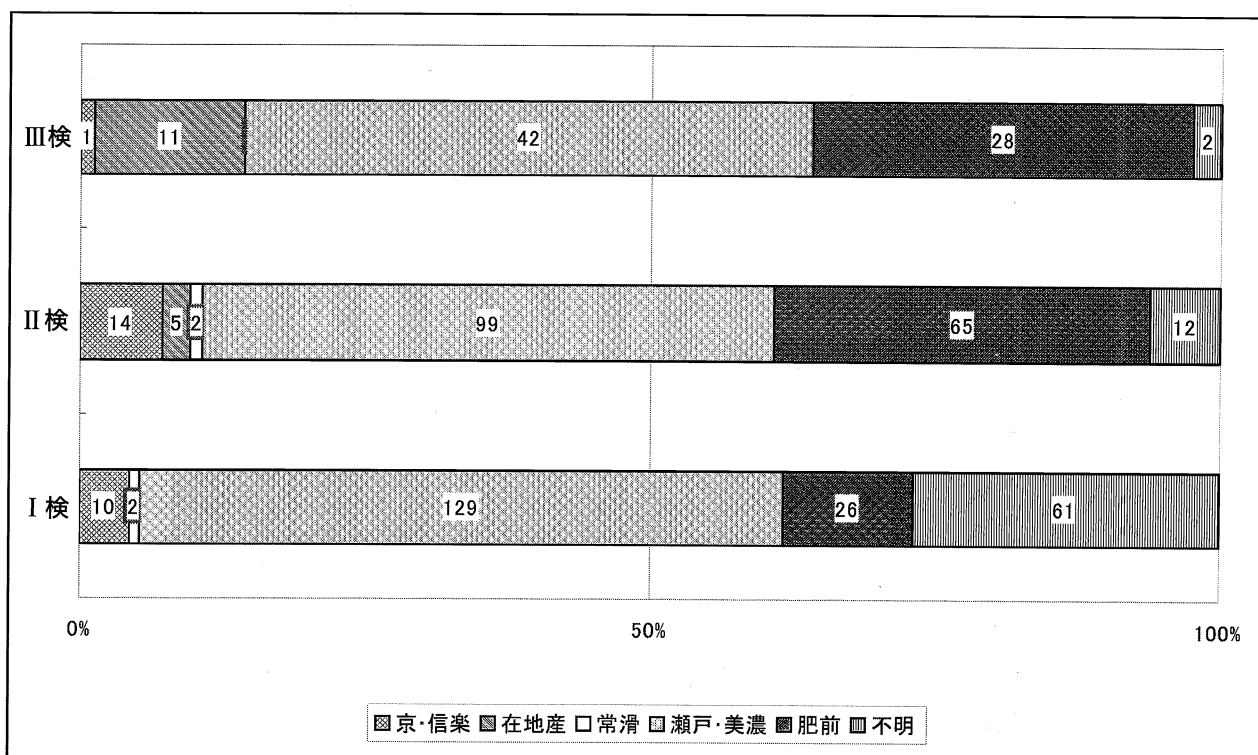
オ 埴塙

器面が被熱し、金属滓が多量に付着しているものを埴塙とした。総点数57点を数える。これらは、碗・小杯・湯呑碗などを転用したもの（464～478・496・497・499）と、埴塙専用器と考えられるもの（458ほか）に大別される。後者は陶製で、底径が小さく、上方に向けて僅かに内湾しながらハの字状に開く。法量は、底径が3.2～4.0cm、口径は6.0～7.0cm、器高4.8～5.7cmを測る。これらの生産地は不明である。

カ 韃羽口

土坑を中心に、総量51.081kg、破片数152点（101個体以上）が出土した。完形品はなく、すべて炉側先端部あるいはその付近の破片資料である。いずれも先端部には金属滓が多量に付着しており、橙色から灰色に変色した被熱痕が顕著に確認できる。形態は、外径8.5～9.5cm（平均9.0cm）、通風孔径1.7～2.4cm（平均2.1cm）のもので、器面調整は指ナデ・板状工具ナデにより調整されている。胎土は、石英粒・長石粒・堆積岩粒を含んでおり非常に粗い。

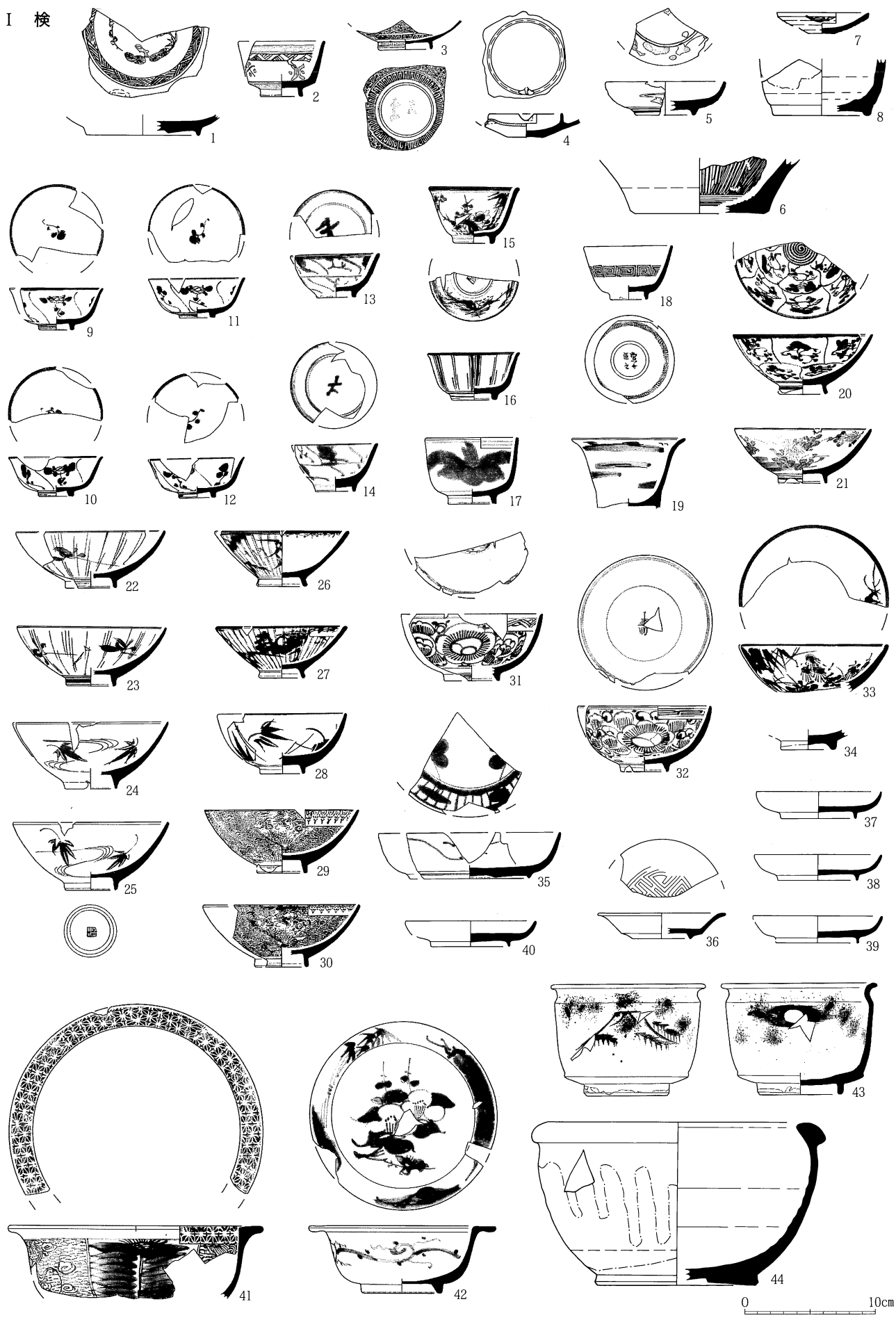
第1表 土器・陶磁器産地別組成一覧



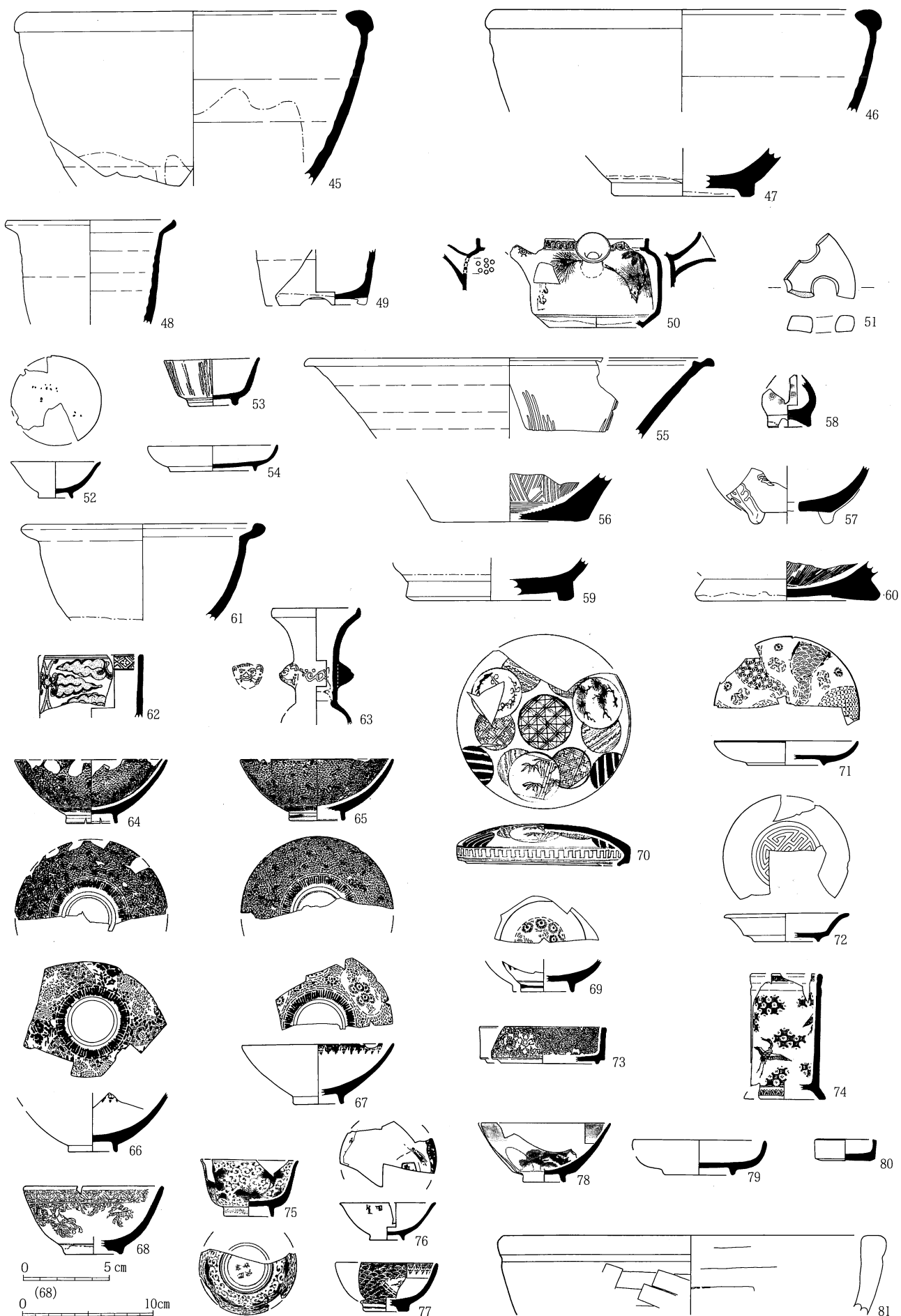
データの個数 / 種別	推 定 産 地						総計
	京・信楽	在地産	常滑	瀬戸・美濃	肥前	不明	
第 I 検出面	10	0	2	129	26	61	228
第 II 検出面	14	5	2	99	65	12	197
第 III 検出面	1	11	0	42	28	2	84
総計	25	16	4	270	119	75	509

※産地不明の中には、埴塙が含まれている。

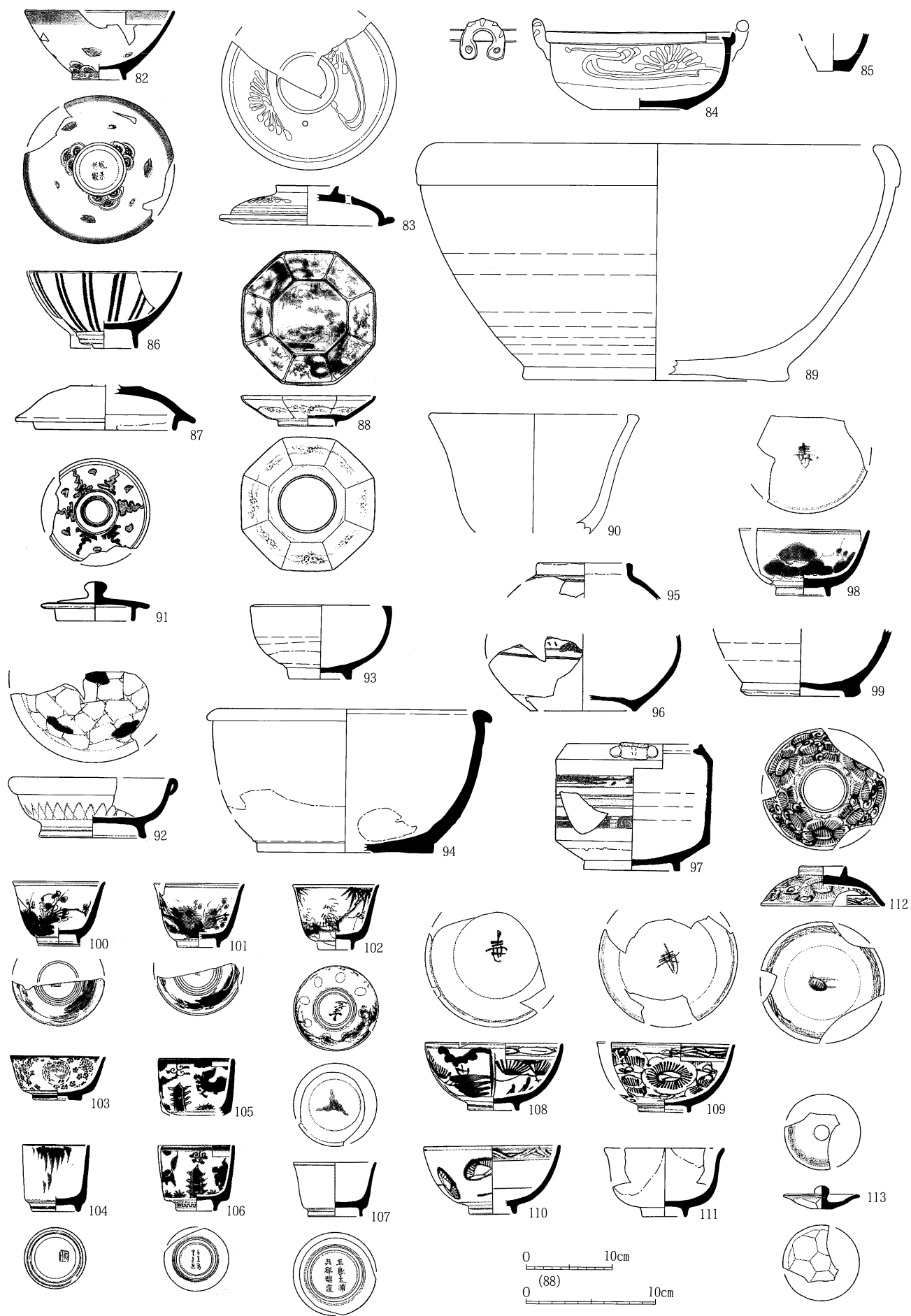
I 検



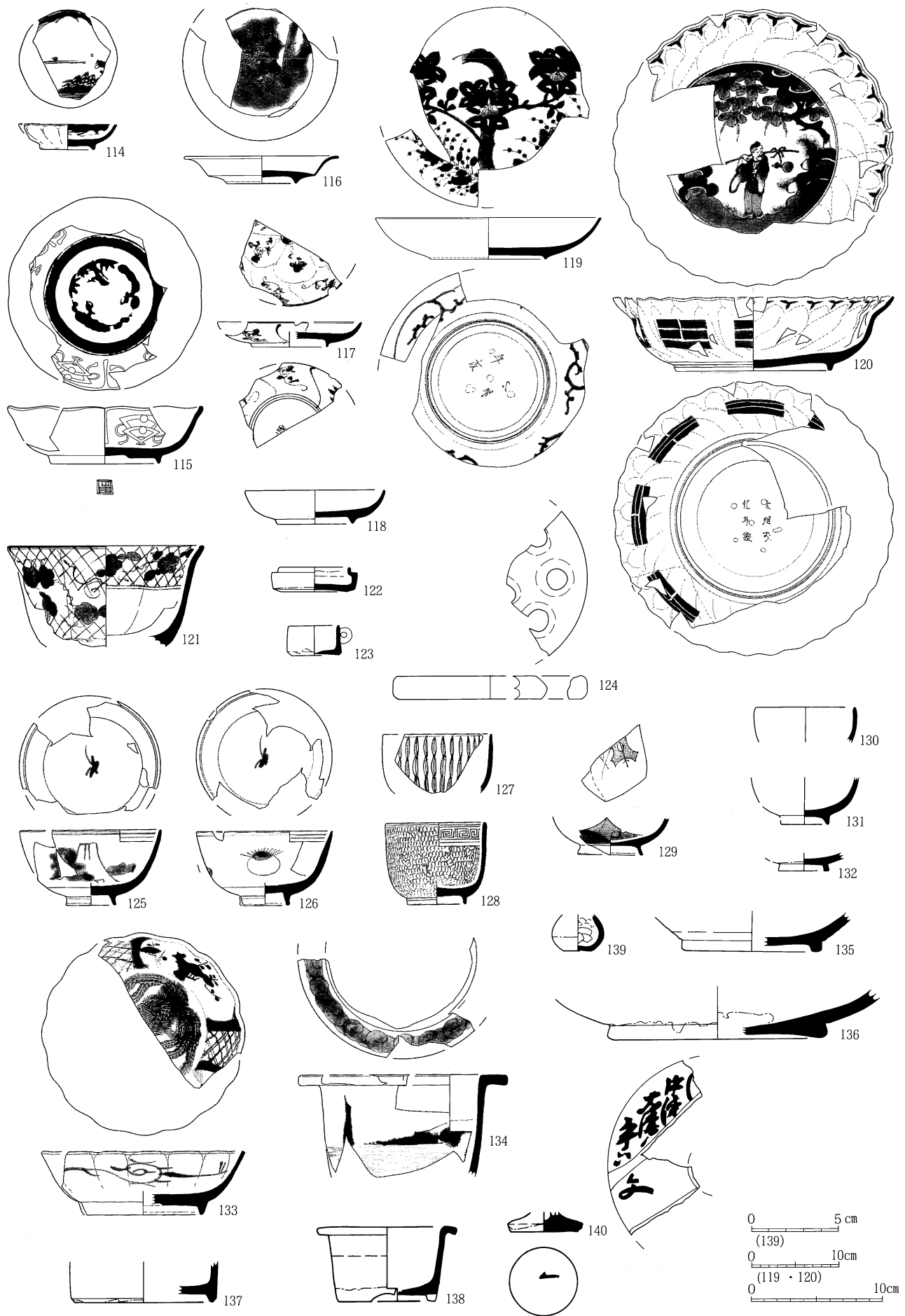
第15図 土器・陶磁器(1)



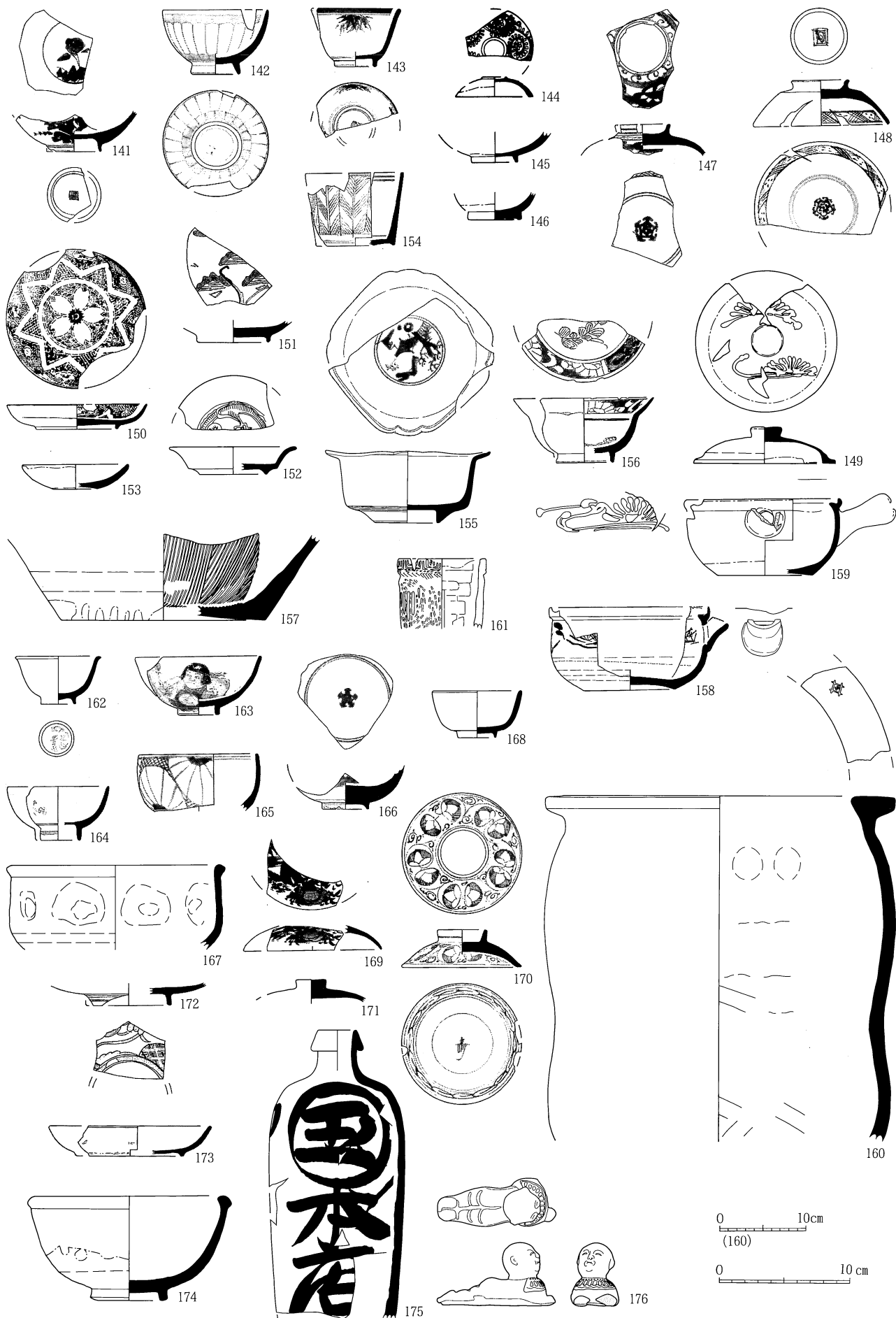
第16图 土器·陶磁器(2)



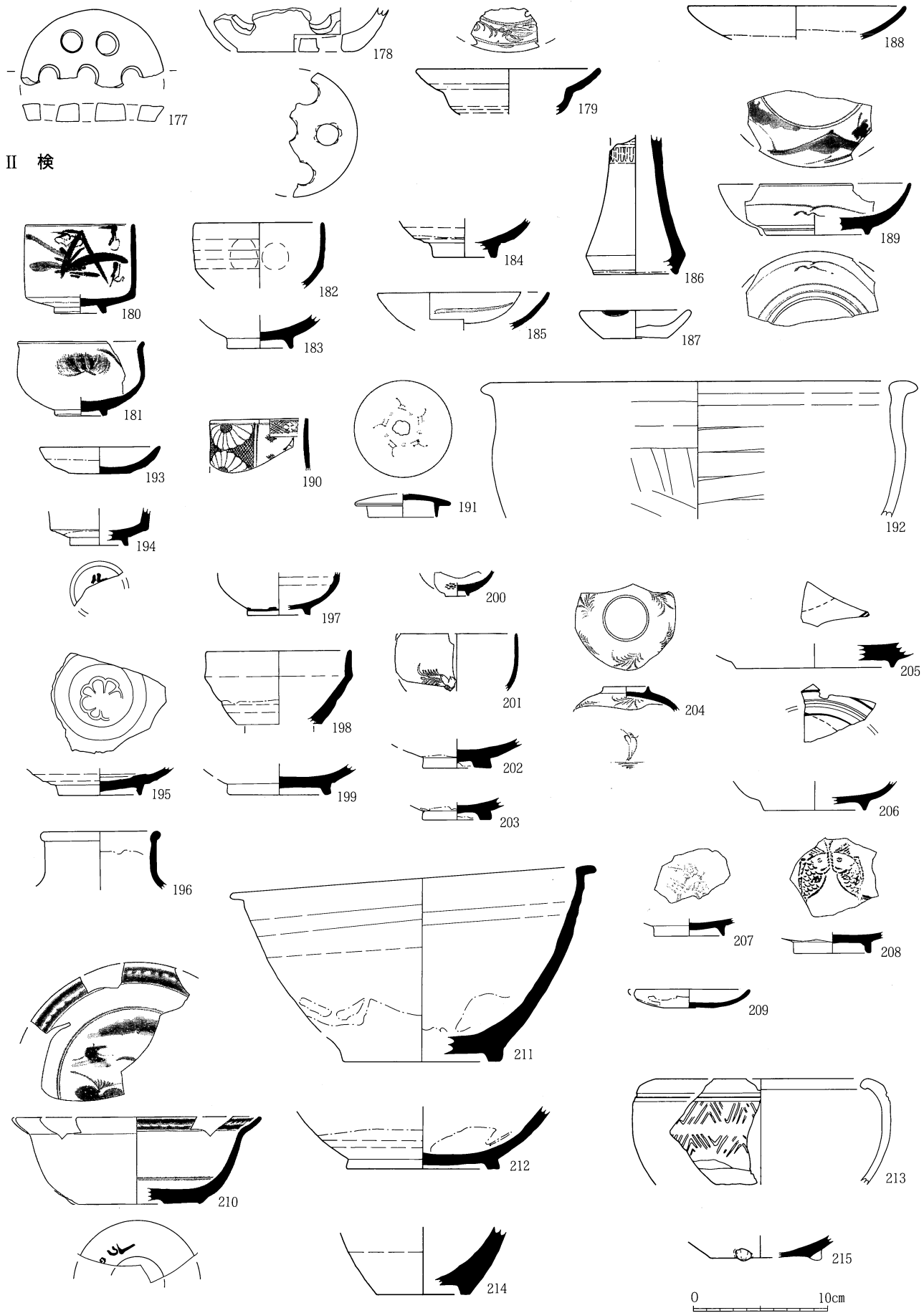
第17图 土器・陶磁器(3)



第18图 土器·陶磁器(4)



第19图 土器・陶磁器(5)

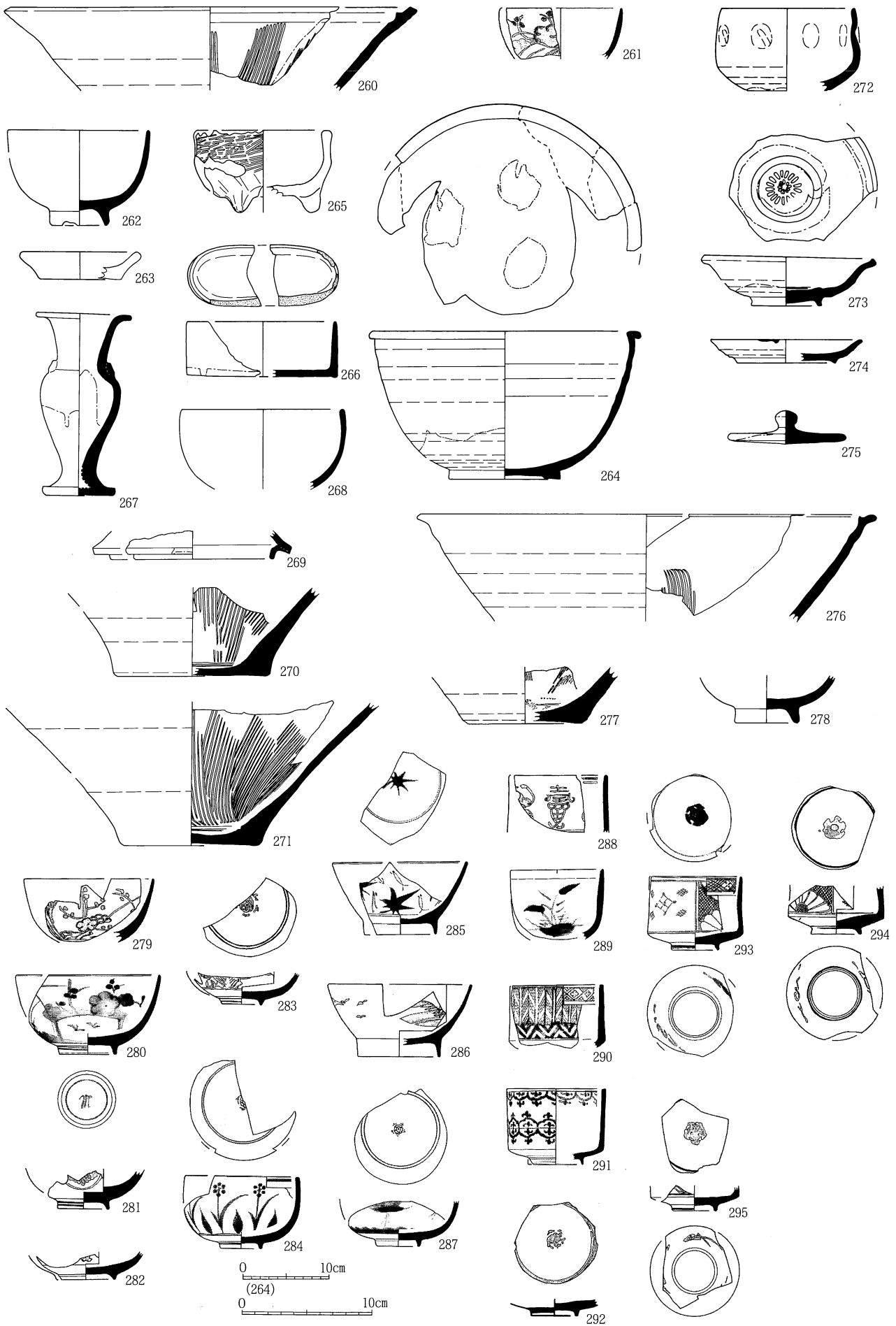


II 検

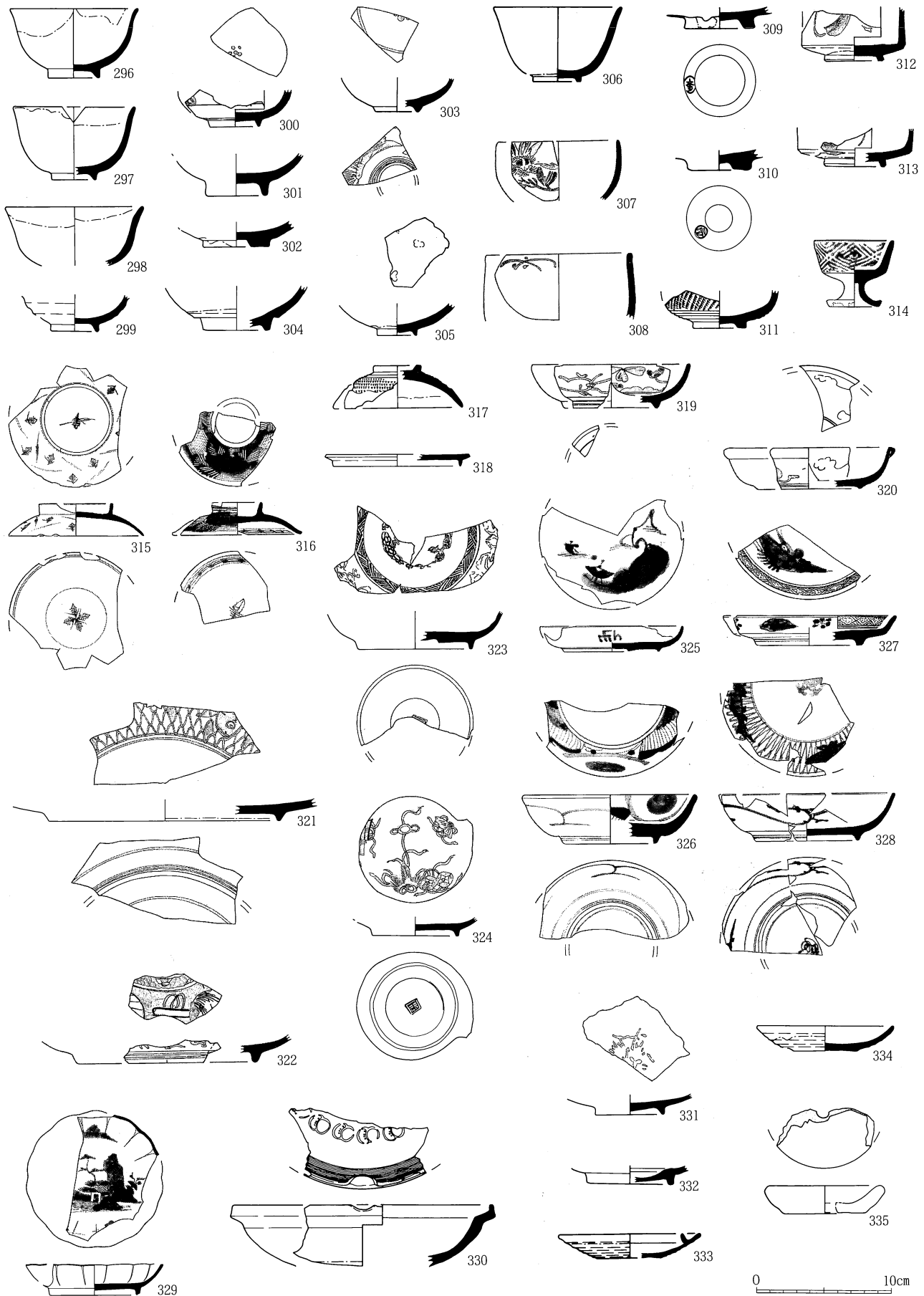
第20図 土器・陶磁器(6)



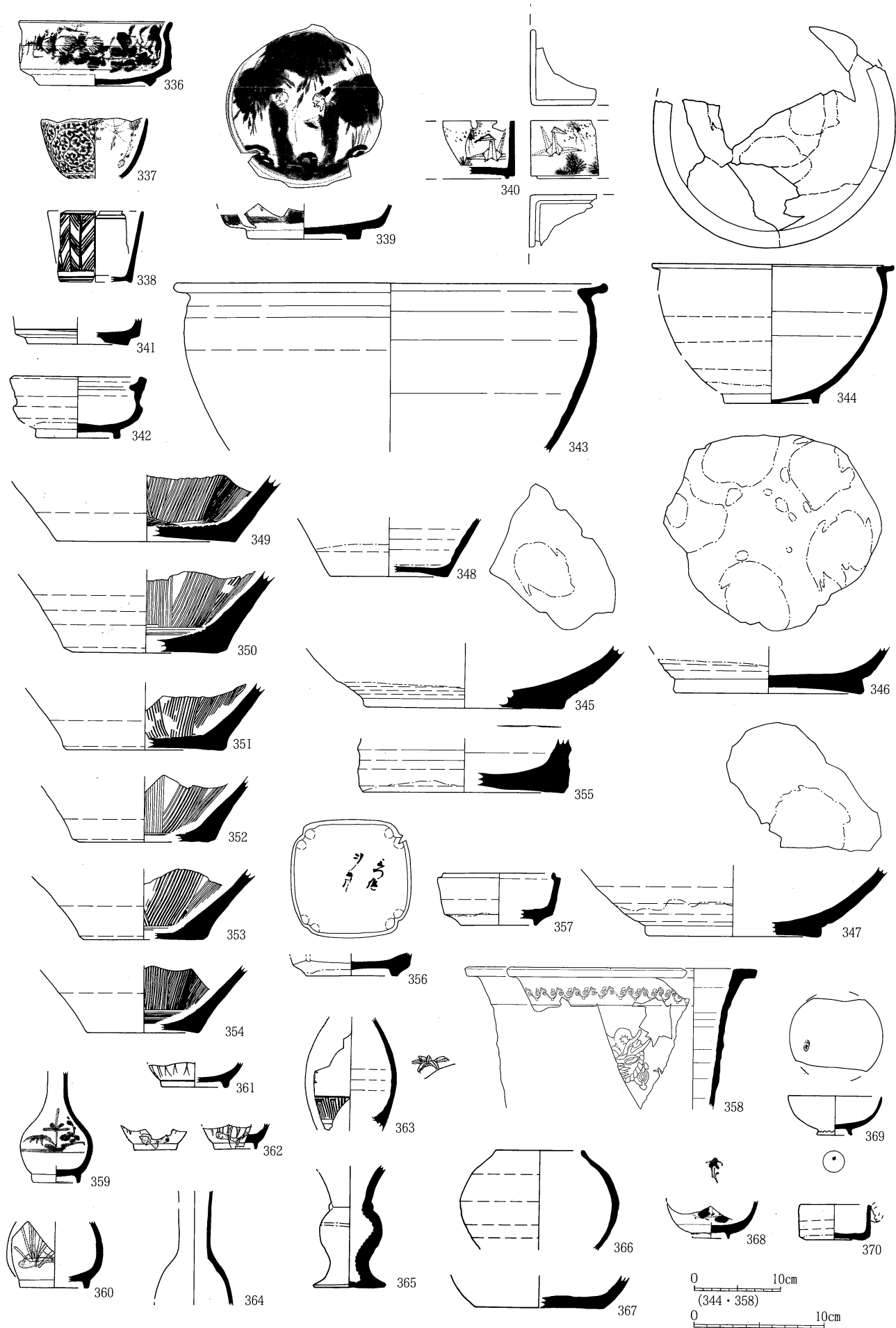
第21图 土器・陶磁器(7)



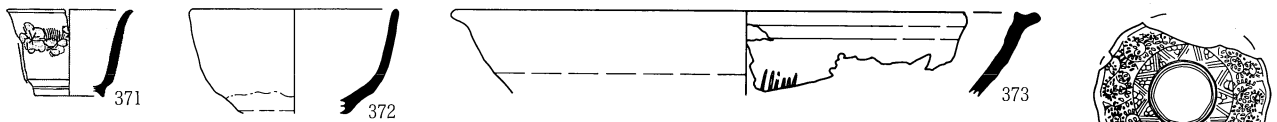
第22图 土器・陶磁器(8)



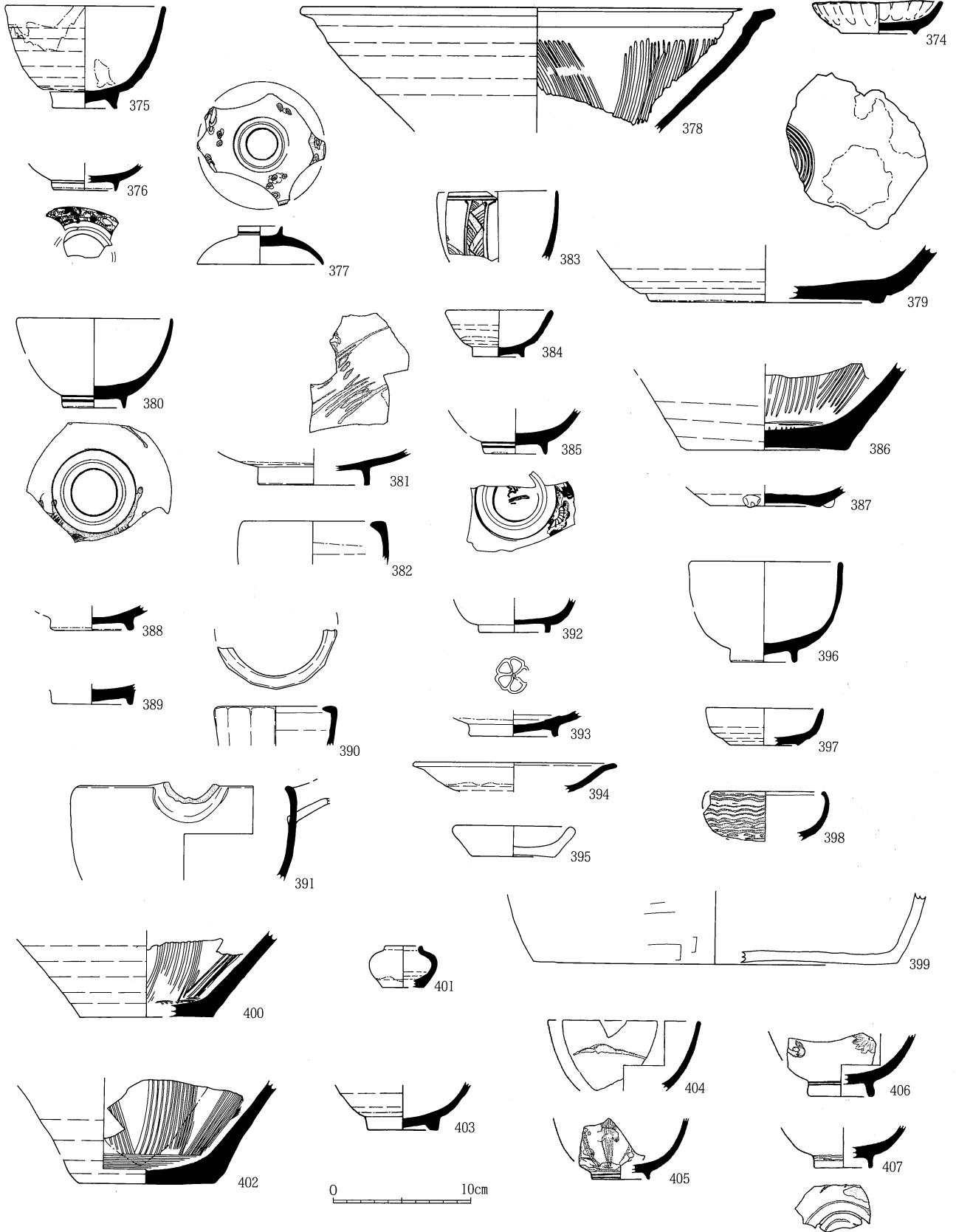
第23图 土器・陶磁器(9)



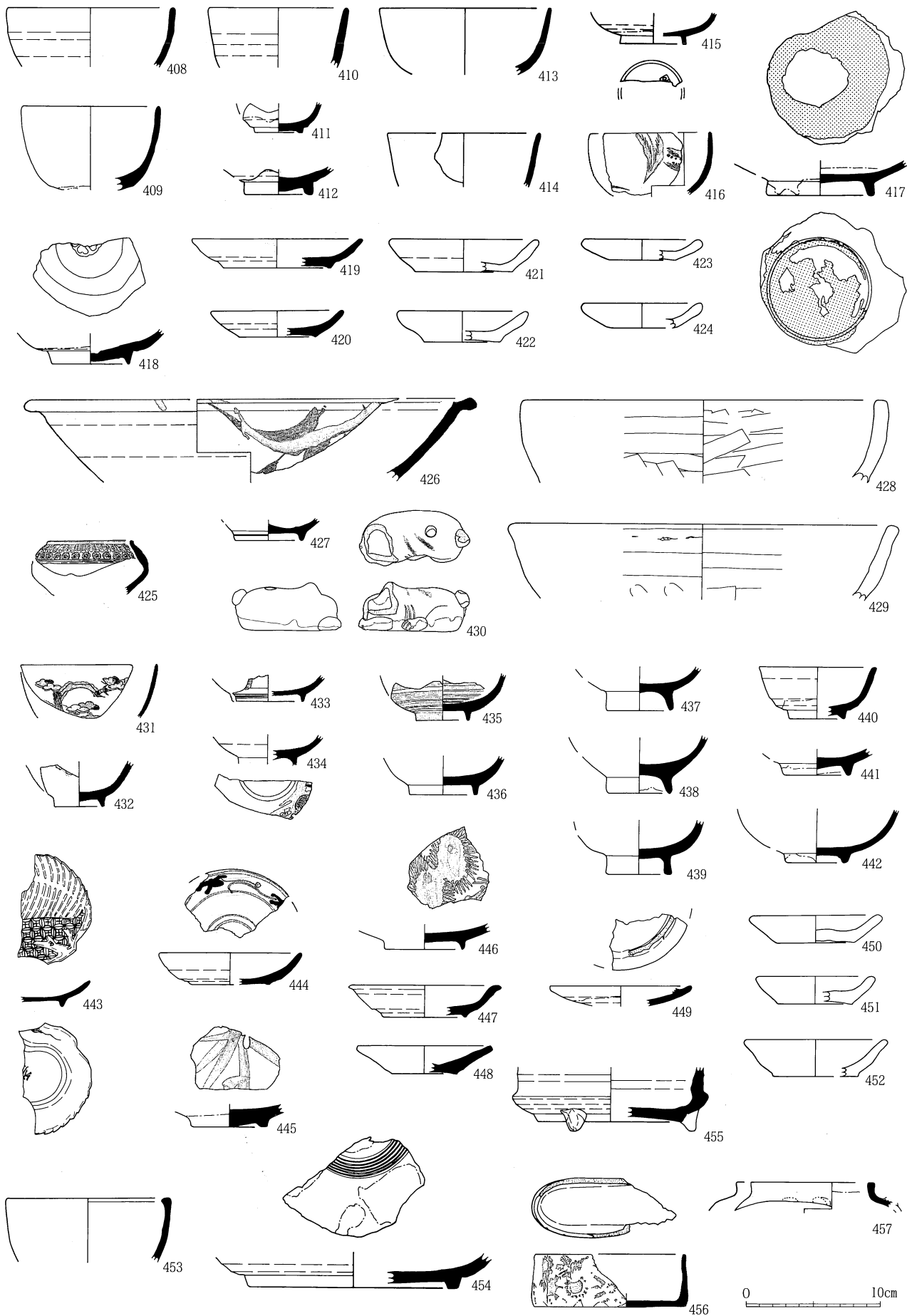
第24图 土器・陶磁器(10)



III 検



第25図 土器・陶磁器(11)

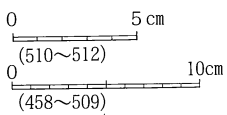
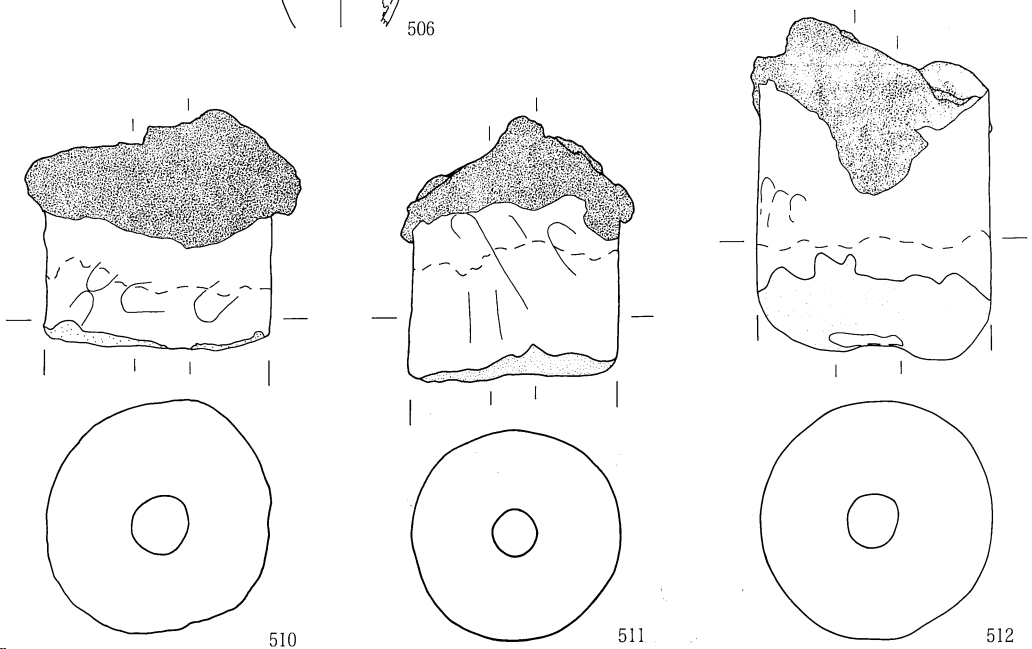
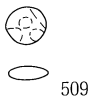


第26图 土器・陶磁器(12)

埴 塙



土 製 品



第27図 土器・陶磁器(13)

(2) 木製品

今回の調査では、木製品142点が出土した。このうち残存状況が悪く実測不可能な26点を除く計116点を図化して掲載した。このうち漆器は36点、木器は80点である。器種は、曲物・円板・下駄・栓・櫛・膳・柄杓・箸・椀などがみられる。Ⅰ～Ⅲ検を通じて多く出土した器種は、下駄37点(31.9%)、円板25点(21.5%)、漆椀12点(10.3%)である。以下、検出面ごとに概要を述べていく。

ア 第Ⅰ検出面

下駄と栓の2点(1・2)が出土した。下駄は台楕円形連歯下駄、栓は円錐台形を呈するもの。

イ 第Ⅱ検出面

計46点が出土した。器種は、円板・曲物・曲物蓋・柄杓・椀・蓋・膳・櫛・下駄・栓・箸・水道遺構継手・不明品など食器・調度品・その他の道具類など多種に及ぶ。

(ア) 円板

最も多く出土したのは、曲物の底板と考えられる円板で13点を数える。このうち漆器の円板は4点(6・10・23・46)、その他は木器である。これらは径により3種(1～3群)に分けられる。1群は径27.0～33.0cmを測る大形品で、6・21が該当する。2群は径16.2～22.0cmを測るもので、17・32・42・29が該当する。3群は径7.2～13.1cmの小形のもので、10・23・28・38・31・44・46が該当する。

(イ) 漆椀

2点(22・39)出土した。39は内外両面とも朱漆の上に黒漆を重ね塗りしているものである。22は内面が朱漆、外面に黒漆が塗られている。

(ウ) 漆器蓋類

6点出土している。3・8・11・12は椀蓋である。8・12には外面に文様が描かれている。

(エ) 下駄

7点出土した。台方形連歯下駄5点、台楕円形連歯下駄2点がみられる。すべて連歯下駄で差歯下駄はみられない。35は、前歯部に釘による補修した痕跡が3箇所残る。

(オ) 櫛

3点(7・15・41)出土した。いずれも平面形は蒲鉾形を呈するもので、棟部が円形のもの(15)と方形のもの(7・41)がある。

ウ 第Ⅲ検出面

計68点出土した。器種は、円板・曲物・蓋・柄杓・椀・箸・下駄・刃類の柄・把手などがみられる。

(ア) 下駄

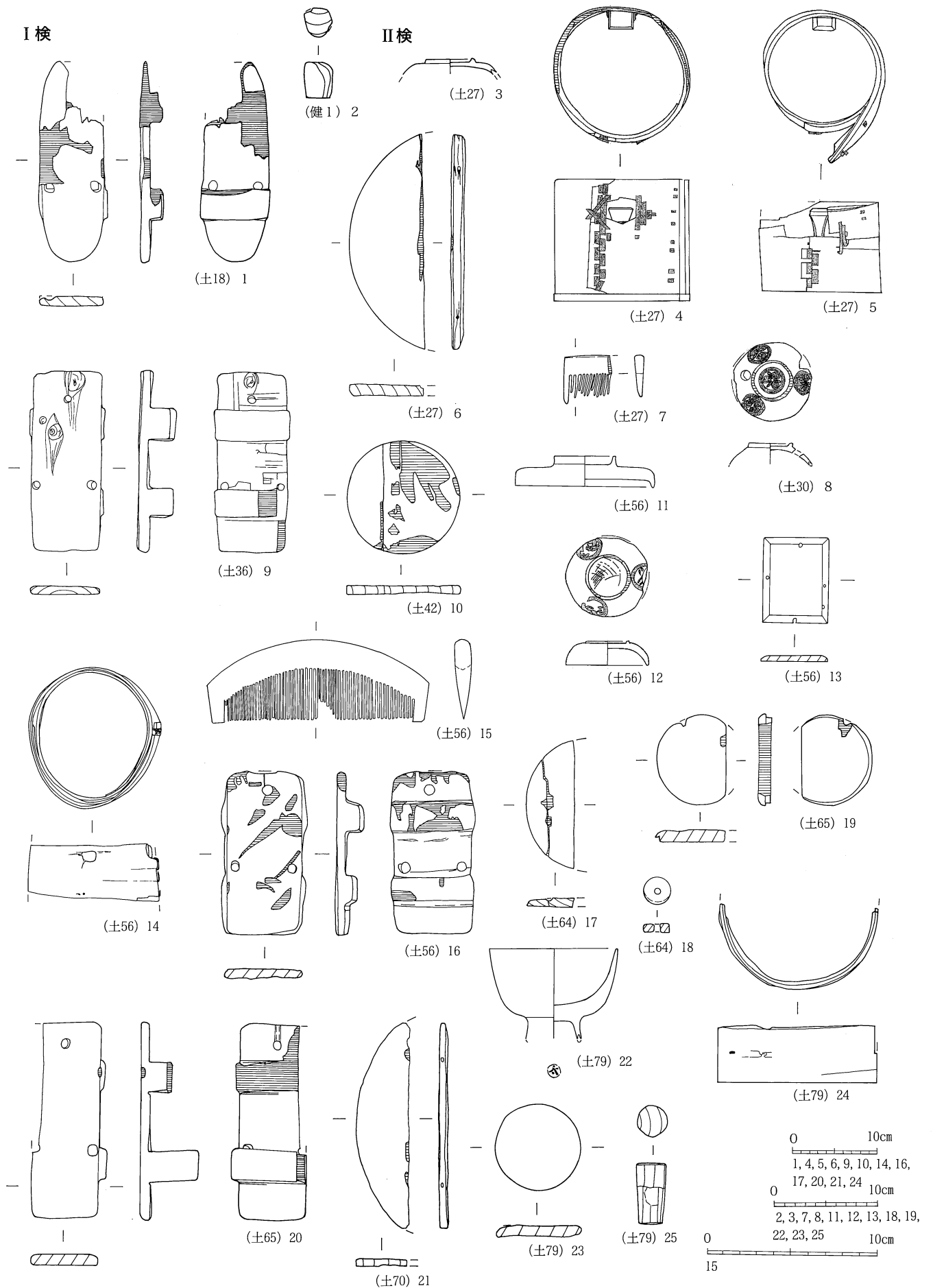
Ⅲ検出土量の約4割を占める計27点が出土した。ほとんどが連歯下駄であるが、89のみ差歯下駄(露卯下駄)である。台部形状では、台楕円形のもの(9点)と台方形のもの(18点)がみられる。

(イ) 椀

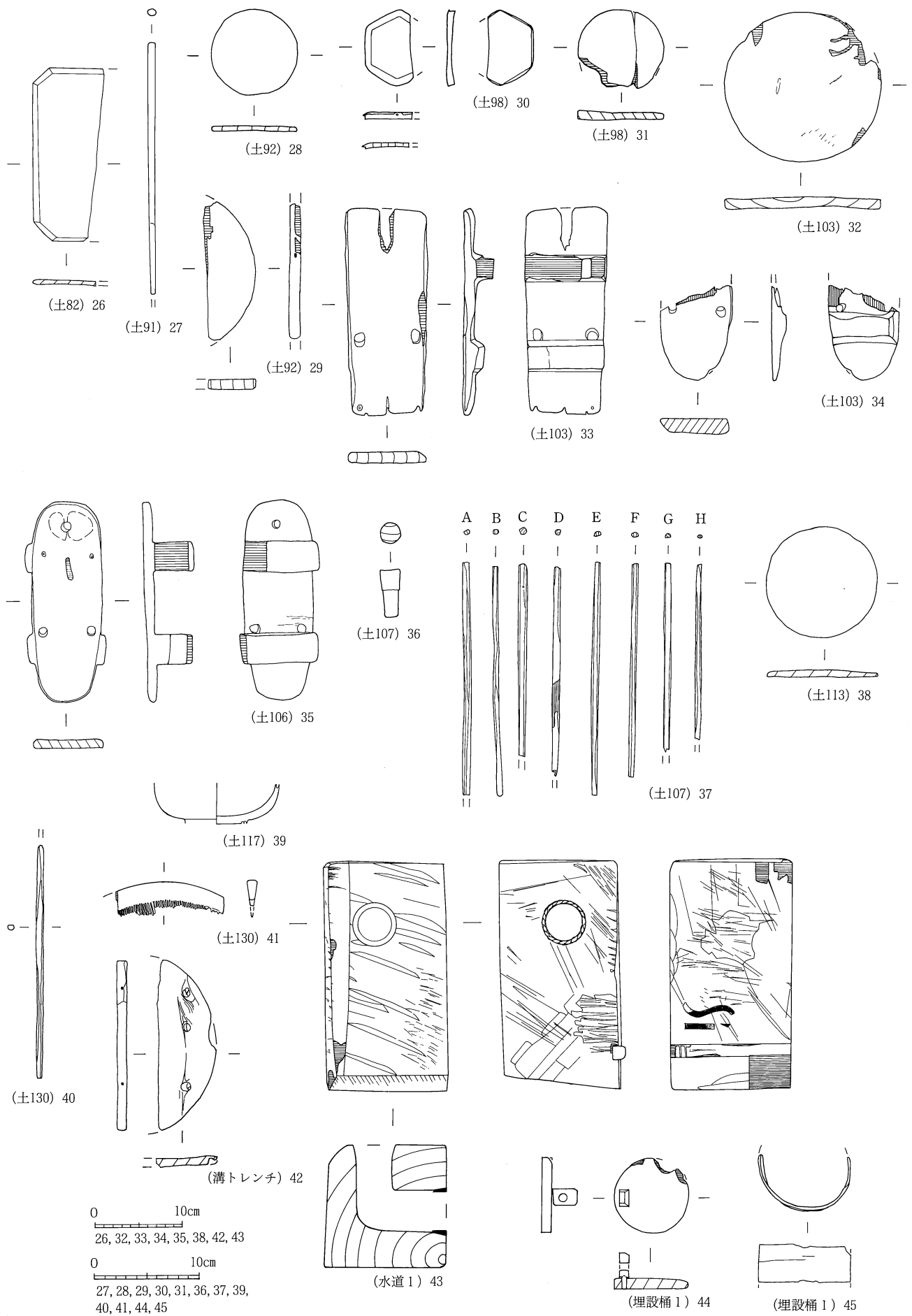
計10点出土した。漆の塗り重ね方法により、3種類(①～③)に分類できる。①は、内外面ともに黒漆の上に朱漆を重ね塗りしているもので、8点(52・58・63・65・72・84・102・109)出土した。このうち109は外面に文様が残っている。②は、内面が黒漆の上に朱漆、外面は黒漆の上に朱漆で文様が描かれているもので、1点(73)出土している。③は、内外両面ともに黒漆のみで仕上げられているもので、1点(82)出土した。

(ウ) 曲物

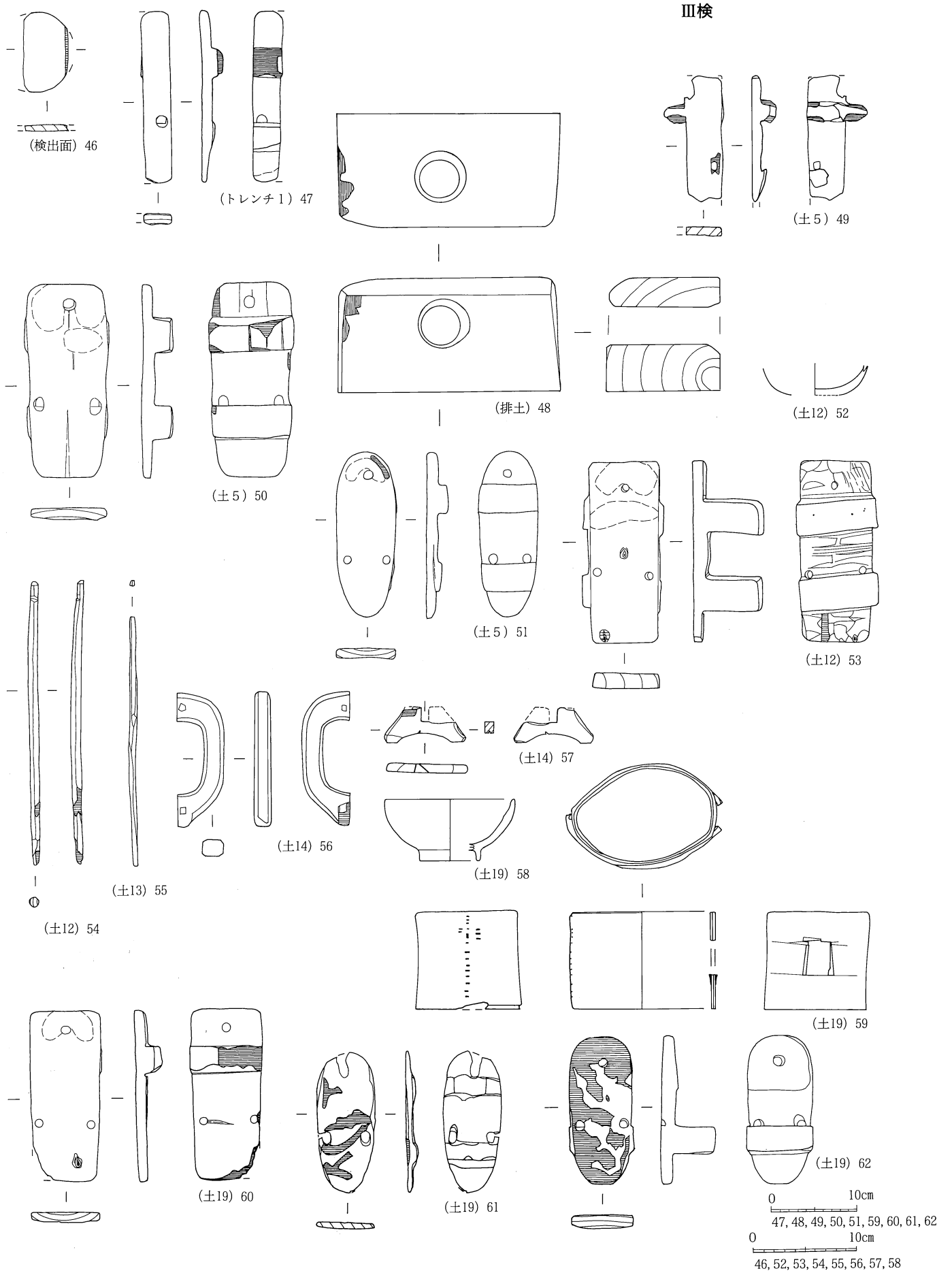
総計3点出土した。いずれも著しく破損しており、112・116は原形復元が非常に難しい状態である。59は、内面の側板接続部分に黒漆、外面には朱漆が塗られていた。



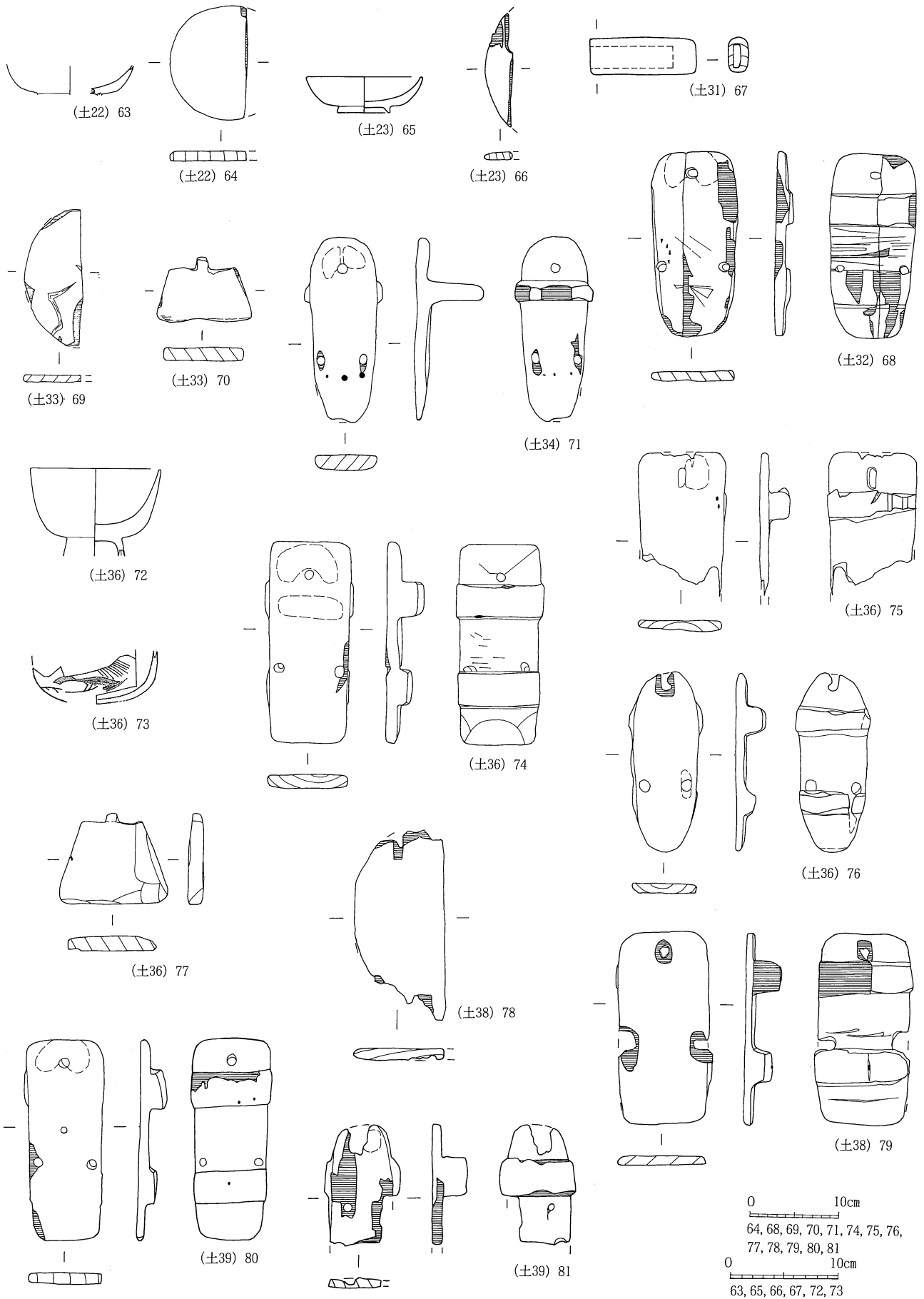
第28図 木製品(1)



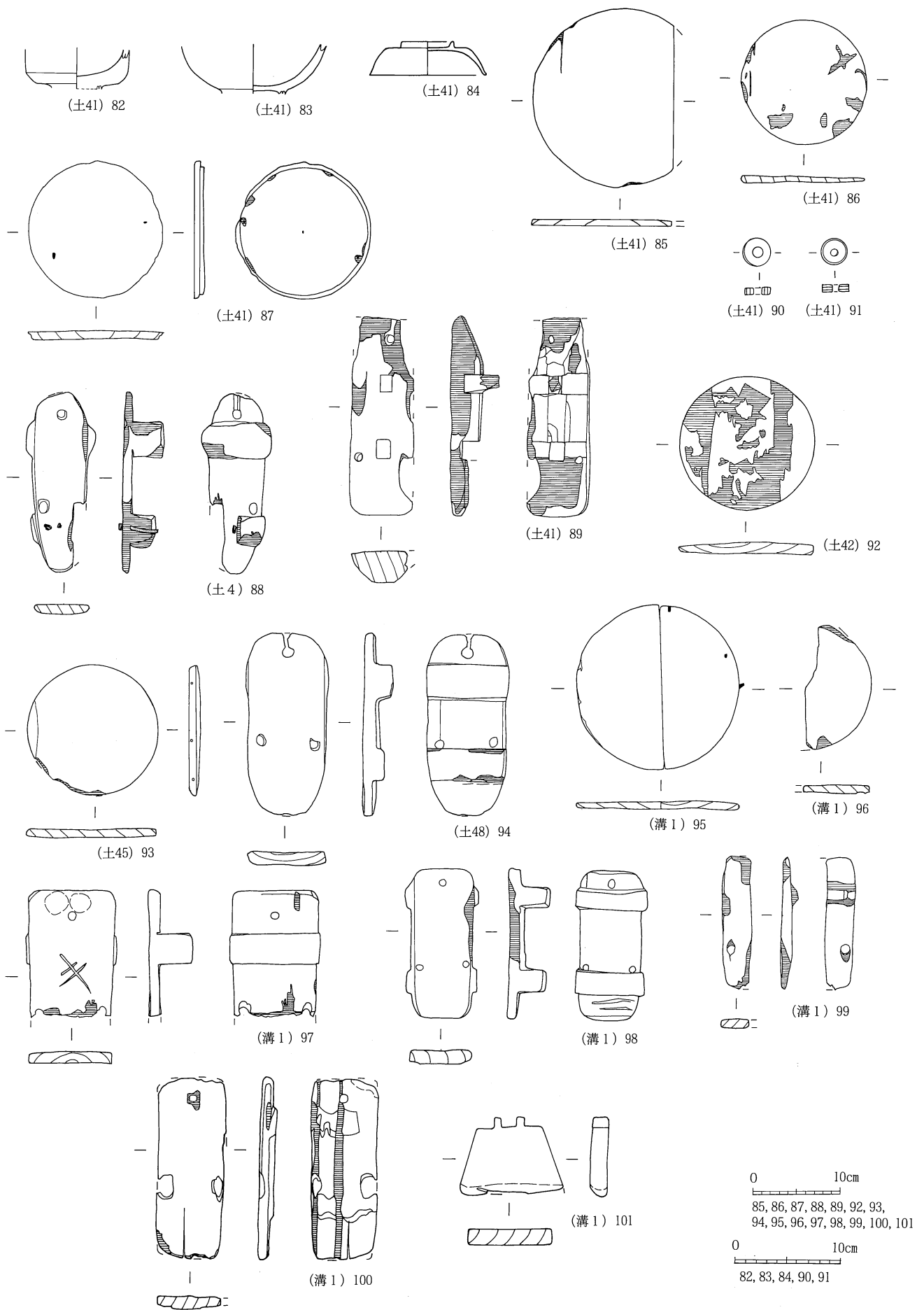
第29図 木製品(2)



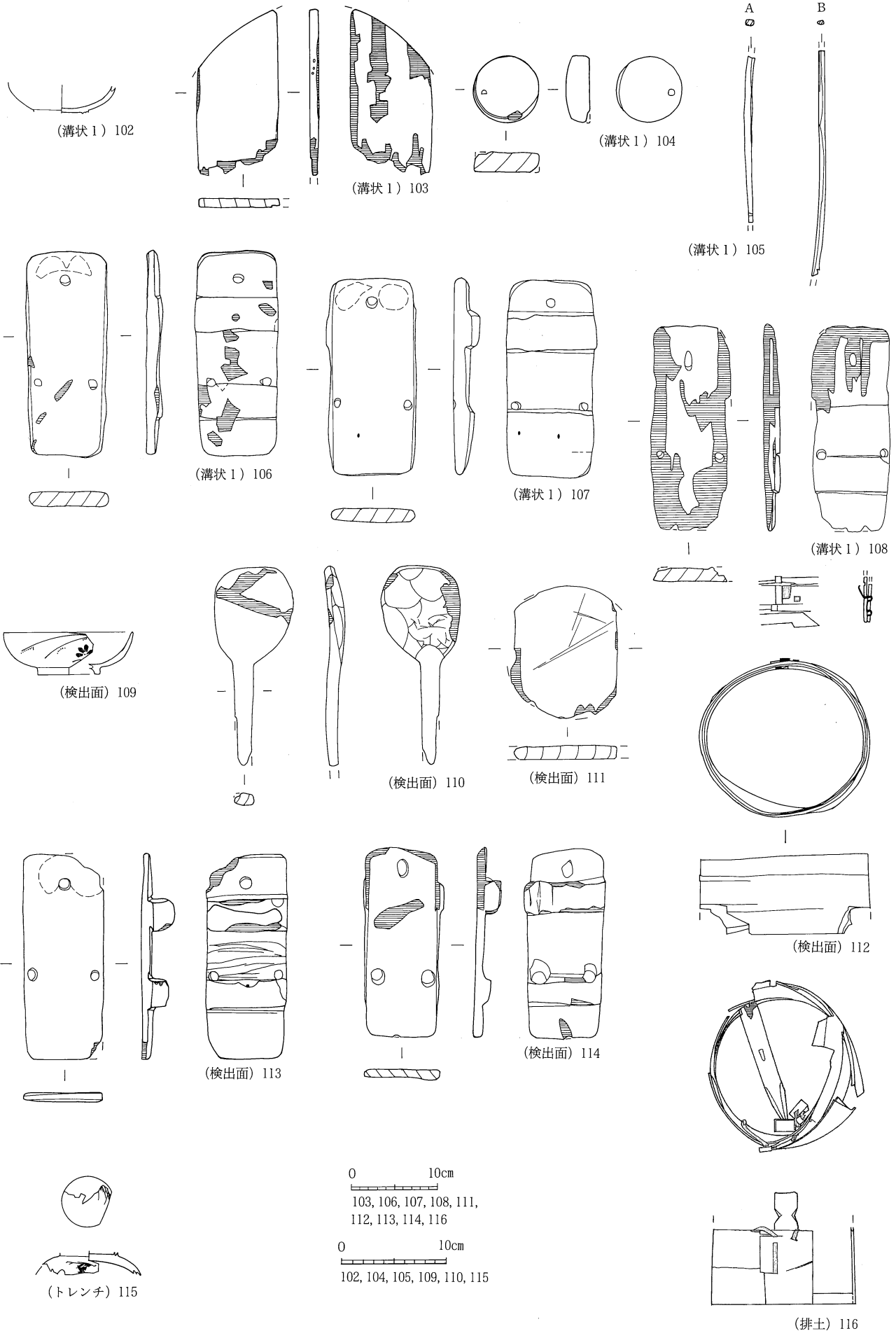
第30図 木製品(3)



第31図 木製品(4)



第32図 木製品(5)



第33図 木製品(6)

第2表 土器・陶磁器・土製品一覧表

No.	検	出土地点	実測No.	注 記	種 別	器 形	法 量 (cm)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	釉 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
1	I	I-±2	±2-1	±2-055, ±44-065	磁器	皿		(8.6)		内面見込部に楡垣文・松竹梅文、蛇の目凹型高台、口縁内面陽刻	淡灰	透明	18c	肥前
2	I	I-±5	±5-1	±5-057	磁器	小碗	(6.6)	(3.2)	4.2	外面に赤絵(楡垣文ほか)	白	透明	19c前	瀬戸・美濃
3	I	I-±8	±8-1	±8-058, ±37-088	磁器	碗			3.9	コバルト呉須、銅版転写、底裏に焼継時の文字	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
4	I	I-±11	±11-1	±11-059	陶器	灯明受皿	3.0			立上がり部にV字状の切り込み1箇所あり	褐	錆	19c前	瀬戸・美濃
5	I	I-±12	±12-2	±12-060	磁器	皿	(9.1)	(4.3)	2.6	見込部に五弁花文、波に見産か	灰	透明	18c前	肥前
6	I	I-±12	±12-1	±12-060	陶器	擂鉢		(10.0)			黄灰	鉄	18c前	瀬戸・美濃
7	I	I-±15	±15-2	±15-005	陶器	皿	(6.9)	2.1	1.6	口縁端部に煤付着	暗灰	灰	19c	瀬戸・美濃
8	I	I-±15	±15-1	±15-061	陶器	徳利		(7.0)			淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
9	I	I-±18	±18-53	±18-062, 063	磁器	小杯	(7.2)	2.5	3.1	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
10	I	I-±18	±18-54	±18-062	磁器	小杯	(7.2)	(2.5)	3.1	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
11	I	I-±18	±18-52	±18-062	磁器	小杯	(7.2)	2.5	3.1	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
12	I	I-±18	±18-55	±18-062, 063	磁器	小杯	(7.2)	2.5	3.1	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
13	I	I-±18	±18-47	±18-062	磁器	小杯	(6.2)	(2.8)	3.3	コバルト呉須	白	透明	19c後	不明
14	I	I-±18	±18-49	±18-062, 063, ±19-007	磁器	小杯	(6.6)	(2.8)	3.5	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
15	I	I-±18	±18-48	±18-062	磁器	小杯	(6.8)	(3.0)	4.4	コバルト呉須、竹・梅文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
16	I	I-±18	±18-51	±18-062	磁器	小杯	6.7	3.1	3.6	コバルト呉須、麦藁手	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
17	I	I-±18	±18-43	±18-062, ±19-007	磁器	小杯	6.9	3.3	5.0	型打成形外面草文陽刻・呉須によるダミ	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
18	I	I-±18	±18-57	±18-062	磁器	小杯	(6.6)	2.7	4.1	胴部中央に呉須・緑色の雷文、底裏銘あり	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
19	I	I-±18	±18-59	±18-062	磁器	小杯	8.5			山水文	白	透明	19c前	肥前
20	I	I-±18	±18-56	±18-062	磁器	碗	(10.6)	(3.4)	4.6	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
21	I	I-±18	±18-41	±18-062	磁器	碗	10.2	3.4	4.2	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
22	I	I-±18	±18-45	±18-062	磁器	碗	(11.4)	(3.6)	4.3	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
23	I	I-±18	±18-46	±18-062	磁器	碗	(11.6)	(3.6)	4.5	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
24	I	I-±18	±18-60	±18-062	磁器	碗	(12.2)	(3.9)	5.1	外面青磁釉に上絵(茶)、紅葉に流水文、高台内に呉須圏線	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
25	I	I-±18	±18-42	±18-062	磁器	碗	11.6	3.7	5.2	外面青磁釉に上絵(茶・緑)、紅葉に流水文	白	青磁・透明	19c後	瀬戸・美濃
26	I	I-±18	±18-36	±18-062	磁器	碗	(10.4)	3.5	4.2	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
27	I	I-±18	±18-37	±18-062	磁器	碗	9.7	(3.3)	3.9	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
28	I	I-±18	±18-35	±18-062	磁器	碗	(9.9)	3.2	4.6	コバルト呉須・上絵(緑)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
29	I	I-±18	±18-40	±18-062, 063	磁器	碗	11.6	3.8	4.9	コバルト呉須、型紙摺り、鹿の子に松文・扇に鶴亀文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
30	I	I-±18	±18-38	±18-062	磁器	碗	(11.8)	(4.0)	4.7	コバルト呉須、型紙摺り、鹿の子に松文・扇に鶴亀文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
31	I	I-±18	±18-64	±18-062	磁器	碗	(10.6)	(4.1)	5.1	花卉文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
32	I	I-±18	±18-44	±18-062	磁器	碗	12.1	3.6	5.0	口縁内面雷文、見込に壽字、外面花文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
33	I	I-±18	±18-62	±18-062	磁器	碗	(11.0)				白	透明	19c後	瀬戸・美濃
34	I	I-±18	±18-7	±18-063	陶器	碗		(4.0)			淡灰	灰釉	19c	瀬戸・美濃
35	I	I-±18	±18-58	±18-062, ±19	磁器	皿	(12.8)	8.9	3.4	蛇の目凹型高台、内面草花文、外面唐草文	白	透明	18c後～19c前	肥前
36	I	I-±18	±18-12	±18-062	磁器	皿	(9.7)	(4.6)	2.0	型打成形、壽文陰刻	白	透明	19c	瀬戸・美濃
37	I	I-±18	±18-11	±18-062	磁器	皿	(9.5)	(5.6)	2.1		白	透明	19c	瀬戸・美濃
38	I	I-±18	±18-10	±18-062	磁器	皿	(9.8)	(6.0)	2.0		白	透明	19c	瀬戸・美濃
39	I	I-±18	±18-9	±18-062, 溝状1-104	磁器	皿	(9.8)	(6.2)	2.1		白	透明	19c	瀬戸・美濃
40	I	I-±18	±18-8	±18-062	陶器	皿	(10.0)	(6.8)	2.0		白	透明	19c	瀬戸・美濃
41	I	I-±18	±18-50	±18-062, 063	磁器	鉢	(18.4)			コバルト呉須、口縁～胴部内面型紙摺り、その他の染付は手書き	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
42	I	I-±18	±18-39	±18-062	磁器	鉢	11.3	5.8	5.1	口縁端部上面に松竹梅文、見込みに椿文、外面唐草文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
43	I	I-±18	±18-61	±18-062	磁器	鉢	11.4	6.2	8.4	富士山文、吹き墨技法	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
44	I	I-±18	±18-3	±18-063	陶器	練鉢	(20.0)			底部露胎、被熱痕あり	褐～暗灰褐	灰・白泥	19c後	不明
45	I	I-±18	±18-4	±18-062	陶器	練鉢	(36.6)				褐～暗褐	灰・白泥	19c後	瀬戸・美濃
46	I	I-±18	±18-1	±18-062, 063	陶器	練鉢	(28.8)				暗灰～褐	灰	19c後	不明
47	I	I-±18	±18-2	±18-062	陶器	練鉢		(10.4)		被熱痕あり、高台部露胎	暗灰	鉄	19c後	不明
48	I	I-±18	±18-5	±18-062	陶器	植木鉢	(12.8)				暗褐	錆	19c後	不明
49	I	I-±18	±18-6	±18-063	陶器	植木鉢		(7.6)		高台半円形の透かし4単位、底部露胎、見込みにトチン痕あり	暗褐	錆・灰	19c	不明
50	I	I-±18	±18-63	±18-062	磁器	急須				把手部焼継痕あり、渦・松・唐草文様	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
51	I	I-±18	±18-16	±18-062	土器	さな		(12.2)	1.3	穿孔あり	淡褐	—	不明	不明
52	I	I-±19	±19-1	±19-007, 008	磁器	小杯	6.9	2.6	2.8	金彩上絵あり	白	透明	19c	瀬戸・美濃
53	I	I-±19	±19-8	±19-007	磁器	小杯	(7.2)	(3.4)	3.6	コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
54	I	I-±19	±19-3	±19-007, 064	磁器	皿	(9.9)	(6.5)	2.0		白	透明	19c	瀬戸・美濃
55	I	I-±19	±19-7	±19-007	陶器	擂鉢	(31.0)				淡黄灰	錆	17c前	瀬戸・美濃
56	I	I-±19	±19-4	±19-007	陶器	擂鉢		(11.0)			淡灰	錆	19c	瀬戸・美濃
57	I	I-±19	±19-9	±19-064	磁器	植木鉢		(6.6)		底部穿孔、体部外面に呉須懸掛け、一部鉄釉あり	白	呉須・透明・鉄	19c後	瀬戸・美濃
58	I	I-±19	±19-2	±19-007, 064	磁器	御神酒徳利		3.0			白	透明	19c	瀬戸・美濃
59	I	I-±20	±20-11	±20-073	陶器	鉢		(11.8)		高台部露胎	淡灰褐	鉄	19c後	瀬戸・美濃
60	I	I-±20	±20-10	±20-014, 071	陶器	擂鉢		13.4			淡灰褐	鉄	19c後	瀬戸・美濃
61	I	I-±20	±20-1	±20-074	陶器	鍋	(17.7)				灰	鉄	19c後	瀬戸・美濃
62	I	I-±21	±21-1	±21-018, T1	磁器	碗	(7.8)			外面雲文、口縁内面に四方禪文	白	透明	18c後	肥前

No.	検	出土地点	実測No.	注記	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
63	I	I-±21	±21-2	±21-016	陶器	花瓶	6.6			頸部外面獅子文様	淡灰	灰	18c後	瀬戸・美濃
64	I	I-±22	±22-7	±22-075	磁器	碗	(11.7)	(3.7)	4.8	型紙摺り(鹿の子文・松葉文)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
65	I	I-±22	±22-8	±22-075	磁器	碗	(11.7)	(3.7)	4.7	型紙摺り(鹿の子文・松葉文)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
66	I	I-±22	±22-6	±22-075, ±23-076	磁器	碗		3.5		型紙摺り(花文・青海波文)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
67	I	I-±22	±22-1	±22-075, ±23-076	磁器	碗	(11.6)	(3.6)	4.6	型紙摺り(鹿の子文・円区画中に松文)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
68	I	I-±22	±22-4	±22-075	磁器	小碗	(7.9)	(3.3)	3.9	銅版転写(草花文)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
69	I	I-±22	±22-2	±22-075, ±23-076	磁器	小碗		(4.6)		型紙摺り(見込部に松竹梅文)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
70	I	I-±22	±22-11	±22-075, ±23-076	磁器	段重の蓋	11.6		2.9	丸区画に松・竹・梅・四方禪文(中に卍字文)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
71	I	I-±22	±22-3	±22-075, 皿検	磁器	皿	(11.0)	(5.8)	1.9	型紙摺り、捻子花区画に花文・青海波文・七宝繫文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
72	I	I-±22	±22-5	±22-075, I検-161	磁器	皿	9.2	4.8		型打成形、壽文印刻	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
73	I	I-±22	±22-9	±22-075	磁器	段重	(9.5)	(8.4)	2.8	銅版転写(草花文)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
74	I	I-±22	±22-10	±22-075, ±23-019, 076	磁器	線香筒	(5.0)	(5.6)	9.4	銅版転写(鶴・亀甲文)、口縁端部外面渦文、体部下端連弁文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
75	I	I-±23	±23-4	±23-019, 076	磁器	小杯	(7.2)	3.7	4.3	コバルト呉須、銅版転写(桐・唐草文)、高台外面連弁文、底裏に「枳嘉園製」	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
76	I	I-±23	±23-2	±23-076, ±22-075	磁器	小杯	7.3	2.6	2.9	内面金彩(大半が剥落して痕跡のみ)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
77	I	I-±23	±23-3	±23-076, 019	磁器	小杯	(7.6)	(3.1)	3.6	内面一部に溶浮付着、型紙摺り(青海波文・唐人)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
78	I	I-±23	±23-5	±23-076	磁器	小碗	(9.9)	(2.9)	4.5	松文、体部下半に面取り	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
79	I	I-±23	±23-1	±23-076	磁器	皿	(10.1)	(5.1)			白	透明	19c後	瀬戸・美濃
80	I	I-±25	±25-1	±25-077	磁器	合子	4.2	3.8			白	透明	18c~19c	肥前
81	I	I-±26	±26-1	±26-078	瓦質土器	火鉢	(29.2)			体部内外面に板状工具ナデ	灰	—	不明	不明
82	I	I-±27	±27-3	±27-082	磁器	碗	11.1	3.8	5.2	外面：鳥文、腰部に青海波文、口縁端部呉須ダミ、底裏「鳳来軒製」	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
83	I	I-±27	±27-2	±27-082, 162	陶器	蓋	11.0		2.9	外面：鉄釉に長石釉、内面：灰釉	黄白	鉄・長石・透明	19c	京・信楽
84	I	I-±27	±27-4	±27-082	陶器	鍋	14.1	7.2	5.9	外面：鉄釉に長石釉、内面：灰釉	黄白	鉄・長石・透明	19c	京・信楽
85	I	I-±27	±27-1	±27-080	陶器	不明		2.5		軟質陶器、内面灰釉	灰褐	灰	不明	不明
86	I	I-±32	±32-4	±32-084, 085	磁器	碗	11.5	(4.6)	5.7	コバルト呉須、麦藁手	白	透明	19c前	瀬戸・美濃
87	I	I-±32	±32-3	±32-085	陶器	蓋	(13.8)			漆黒釉にうのふ釉、内面天井部に錆釉	淡黄灰	漆黒	19c前	瀬戸・美濃
88	I	I-±32	±32-5	±32-085	磁器	皿				口縁端部口錆、見込部に山水・松竹梅文様	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
89	I	I-±32	±32-1	±32-085	瓦質土器	練鉢	(35.0)	(20.0)	18.2		褐	—	19c後	不明
90	I	I-±32	±32-2	±32-084	瓦質土器	植木鉢	(15.8)				灰	—	不明	不明
91	I	I-±36	±36-4	±36-086, 087, ±41-049	陶器	蓋	(8.3)		3.0	鉄絵、95・96の蓋か	灰	灰	19c	京・信楽
92	I	I-±36	±36-7	±36-086, 087	磁器	鉢	(12.0)	(7.6)	4.5	氷裂文、口縁端部折り曲げ成形	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
93	I	I-±36	±36-2	±36-021	陶器	片口鉢	(10.8)	4.8	5.7		淡灰	鉄	19c	瀬戸・美濃
94	I	I-±36	±36-1	±36-021, 086, 087	陶器	鉢	20.0	(13.4)	11.5		暗灰~灰褐	灰	19c	瀬戸・美濃
95	I	I-±36	±36-5	±36-086	陶器	土瓶	(6.8)			鉄絵、96と同一個体	灰	灰	19c	京・信楽
96	I	I-±36	±36-6	±36-021, 086	陶器	土瓶		(8.0)		鉄絵、95と同一個体	灰	灰	19c	京・信楽
97	I	I-±36	±36-3	±36-087, 086	陶器	鉢子	(10.2)	(7.4)			灰	鉄・呉須	19c	瀬戸・美濃
98	I	I-±37	±37-2	±37-088	磁器	碗	(9.6)	(3.9)	5.1	松文、内面見込部に壽字文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
99	I	I-±37	±37-1	±37-088	陶器	鉢		(8.0)			褐	鉄	不明	不明
100	I	I-±41	±41-10	±41-028	磁器	煎茶碗	(6.8)	(3.1)	4.7	草花文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
101	I	I-±41	±41-11	±41-049	磁器	煎茶碗	(6.6)	(3.1)	4.8	草花文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
102	I	I-±41	±41-18	±41-030, 049	磁器	小杯	6.3	2.4	4.9	コバルト呉須、腰部に縦方向の丸ノミ削ぎ(8単位)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
103	I	I-±41	±41-15	±41-049	磁器	小杯	7.0	3.5	3.3	コバルト呉須、型紙摺り	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
104	I	I-±41	±41-20	±41-032, 047, 049, ±13-016	磁器	小杯	4.9	3.3	5.1	コバルト呉須、草木文、底裏銘あり	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
105	I	I-±41	±41-16	±41-045	磁器	小杯	(5.4)			龍・楼閣文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
106	I	I-±41	±41-21	±41-027	磁器	小杯	(5.6)	2.8	5.0	コバルト呉須、楼閣・龍文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
107	I	I-±41	±41-12	±41-029, 046	磁器	小杯	(6.1)	4.0	4.0	底裏「五良太備 呉祥瑞造」銘	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
108	I	I-±41	±41-24	±41-037, 038	磁器	碗	10.5	3.7	5.1	外面文様(3区画に松・船・山)、口縁内面渦文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
109	I	I-±41	±41-25	±41-025, 037, 049	磁器	碗	10.4	5.1	3.6	コバルト呉須(手書き)、花文、口縁内面繪垣文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
110	I	I-±41	±41-22	±41-033	磁器	碗	(10.1)	(3.3)	5.1	コバルト呉須、草文、口縁内面繪垣文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
111	I	I-±41	±41-5	±41-044	陶器	碗	(9.1)	3.4	5.3	灰釉施釉のち口縁部に呉須	淡黄灰	鉄・呉須	19c	瀬戸・美濃
112	I	I-±41	±41-23	±41-026	磁器	蓋	9.0	3.3	2.9	コバルト呉須、花文、口縁内面繪垣文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
113	I	I-±41	±41-13	±41-032	磁器	急須の蓋	(5.2)		1.7	端部に渦文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
114	I	I-±41	±41-17	±41-033	磁器	皿	(7.2)	3.9	1.9	型打成形、山水文	白	透明	19c前	肥前
115	I	I-±41	±41-19	±41-049, ±44-063	磁器	皿	(14.5)	7.2	4.3	型打陽刻(扇面文)成形、見込部に松竹梅文、底部蛇ノ目凹形高台	白	透明	19c後	肥前
116	I	I-±41	±41-27	±41-042, 048, 049	磁器	皿	(6.3)	5.2	2.1	型打成形、内面見込部に陰刻文、呉須ダミ	白	透明	19c中	瀬戸・美濃
117	I	I-±41	±41-14	±41-049	磁器	皿	(10.7)	(5.7)	1.9	コバルト呉須、草花文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
118	I	I-±41	±41-4	±41-035	磁器	皿	(10.6)	(5.8)	2.6		白	透明	19c	瀬戸・美濃
119	I	I-±41	±41-28	±41-041, 090	磁器	大皿				漆継・焼継併用、底裏「大明年製」、ハリ支え4箇所、外面に唐草文、内面に椿文	白	透明	19c中	肥前
120	I	I-±41	±41-29	±41-033, 034, 039	磁器	大皿	(31.2)	17.4	8.4	ロクロ成形後に型打陽刻、ハリ支え、底裏「大明成化年製」銘、焼継痕あり	白	透明	18c中	肥前
121	I	I-±41	±41-26	±41-038, 049	磁器	角鉢	(14.4)			型打成形、八角鉢	白	透明	19c前	肥前
122	I	I-±41	±41-3	±41-024	陶器	合子	(5.4)	5.0	1.9	口縁端部~肩部露胎	淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
123	I	I-±41	±41-2	±41-092	陶器	餌猪口	3.8	3.8	2.3		淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
124	I	I-±41	±41-1	±41-049	土器	さな	(14.4)		1.8	穿孔あり	褐	—	不明	不明

No.	検	出土地点	実測No.	注 記	種 別	器 形	法 量 (cm)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	釉 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
125	I	I-溝状1	溝状1-11	I 検-162	磁器	碗	10.2	3.5	5.7	富士山模様	白	透明	19c中	瀬戸・美濃
126	I	I-溝状1	溝状1-12	溝状1-104	磁器	碗	(10.2)	3.5	5.7	富士山模様	白	透明	19c中	瀬戸・美濃
127	I	I-溝状1	溝状1-16	溝状1-107	磁器	湯呑碗	(8.0)				白	透明	18c	肥前
128	I	I-溝状1	溝状1-14	溝状1-104, 105	磁器	湯呑碗	7.3	4.3	6.2	口縁内面雷文、外面鹿の子文に松文	白	透明	19c中	肥前
129	I	I-溝状1	溝状1-15	溝状1-106	磁器	湯呑碗		(4.8)		焼継痕あり	白	透明	18c	肥前
130	I	I-溝状1	溝状1-4	溝状1-107	陶器	碗	(7.5)				淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
131	I	I-溝状1	溝状1-3	溝状1-107	陶器	碗		(3.9)		高台内も施釉	淡灰～淡灰褐	灰	19c	瀬戸・美濃
132	I	I-溝状1	溝状1-5	溝状1-105	陶器	碗		(3.8)			淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
133	I	I-溝状1	溝状1-13	溝状1-106	磁器	皿	(14.7)	(8.7)	4.8	型打菊皿、梅文、見込部に陽刻(呉須ガミ)、底裏蛇の目凹型高台	白	透明	19c前	肥前
134	I	I-溝状1	溝状1-17	溝状1-105	磁器	鉢				松文、口縁上面に渦文、内面は口縁部以外は露胎	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
135	I	I-溝状1	溝状1-8	溝状1-107	陶器	鉢		(10.2)			淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
136	I	I-溝状1	溝状1-7	溝状1-107陶器	陶器	鉢		(16.0)		底部に墨書あり	淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
137	I	I-溝状1	溝状1-2	溝状1-105	陶器	植木鉢		(10.6)	5.7	内面露胎	灰	長石	19c	不明
138	I	I-溝状1	溝状1-1	溝状1-103, I 検-162	陶器	植木鉢	(10.6)	(7.4)		土18-6と同一個体か? 底部切り込み高台4単位	暗灰褐	灰	19c	不明
139	I	I-溝状1	溝状1-6	溝状1-107	陶器	御神酒徳利		(1.6)			淡黄灰	灰	19c	京・信楽
140	I	I-溝状2	溝状2-1	溝状2-108	陶器	仏花瓶		5.2		底裏墨書あり	淡灰	鉄	19c前	瀬戸・美濃
141	I	I 検	検-18	I 検-161	磁器	碗		(4.0)		コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
142	I	I 検	検-20	I 検-166, 168, 171	磁器	碗	7.8	3.4	4.9		白	透明	19c後	瀬戸・美濃
143	I	I 検	検-25	I 検-161	磁器	小杯				コバルト呉須、竹文、底部に区画文字	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
144	I	I 検	検-8	I 検-163	磁器	紅猪口	(6.0)	(1.8)	1.5	型打成形、外面蛸唐草印刻	白	透明	19c	肥前
145	I	I 検	検-3	I 検-169	陶器	碗		3.6			淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
146	I	I 検	検-4	I 検-163	陶器	碗		4.0			淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
147	I	I 検	検-23	I 検-161	磁器	蓋				天井部内面に五弁花(コンニャク印判)、口縁内面に楡垣文、つまみ部脇に連弁文	白	透明	19c後	肥前
148	I	I 検	検-21	I 検-168	磁器	蓋	(10.0)	つまみ4.0	3.5	天井部外面青磁釉、口縁内面四方櫛文、天井部内面五弁花文、天井部外面渦福文	淡灰白	透明・青磁	18c中	肥前
149	I	I 検	検-10	I 検-161	陶器	蓋	10.8		2.8		淡黄	灰	18c	京・信楽
150	I	I 検	検-22	I 検-163	磁器	皿				型紙摺り、桜・青海波文	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
151	I	I 検	検-6	I 検-169	磁器	皿		(5.4)		松文	白	透明	19c前	瀬戸・美濃
152	I	I 検	検-7	I 検-169	磁器	皿	(9.6)	(5.2)	2.1	龍文印刻	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
153	I	I 検	検-2	I 検-169	陶器	皿	(8.0)	(3.4)	1.9	煤付着	淡灰白	灰	18c中	京・信楽
154	I	I 検	検-19	I 検-162	磁器	蕎麦猪口	(7.3)	(6.8)	5.6	矢羽文、蛇ノ目凹形高台	淡灰白	透明	19c	肥前
155	I	I 検	検-24	I 検-171	磁器	鉢				型打成形、山水文、腰部に6条の沈線、口縁形状方形に輪花	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
156	I	I 検	検-17	I 検-161	磁器	鉢	(10.5)	(4.3)	4.9	上絵(青・赤・緑)	白	透明	19c前	肥前
157	I	I 検	検-9	I 検-169	陶器	摺鉢		(15.6)			淡黄灰	鉄	19c	瀬戸・美濃
158	I	I 検	検-26	I 検-171	陶器	片口				蓋受部は露胎、胴部鉄絵、外面下半～底部露胎	灰褐	灰・鉄	19c	京・信楽
159	I	I 検	検-11	I 検-169	陶器	行平鍋	(11.7)	(7.3)	5.9	うのふ袖で松文	淡黄	鉄	18c後～19c初	京・信楽
160	I	I 検	検-1	I 検-165	陶器	甕	(40.2)			口縁上面に刻印あり	暗灰	錆	19c前	常滑
161	I	I 検	検-5	I 検-169	土器	不明	(6.6)			ミガキのち朱彩	淡褐	一	不明	不明
162	I	I 検-南西T	南西T-7	南西T-132	磁器	小杯	6.3	2.6	3.6	底部に呉須の銘あるが、滲んで判読不可能	白	透明	19c	瀬戸・美濃
163	I	I 検-南西T	南西T-14	南西T-132	磁器	小杯				鯉に金太郎、上絵(赤・黄・緑・黒・金)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
164	I	I 検-南西T	南西T-6	南西T-132	磁器	小杯	(7.6)	(3.2)	4.1	上絵(赤・青)(剥落して一部のみ残存)	灰白	透明	18c	肥前
165	I	I 検-南西T	南西T-12	試掘-192	磁器	碗	(8.9)			氷裂地に菊花文	白	透明	18c後～19c初	肥前
166	I	I 検-南西T	南西T-17	試掘-192	磁器	碗				内面見込部に五弁花文(コンニャク印判)	淡灰白	透明	18c後	肥前
167	I	I 検-南西T	南西T-2	南西T-132	陶器	碗	(15.9)			体部外面からの押圧箇所数単位	淡灰	鉄	19c	瀬戸・美濃
168	I	I 検-南西T	南西T-1	南西T-132	炬器	小碗	(6.7)	(2.8)	3.6		暗赤褐	一	19c後	常滑
169	I	I 検-南西T	南西T-16	試掘-191	磁器	蓋				コバルト呉須	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
170	I	I 検-南西T	南西T-13	南西T-132	磁器	蓋				草花文、内面口縁端部、渦文、天井部に壽文	白	透明	19c	瀬戸・美濃
171	I	I 検-南西T	南西T-3	南西T-132	陶器	蓋				天井部外面白泥による刷毛目	淡褐	白泥・灰	18c後	肥前
172	I	I 検-南西T	南西T-10	南西T-132	磁器	皿		(6.2)		色絵(赤・緑・金彩)、高台外面2重圏線	灰白	透明	19c	肥前
173	I	I 検-南西T	南西T-5	南西T-132	磁器	皿	(12.2)	(7.9)	2.3	内外面の上絵剥落(赤絵)	白	透明	19c	瀬戸・美濃
174	I	I 検-南西T	南西T-4	南西T-132	陶器	鉢	14.4	4.9	8.0	見込部にトチン痕あり	淡黄灰	灰	18c後～19c前	瀬戸・美濃
175	I	I 検-南西T	南西T-11	南西T-132	陶器	徳利	2.8			体部外面鉄釉文字	淡灰	灰	19c中	瀬戸・美濃
176	I	I 検-南西T	南西T-15	南西T-132	磁器	人形				唐子、型打成形、箸置きor筆置きか?	白	透明	不明	肥前
177	I	I 検-南西T	南西T-8	南西T-132	土器	さな		9.6		上面被熱により剥離	褐色	一	不明	不明
178	I	I 検-南西T	南西T-9	南西T-132	土器	焜炉		(9.6)		内面見込部に被熱痕	褐～灰	一	不明	不明
179	I	I 検-T1	T1-1	T1-130	陶器	皿	(13.5)			口縁内面鉄絵、志野織部	淡灰白	長石	17c前	瀬戸・美濃
180	II	II-土7	土7-1	土7-006	陶器	碗	7.9	3.9	6.6	鉄絵	淡灰	灰	18c後～19c前	瀬戸・美濃
181	II	II-土7	土7-2	土7-007	陶器	碗	(9.2)	3.7	5.6	鉄絵	淡灰	灰	18c後～19c前	瀬戸・美濃
182	II	II-土15	土15-4	土15-017	陶器	碗	(9.6)			体部に外面からの押圧箇所あり	灰	灰	18c	京・信楽
183	II	II-土15	土15-1	土15-018	陶器	碗		(4.8)			淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
184	II	II-土15	土15-2	土15-019	陶器	碗		(4.6)		腰部～底部露胎	淡灰	鉄	18c	瀬戸・美濃
185	II	II-土15	土15-3	土15-017	磁器	皿		(12.6)			白	透明	18c	肥前
186	II	II-土17	土17-1	土17-021, III 検-152	磁器	花瓶		(6.2)		立鼓形、くびれ部に陽刻文様帯、高台端部砂目、波佐見産か	淡灰	青磁	18c	肥前

No.	検	出土地点	実測No.	注 記	種 別	器 形	法 量 (cm)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	釉・ 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
187	II	II-±25	±25-1	±25-023	土器	皿	(8.0)	(4.8)	2.1	口縁端部に煤付着	褐	—	不明	在地産
188	II	II-±27	±27-1	±27-027, ±56-081	陶器	皿	(16.0)				淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
189	II	II-±29	±29-1	±29-031	磁器	皿	(13.9)	(7.8)	3.8	波佐見産か	淡灰	透明	18c後～19c初	肥前
190	II	II-±32	±32-3	±32-044	磁器	碗				外面は水裂地に半菊文・井桁文、内面口縁に四方櫛文	淡灰白	透明	18c末～19c初	肥前
191	II	II-±32	±32-2	±32-040	陶器	急須蓋	5.0		1.8	天井部外面白泥の化粧掛け	淡褐	—	19c前	常滑
192	II	II-±32	±32-1	±32-042	土器	火鉢	(31.2)			内耳鍋の胎土に類似	褐	—	不明	在地産
193	II	II-±36	±36-1	±36-049, ±64-090	陶器	皿	(9.0)	4.6	2.0	煤付着	暗灰	鉄	18c～19c	京・信楽
194	II	II-±37	±37-1	±37-050, ±44-066	陶器	碗		(4.4)		底裏墨書	淡褐灰	灰	18c	瀬戸・美濃
195	II	II-±41	±41-1	±41-053	陶器	皿		(6.2)		見込部に印花文、輪禿	淡灰褐	長石	17c	瀬戸・美濃
196	II	II-±41	±41-2	±41-056	陶器	壺類				錆釉下地塗り	灰	—	不明	不明
197	II	II-±42	±42-3	±42-059	磁器	碗		(4.8)		高台端部錆釉、上絵(赤絵)	淡灰	透明	18c前	肥前
198	II	II-±42	±42-2	±42-059	陶器	天目碗	(16.8)			内面見込部に擦痕(使用痕か)、外面下半～底部露胎	淡灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
199	II	II-±42	±42-1	±42-058	陶器	皿		7.4		内外掛分(内面灰釉、外面鉄釉)	淡灰	鉄・灰	18c	瀬戸・美濃
200	II	II-±44	±44-13	±44-064	磁器	小杯		1.6		花文	白	透明	18c後	肥前
201	II	II-±44	±44-9	±44-064	磁器	碗	(8.8)			草花文	灰白	透明	18c	肥前
202	II	II-±44	±44-3	±44-063	陶器	碗		5.1	—		淡灰	鉄	18c～19c	瀬戸・美濃
203	II	II-±44	±44-2	±44-063	陶器	拳骨碗		(4.9)	—		淡灰	漆黒	18c～19c	瀬戸・美濃
204	II	II-±44	±44-16	±44-065	磁器	蓋		つまみ3.3		外面草文、内面天井部に鱗文	白	透明	18c	肥前
205	II	II-±44	±44-10	±44-063	磁器	皿		(11.5)		焼継痕あり、高台端部砂付着、底裏ピントチン製品	灰白	透明	18c後	肥前
206	II	II-±44	±44-8	±44-064	磁器	皿		(7.4)			灰白	青磁	18c	肥前
207	II	II-±44	±44-12	±44-063	陶器	皿		(5.1)		内面見込部に具須摺絵(花文)	黄白	灰	18c中～後	瀬戸・美濃
208	II	II-±44	±44-15	±44-064, II検-384	陶器	皿		(5.5)		内面見込部に具須摺絵(魚文)	黄白	灰	18c中～後	瀬戸・美濃
209	II	II-±44	±44-1	±44-063	陶器	皿	(9.1)	(3.7)	1.4	口縁端部煤付着	淡黄灰	錆	19c前	瀬戸・美濃
210	II	II-±44	±44-14	±44-063, II検-383, 384	磁器	鉢				外面青磁・内面染付、内面(帆船・草花・鳥)、蛇ノ目凹形高台、高台部に墨書あり	淡灰白	青磁・透明	18c後	肥前
211	II	II-±44	±44-11	±44-063, 064, 065	陶器	練鉢	27.1	5.8	13.8	器形ゆがみ大	褐～暗褐	灰・長石	不明	不明
212	II	II-±44	±44-6	±44-063	陶器	練鉢		(11.4)	—		淡灰	灰	19c	瀬戸・美濃
213	II	II-±44	±44-7	±44-064	瓦質土器	火鉢	(16.0)		—	外面：体部中位に回転印刻、口縁端部に丁寧なミガキ、下半ケズリ	褐～暗褐	—	不明	不明
214	II	II-±44	±44-5	±44-064	陶器	壺類		(7.0)	—		暗褐	錆	18c～19c	不明
215	II	II-±44	±44-4	±44-065	陶器	鍋		(7.5)	—	外面煤付着、底裏に脚部3単位か	淡灰	—	18c～19c	瀬戸・美濃
216	II	II-±49	±49-2	±49-068	陶器	灯明受皿	(9.8)	(4.8)	1.7		暗灰	鉄	18c後～19c前	瀬戸・美濃
217	II	II-±49	±49-1	±49-068	陶器	摺鉢	(13.6)	5.6	5.0		淡灰	鉄	18c後～19c前	瀬戸・美濃
218	II	II-±50	±50-1	±50-071	陶器	皿	(10.6)	(6.4)	1.9		灰白	長石	17c前	瀬戸・美濃
219	II	II-±53	±53-1	±53-073	磁器	碗		3.8		内面見込部に宝文(總囊か巻物)、底裏渦福文	白	透明	18c中	肥前
220	II	II-±54	±54-1	±54-075	陶器	不明	(1.5)			鉄絵、体部指押圧成形	暗灰	長石	17c前か	瀬戸・美濃
221	II	II-±56	±56-6	±56-079	陶器	碗	8.0	3.2	6.0	陶胎染付、具須草花文	淡黄白	灰	18c後～19c前	瀬戸・美濃
222	II	II-±56	±56-5	±56-080	陶器	碗	10.6	4.0	6.8	鉄絵	淡黄白	灰	18c後	瀬戸・美濃
223	II	II-±56	±56-1	±56-079	陶器	碗	(9.8)			口縁部に具須	淡黄灰	灰・具須	19c初頭	瀬戸・美濃
224	II	II-±56	±56-2	±56-081, ±27-027	陶器	碗		(12.4)			灰	鉄	19c初頭	京・信楽
225	II	II-±56	±56-4	±56-077	陶器	灯明受皿	9.6	4.0	1.5	かえり部(受け台)に穿孔1箇所	淡黄灰	鉄	18c末～19c前	瀬戸・美濃
226	II	II-±59	±59-1	±59-082	磁器	碗	(9.0)			草文	白	透明	18c	肥前
227	II	II-±61	±61-1	±61-083	陶器	鉢	(31.2)			白泥の象嵌	赤褐	灰	17c後	肥前
228	II	II-±64	±64-1	±64-091	陶器	碗		(4.2)		内面見込部に鉄絵	淡黄白	灰	18c後	京・信楽
229	II	II-±65	±65-1	±65-093	陶器	蓋	(11.0)			天井部外面に鉄絵	灰白	灰	18c後	京・信楽
230	II	II-±70	±70-1	±70-097	陶器	碗			4.3		淡灰	灰	18c後	瀬戸・美濃
231	II	II-±78	±78-2	±78-109	磁器	碗	(9.4)				灰白	透明	18c後	肥前
232	II	II-±78	±78-1	±78-118	磁器	碗	(9.5)				灰白	透明	18c後	肥前
233	II	II-±79	±79-4	±79-121	陶器	碗	(13.2)			体部中位に3条の沈線	褐灰	灰	18c後～19c前	瀬戸・美濃
234	II	II-±79	±79-2	±79-130	陶器	碗	(11.4)				灰褐	灰	18c後～19c前	瀬戸・美濃
235	II	II-±79	±79-6	±79-132	陶器	碗	(9.3)	3.6	6.0	高台端部以外は全面施釉、体部中位に4条の沈線	暗灰	鉄	18c後	瀬戸・美濃
236	II	II-±79	±79-7	±79-123, 134, 142	陶器	碗	12.4	4.7	7.3	外面へラ状工具により圧痕あり、錆釉の下地塗りに灰釉、体部中位に4条の沈線	淡灰	錆・灰	18c後	瀬戸・美濃
237	II	II-±79	±79-1	±79-135, 138	陶器	皿	11.7	5.1	2.4		灰褐	灰	18c末～19c初	京・信楽
238	II	II-±79	±79-8	±79-142	土器	皿	(12.3)	(8.6)	2.8	煤付着	灰褐	—	不明	在地産
239	II	II-±79	±79-3	±79-128, 141	陶器	小瓶		4.0		高台部～底部露胎	灰白	灰	18c後～19c前	瀬戸・美濃
240	II	II-±79	±79-5	±79-113	陶器	瓶類		(6.9)			灰	錆	18c末～19c初	京・信楽
241	II	II-±88	±88-1	±88-149, 150	瓦質土器	火消し壺	(14.6)				灰	—	不明	不明
242	II	II-±89	±89-1	±89-151	陶器	碗	(7.6)	(3.7)	3.3		淡灰白	銅緑	不明	不明
243	II	II-±91	±91-3	±91-152, 153, 155, 156	磁器	碗				鳥・草花文、漆継痕あり	白	透明	18c後～19c前	肥前
244	II	II-±91	±91-2	±91-156	磁器	碗	(11.3)			花文	白	透明	18c	肥前
245	II	II-±91	±91-1	±91-154	磁器	碗		(3.1)			淡灰	透明	17c後～18c前	肥前
246	II	II-±98	±98-3	±98-161, ±56-081	磁器	皿				口クロ成形後菊皿形に型打成形、型紙摺り(花文)、外面に松葉文	白	透明	18c後	肥前
247	II	II-±98	±98-2	±98-159	陶器	練鉢	(31.0)				灰白	灰	18c後	瀬戸・美濃
248	II	II-±98	±98-1	±98-162	陶器	摺鉢		(11.2)			淡灰	鉄	18c	瀬戸・美濃

No.	検	出土地点	実測No.	注 記	種 別	器 形	法 量 (cm)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	釉 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
249	II	II-土103	土103-1	土103-168	陶器	碗		6.2		漆継痕あり、高台端部以外全面施釉、高台端部目跡4箇所	淡黄白	灰	17c後	肥前
250	II	II-土105	土105-1	土105-169	磁器	小碗	(7.8)	(3.2)	4.4		白	透明	19c前	瀬戸・美濃
251	II	II-土109	土109-2	土109-171	磁器	碗		3.1		底裏「製」	白	透明	18c前	肥前
252	II	II-土109	土109-3	土109-171	磁器	碗		(3.2)		焼継痕あり、内面見込部五弁花文	白	透明	18c後～19c初	肥前
253	II	II-土109	土109-1	土109-171	磁器	皿	(9.8)	(6.8)	2.3	蛇の目凹形高台、外面唐草文、内面模様不明	白	透明	18c後	肥前
254	II	II-土111	土111-1	土111-174	陶器	仏飯具		5.5			淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
255	II	II-土111	土111-2	土111-174	陶器	搦鉢	(32.1)	9.2	15.4	搦目16本で1単位(全13単位)	淡黄灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
256	II	II-土115	土115-1	土115-179	陶器	徳利				織部(亀甲文・梅文)	淡灰褐	灰	17c前	瀬戸・美濃
257	II	II-土115	土115-2	土115-180	陶器	灯明受皿	9.4				淡灰	鉄	18c末～19c前	瀬戸・美濃
258	II	II-土116	土116-1	土116-181	磁器	小杯	(6.4)	(3.0)	3.6	外面葡萄文	白	透明	19c前	肥前
259	II	II-土117	土117-1	土117-184	陶器	油壺				呉須絵に灰釉	淡褐灰	灰	18c前	瀬戸・美濃
260	II	II-土118	土118-1	土118-187	陶器	搦鉢	(30.6)				淡灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
261	II	II-土125	土125-1	土125-195	磁器	碗	(9.2)			草花文	白	透明	18c前か	肥前
262	II	II-土130	土130-3	土130-198	陶器	碗	(10.8)	4.2	7.3	高台端部のみ露胎	淡灰	灰	18c後～19c前	瀬戸・美濃
263	II	II-土130	土130-5	土130-205	土器	皿	(8.8)	(6.2)	2.1	底部回転糸切痕	褐	—	不明	在地産
264	II	II-土130	土130-2	土130-204, II検-365, 383	陶器	鉢	(30.2)	12.8	17.1	漆継痕あり	淡灰	灰	19c初頭	瀬戸・美濃
265	II	II-土130	土130-4	土130-202	瓦質土器	香炉	(10.2)		6.3	外面体部上半ナデ調整のちミガキ、腰部手持ちヘラケズリ、脚部貼付のちナデ	灰	—	不明	不明
266	II	II-土130	土130-6	土130-200, 203	陶器	甕			4.2		淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
267	II	II-土130	土130-1	土130-179, 201	陶器	仏花瓶	7.2	5.2	14.0	灰釉・鉄釉掛け分け、耳部貼り付け	淡灰	鉄・灰	18c後	瀬戸・美濃
268	II	II-土132	土132-1	土132-208, II検-384	陶器	碗	(12.6)				淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
269	II	II-土137	土137-1	土137-213	陶器	蓋	(12.0)			かえり部露胎	淡灰	漆黒	18c末～19c前	瀬戸・美濃
270	II	II-土137	土137-2	土137-216, II検-383	陶器	搦鉢		(12.0)			淡灰	鉄	18c末～19c前	瀬戸・美濃
271	II	II-土137	土137-3	土137-218	陶器	搦鉢			11.0		淡灰	鉄	18c末～19c前	瀬戸・美濃
272	II	II-溝状1	溝状1-1	溝状1-241	陶器	碗	(10.0)			拳骨碗	灰	鉄	19c前	瀬戸・美濃
273	II	II-溝状3	溝状3-1	溝状3-244	陶器	皿	(12.8)	5.2	3.7	内面見込部に陰刻文、輪糸、鉄釉に灰釉流し掛け、底部露胎	淡灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
274	II	II-溝状3	溝状3-2	溝状3-246	陶器	皿	(11.4)	(7.4)	1.8		淡黄灰	灰	17c前	瀬戸・美濃
275	II	II-溝状4	溝状4-1	溝状4-250	陶器	蓋	9.0			底面露胎	淡黄灰	灰	18c後	瀬戸・美濃
276	II	II-石列1	石列1-1	石列1-310	陶器	搦鉢	(35.6)	—	—		淡黄灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
277	II	II-石列1	石列1-2	石列1-310	陶器	搦鉢	—	(9.6)	—	内面の搦目は使用により摩滅	淡黄灰	錆	不明	瀬戸・美濃
278	II	II-桶1	桶1-1	桶1-290	陶器	碗		(5.0)			灰	灰	18c末～19c前	瀬戸・美濃
279	II	II検	検-20	II検-372, 375, 378	磁器	碗	(9.9)			折枝梅文、波佐見産か	灰白	透明	17c末～18c前	肥前
280	II	II検	検-71	II検-382	磁器	碗				梅樹文、波佐見産か	灰白	透明	18c	肥前
281	II	II検	検-19	II検-383	磁器	碗		(5.9)		高台脇2重圏線	灰白	透明	18c後	肥前
282	II	II検	検-18	II検-385	磁器	碗		(4.3)		高台脇2重圏線、波佐見産か	灰白	透明	18c	肥前
283	II	II検	検-63	II検-384	磁器	碗		3.0		内面見込部に五弁花文	白	透明	18c後	肥前
284	II	II検	検-70	II検-384	磁器	碗				内面見込部に五弁花文、外面草花文	白	透明	18c後	肥前
285	II	II検	検-73	II検-383	磁器	碗				広東碗、紅葉・松葉文様	白	透明	18c末～19c初	肥前
286	II	II検	検-21	II検-383	磁器	碗	(11.1)	(6.2)	5.5	雁・草文、広東碗	白	透明	19c前	瀬戸・美濃
287	II	II検	検-74	II検-383	磁器	碗				見込部に五弁花文様	白	透明	18c末～19c初	肥前
288	II	II検	検-60	II検-384	磁器	碗	(7.4)			内面見込部に五弁花、高台外面2重圏線、外面吉祥文字	白	透明	18c後～19c初	肥前
289	II	II検	検-77	II検-383	磁器	碗				草花文	白	透明	19c前	肥前
290	II	II検	検-80	II検-383	磁器	碗				外面に矢羽文、口縁内面四方樽文	灰白	透明	18c後～19c前	肥前
291	II	II検	検-82	II検-384	磁器	湯呑碗				外面・口縁内面に輪宝文	白	透明	18c末～19c初	肥前
292	II	II検	検-61	II検-383	磁器	湯呑碗		3.5		内面見込部に五弁花文	白	透明	18c後～19c初	肥前
293	II	II検	検-88	II検-384	磁器	湯呑碗				外面は水裂地に半菊文、内面は見込部に五弁花(コンニャク印判)、口縁部に四方樽文	白	透明	18c後～19c前	肥前
294	II	II検	検-59	II検-384	磁器	湯呑碗		3.8		内面見込部に五弁花(コンニャク印判)、外面に水裂地に菊花文	白	透明	18c後～19c初	肥前
295	II	II検	検-23	II検-384	磁器	湯呑碗		(3.5)		内面見込部に五弁花(コンニャク印判)、高台脇1重圏線、腰部に松葉文	白	透明	19c前	瀬戸・美濃
296	II	II検	検-56	II検-384	陶器	碗	9.4	3.7	5.2	灰釉施釉のち口縁端部に呉須	淡灰	灰・呉須	19c初	瀬戸・美濃
297	II	II検	検-57	II検-384	陶器	碗	(9.0)	(3.2)	5.5	灰釉施釉のち口縁端部に呉須	淡灰	灰・呉須	19c初	瀬戸・美濃
298	II	II検	検-58	II検-383	陶器	碗	(10.2)			灰釉施釉のち口縁端部に呉須	淡灰	灰・呉須	19c初	瀬戸・美濃
299	II	II検	検-47	II検-384	陶器	碗		3.4		高台端部以外全面施釉	淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
300	II	II検	検-54	II検-383	陶器	碗		3.6		陶胎染付、内面五弁花文	淡灰	透明	19c	瀬戸・美濃
301	II	II検	検-4	II検-383	陶器	碗		4.2			淡灰	灰	不明	瀬戸・美濃
302	II	II検	検-43	II検-384	陶器	碗		4.8			淡灰	鉄	18c～19c	瀬戸・美濃
303	II	II検	検-55	II検-383	陶器	碗		(3.2)		陶胎染付、内面五弁花文	淡灰	透明	18c後～19c前	瀬戸・美濃
304	II	II検	検-3	II検-370	陶器	天目碗		(4.3)		高台脇の削りシャープ、高台内のケズリ浅い	淡褐	灰	17c前	肥前
305	II	II検	検-48	II検-384	陶器	碗		2.9		一部に上絵あり(緑)	淡灰	灰	18c後	京・信楽
306	II	II検	検-51	II検-384	陶器	碗	(9.4)	3.5	5.6	口縁端部端反、高台部露胎、一部に鉄絵痕あり	淡黄	灰	18c	京・信楽
307	II	II検	検-52	II検-384	陶器	碗	(9.0)			上絵あり(赤・青・緑・金彩)	淡灰	灰	18c中～後	京・信楽
308	II	II検	検-53	II検-390	陶器	碗	(10.8)			陶胎染付、呉須絵あり	淡褐	灰	18c後～19c前	京・信楽
309	II	II検	検-5	II検-383	陶器	拳骨碗		5.2		高台底面に「本」窯印	淡黄灰	漆黒・うのふ	18c後～19c前	瀬戸・美濃
310	II	II検	検-7	II検-383	陶器	拳骨碗		(4.1)		高台底面に窯印(文字不明)、高台畳付に回転糸切痕	淡灰	漆黒	18c後～19c前	瀬戸・美濃

No.	検	出土地点	実測No.	注 記	種 別	器 形	法 量 (cm)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	釉 調	推定製作年代	推定産地	
							口径	底径	器高						
311	II	II 検	検-39	II 検-381	陶器	鍔手茶碗		3.8			回転施文具痕	淡灰	漆黒	18c末~19c初	瀬戸・美濃
312	II	II 検	検-37	II 検-384	陶器	碗		4.2			鉄釉下絵に灰釉	淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
313	II	II 検	検-38	II 検-383	陶器	碗		(4.4)			鉄釉下絵に灰釉	淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
314	II	II 検	検-87	II 検-384	陶器	仏飯具					陶胎染付、四方釋文(文紙摺り)	灰白	灰	18c後~19c前	瀬戸・美濃
315	II	II 検	検-85	II 検-384	磁器	蓋					松葉文	淡灰白	透明	18c後~19c前	肥前
316	II	II 検	検-83	II 検-384	磁器	蓋					外面に草花文、内面天井部に壽文、口縁内面に渦文	白	透明	18c後~19c前	肥前
317	II	II 検	検-40	II 検-383	陶器	鍔手蓋	(9.7)	(3.6)	3.2		回転施文具痕	淡灰	漆黒	18c末~19c初	瀬戸・美濃
318	II	II 検	検-2	II 検-384	陶器	蓋	(9.5)				かえり部貼り付けのちナデ	淡黄灰	銅緑・灰	18c	瀬戸・美濃
319	II	II 検	検-64	II 検-384	磁器	皿	(11.8)	(7.0)	3.3		内面草花文、高台外面2重圏線	白	透明	18c後	肥前
320	II	II 検	検-67	II 検-384	磁器	皿	(12.0)	(7.6)	3.1		漆継痕あり、口縁端部折り返し成形	白	透明	18c後~19c前	肥前
321	II	II 検	検-28	II 検-383	磁器	皿		(17.3)			内面：2重圏線・網目文、外面：底部裏面および腰部に1重圏線、高台脇に2重圏線	白	透明	18c	肥前
322	II	II 検	検-24	II 検-383	磁器	皿		(13.1)			高台脇2重圏線、焼継痕あり	白	透明	18c前	肥前
323	II	II 検	検-29	II 検-384	磁器	皿		(8.4)			内面見込部に檜垣文・松竹梅、蛇の目凹型高台、口縁内面陽刻	淡灰	透明	18c	肥前
324	II	II 検	検-27	II 検-383	磁器	皿		6.5			根引き松、高台ゆがみあり	白	透明	18c	肥前
325	II	II 検	検-86	II 検-384	磁器	皿					蛇ノ目凹型高台、山水文	灰白	透明	18c後~19c前	肥前
326	II	II 検	検-84	II 検-383	磁器	皿					漆継痕あり、外面に唐草、波佐見産か	灰白	透明	18c後~19c前	肥前
327	II	II 検	検-79	II 検-383	磁器	皿					口縁内面四方釋文、見込部に鶴文、外面に梅花文	白	透明	18c後	肥前
328	II	II 検	検-75	II 検-383	磁器	皿					内面に網目・魚文様、見込部に五弁花文(コンニャク印判)、外面唐草文、底裏に渦福文	白	透明	18c中	肥前
329	II	II 検	検-78	II 検-383	磁器	皿					口縁口錆、見込部に草花文、ロクロ成形後に輪花形に型打成形、漆継痕	白	透明	18c後~19c前	肥前
330	II	II 検	検-10	II 検-392	陶器	皿	(19.4)				口縁端部櫛歯状文、内面見込部に陰刻文、底部錆釉下地塗	淡黄灰	銅緑	18c後~19c前	瀬戸・美濃
331	II	II 検	検-9	II 検-383	陶器	皿		(5.1)			内面見込部に呉須による型紙摺り	淡黄灰	灰	18c後	瀬戸・美濃
332	II	II 検	検-46	II 検-384	陶器	皿		(6.0)			内面見込部に輪ハゲ	淡灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
333	II	II 検	検-45	II 検-383	陶器	灯明受皿	(10.6)	(4.8)	1.8			灰	鉄	18c~19c	瀬戸・美濃
334	II	II 検	検-44	II 検-384	陶器	皿	(10.0)	4.6	1.9		高台露胎、外面~底部に被熟痕あり	灰	錆	19c前	京・信楽
335	II	II 検	検-1	II 検-377	土器	皿	(8.2)	(6.0)	2.1		底部穿孔、ロクロ成形、底部回転系切り	褐色	一	不明	在地産
336	II	II 検	検-68	II 検-383	磁器	鉢	(11.2)	(8.3)	5.0		コバルト呉須、外面~底面に手持ちヘラケズリ	白	透明	19c後半	瀬戸・美濃
337	II	II 検	検-76	II 検-383	磁器	鉢					外面に唐草・連弁文、内面に上絵(赤・緑・金)の襷幕	白	透明	18c後	肥前
338	II	II 検	検-22	II 検-386	磁器	蕎麦猪口	(7.3)	(5.4)	5.4		矢羽文、高台脇と口縁内面に2重圏線、底部蛇の目凹型高台	白	透明	18c中	肥前
339	II	II 検	検-72	II 検-383, 389	磁器	鉢					漆継痕あり、人物文様	白	透明	18c	肥前
340	II	II 検	検-81	II 検-383	磁器	角鉢					鶴・松文、型打成形	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
341	II	II 検	検-49	II 検-385	陶器	鉢		(7.6)			白泥下塗り、呉須絵のち長石系の灰釉上掛け	暗灰	灰	不明	不明
342	II	II 検	検-35	II 検-383	陶器	鉢	(9.8)	6.2	4.8		高台~底部露胎、蓋受けあり	淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
343	II	II 検	検-33	II 検-383	陶器	練鉢	(33.0)				銅緑釉流し掛け	淡灰黄	灰	18c後	瀬戸・美濃
344	II	II 検	検-11	II 検-383, 384	陶器	練鉢	27.7	(10.7)	16.1		漆継痕あり	淡黄灰	灰	18c後	瀬戸・美濃
345	II	II 検	検-32	II 検-383	陶器	練鉢		(15.0)				淡灰黄	灰	18c~19c	瀬戸・美濃
346	II	II 検	検-30	II 検-383	陶器	練鉢		14.2			灰釉に銅緑釉流し掛け	淡灰黄	灰	18c~19c	瀬戸・美濃
347	II	II 検	検-31	II 検-383	陶器	練鉢		(13.0)				淡灰黄	灰	18c~19c	瀬戸・美濃
348	II	II 検	検-41	II 検-383	陶器	鉢		(9.0)				褐	灰	不明	不明
349	II	II 検	検-17	II 検-386	陶器	槽鉢		(13.8)				黄灰	鉄	不明	瀬戸・美濃
350	II	II 検	検-16	II 検-383	陶器	槽鉢		(11.2)				淡黄灰	錆	不明	瀬戸・美濃
351	II	II 検	検-13	II 検-382	陶器	槽鉢		(12.0)			内面使用痕明瞭、撞目14本で1単位	淡灰	鉄	不明	瀬戸・美濃
352	II	II 検	検-14	II 検-383	陶器	槽鉢		(10.0)				淡灰	鉄	不明	瀬戸・美濃
353	II	II 検	検-12	II 検-382	陶器	槽鉢		(9.2)				淡灰	鉄	不明	瀬戸・美濃
354	II	II 検	検-15	II 検-383	陶器	槽鉢		(8.5)				暗褐~灰	錆	不明	不明
355	II	II 検	検-8	II 検-384	陶器	サヤ鉢か		(15.6)			静止系切痕、底部露胎	淡黄灰	鉄	不明	瀬戸・美濃
356	II	II 検	検-50	II 検-368	陶器	火入れ		7.0			墨書あり、ヘラ状工具と指圧痕により方形隅部輪花状に成形	淡灰褐	灰	18c末~19c初	京・信楽
357	II	II 検	検-36	II 検-383	陶器	香炉	(8.6)	(5.8)	4.1		内外面煤付着	灰	灰	18c	瀬戸・美濃
358	II	II 検	検-69	II 検-383	陶器	植木鉢					銅緑釉、陽刻文様(龍文)、内面錆釉	淡灰白	銅緑・錆	19c前	瀬戸・美濃
359	II	II 検	検-89	II 検-384	磁器	御神酒徳利					草花文	白	透明	19c前	肥前
360	II	II 検	検-65	II 検-384	磁器	御神酒徳利		(5.2)				白	透明	18c後~19c前	肥前
361	II	II 検	検-66	II 検-385	磁器	御神酒徳利		(5.0)				白	透明	18c後~19c前	肥前
362	II	II 検	検-62	II 検-364	磁器	御神酒徳利		3.2				白	透明	18c後~19c初	肥前
363	II	II 検	検-26	II 検-383	磁器	徳利					体部下端に源氏香文(赤)、中位に草文(緑・金彩)	白	透明	19c後	瀬戸・美濃
364	II	II 検	検-25	II 検-383	磁器	瓶類						白	透明	19c後	瀬戸・美濃
365	II	II 検	検-34	II 検-361	陶器	仏花瓶		5.4			耳部2箇所、鉄釉・灰釉掛け分け	淡灰褐	灰・鉄	18c後	瀬戸・美濃
366	II	II 検	検-42	II 検-384	陶器	土瓶	(6.8)					淡黄	錆	不明	瀬戸・美濃
367	II	II 検	検-6	II 検-383	陶器	不明		10.0				暗赤褐	鉄	不明	常滑
368	II	南東T	南東T-3	南東T-281	磁器	碗						白	透明	19c前	肥前
369	II	南東T	南東T-1	南東T-281	磁器	碗	(7.1)	(2.5)	3.0		内面見込赤絵「山岸」、外面緑色上絵付	白	呉須・上絵	19c後	瀬戸・美濃
370	II	南東T	南東T-2	南東T-340	陶器	餌猪口	5.3	4.2	2.7		把手部欠損	淡黄灰	灰	19c前	京・信楽
371	II	II-T1	T1-3	T1-280	磁器	碗	(6.6)	(3.6)	4.6		梅花文	淡灰白	呉須	19c前	肥前
372	II	II-T1	T1-2	T1-280	陶器	碗	(11.0)	-	-			淡黄灰	鉄	18c中	瀬戸・美濃

No	検	出土地点	実測No	注 記	種 別	器 形	法 量 (cm)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	釉 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
373	II	II-T1	T1-1	T1-280	陶器	搦鉢	(29.0)	—	—	搦目1単位6本	淡黄灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
374	II	II 検	廃土-1	IIハイド-320	磁器	皿	9.0	5.2	2.2	ロクロ成形のち型打成形、内面：蛸唐草文・楡垣区画内に青海波文、口縁菊形	白	透明	19c	肥前
375	III	III-土3	土3-1	土3-001	陶器	碗	(11.3)	4.6	7.4	鉄釉2度掛け、底部露胎	白灰	鉄	17c後	瀬戸・美濃
376	III	III-土5	土5-1	土5-004	磁器	碗		(4.4)		高台脇2重圏線、底裏1重圏線	白	透明	18c前	肥前
377	III	III-土7	土7-1	土7-006	磁器	蓋	9.2	3.2	2.7	草花文、つまみ部内1重圏線、つまみ部脇に2重圏線	白	透明	18c前	肥前
378	III	III-土8	土8-1	土8-010	陶器	搦鉢	(24.2)				白灰	錆	17c中	瀬戸・美濃
379	III	III-土9	土9-1	土9-015	陶器	鉢		(16.6)		内面櫛目文、銅緑釉流し掛け(黄瀬戸鉢)	白灰	灰・銅緑	17c中	瀬戸・美濃
380	III	III-土12	土12-1	土12-018	磁器	碗	(11.2)	4.4	6.5	高台脇2重圏線、草花・流水文	白	透明	17c後	肥前
381	III	III-土12	土12-3	土12-017, 土35-053	陶器	皿		(7.9)		京焼風肥前陶器、内面見込部に鉄絵、漆付着	淡灰	灰・鉄	17c中～後	肥前
382	III	III-土12	土12-2	土12-017	磁器	香炉	(10.1)				淡灰白	青磁	17c中～後	肥前
383	III	III-土16	土16-1	土16-027	磁器	碗	(8.4)			楡垣文	白	透明	17c	肥前
384	III	III-土16	土16-2	土16-025	陶器	小碗	7.4	3.8	3.4	底部露胎	白	鉄	17c中	瀬戸・美濃
385	III	III-土17	土17-1	土17-029	磁器	碗		4.4		草花文、高台脇2重圏線	白	透明	17c	肥前
386	III	III-土22	土22-1	土22-042	陶器	搦鉢		11.4		搦目1単位9本で13単位	白黄	錆	17c	瀬戸・美濃
387	III	III-土22	土22-2	土22-039, 044	陶器	鍋		8.0		脚部3単位、底部外面煤付着	白黄	鉄	19c	不明
388	III	III-土36	土36-2	土36-054	陶器	碗		5.5			白黄	灰	17c後	瀬戸・美濃
389	III	III-土36	土36-3	土36-058	陶器	碗		5.4			灰	鉄	17c後	瀬戸・美濃
390	III	III-土36	土36-1	土36-057, 土14-023	磁器	香炉		(8.4)		13面の面取り	白	青磁	17c	肥前
391	III	III-土36	土36-4	土36-057	陶器	片口鉢	(15.2)				白灰	鉄	18c後～19c前	瀬戸・美濃
392	III	III-土38	土38-1	土38-066	陶器	碗		(5.0)		高台端部以外は全面施釉、精良な胎土、ロクロ右回り	淡白黄	鉄	17c後	肥前
393	III	III-土38	土38-2	土38-060	陶器	皿		6.2		内面見込部に印花文・輪禿	白黄灰	灰	17c	瀬戸・美濃
394	III	III-土38	土38-3	土38-066	陶器	皿	(14.4)				白黄灰	灰	17c	瀬戸・美濃
395	III	III-土38	土38-4	土38-066	土器	土器	(8.4)	6.0	2.2	内外面煤付着	褐	—	不明	在地産
396	III	III-土41	土41-2	土41-068	陶器	碗	(10.9)	4.5	7.3		灰	灰	17c	瀬戸・美濃
397	III	III-土41	土41-3	土41-072	陶器	皿	(8.3)	(5.0)	2.7		灰白	長石	17c前	瀬戸・美濃
398	III	III-土41	土41-4	土41-070, 071	陶器	鉢	(8.4)			白泥による刷毛目	暗灰	灰	17c後	肥前
399	III	III-土41	土41-5	土41-072	土器	内耳鍋		(26.4)			褐	—	17c	在地産
400	III	III-土44	土44-2	土44-074	陶器	搦鉢		(9.6)			黄白	鉄	17c	瀬戸・美濃
401	III	III-土44	土44-1	土44-073	陶器	茶入	(2.6)	(3.1)	3.0	内面～外面腰部が施釉	淡灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
402	III	III-土46	土46-1	土46-080	陶器	搦鉢		(10.0)			淡灰	錆	17c	瀬戸・美濃
403	III	III-土47	土47-1	土47-082	陶器	碗		(5.0)		底部露胎、底裏兜巾	淡褐	灰	17c前	肥前
404	III	III-溝状1	溝状1-15	溝状1-114	磁器	碗	(11.0)			山文文	白	透明	18c前	肥前
405	III	III-溝状1	溝状1-18	溝状1-114	磁器	碗		(4.2)		葛蒲文、高台外面2重圏線	淡灰	透明	18c前	肥前
406	III	III-溝状1	溝状1-16	溝状1-106	磁器	碗		(4.4)		漆継痕あり、高台外面2重圏線	白	透明	18c前	肥前
407	III	III-溝状1	溝状1-17	溝状1-107	磁器	碗		(4.0)		底裏1重圏線、高台外面2重圏線	淡灰	透明	18c前	肥前
408	III	III-溝状1	溝状1-1	溝状1-112	陶器	天目碗	(12.4)				淡灰	鉄	17c	瀬戸・美濃
409	III	III-溝状1	溝状1-13	溝状1-114	陶器	碗		(9.0)			淡灰	鉄	17c後～18c	瀬戸・美濃
410	III	III-溝状1	溝状1-3	溝状1-114	陶器	碗	(10.3)			被熱痕あり	灰	鉄	17c	瀬戸・美濃
411	III	III-溝状1	溝状1-9	溝状1-113	陶器	天目碗		(3.6)		高台部削りシャープ	淡灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
412	III	III-溝状1	溝状1-6	溝状1-114	陶器	碗		(5.0)			淡黄灰	鉄	17c	瀬戸・美濃
413	III	III-溝状1	溝状1-2	溝状1-114	陶器	碗	(12.8)				灰	鉄	17c	肥前
414	III	III-溝状1	溝状1-4	溝状1-111	陶器	碗	(11.4)			漆継痕あり	淡赤褐～灰	灰	17c	肥前
415	III	III-溝状1	溝状1-7	溝状1-111	陶器	碗		(5.0)		京焼風肥前陶器、底裏に刻印あり	淡黄灰	灰	17c後	肥前
416	III	III-溝状1	溝状1-14	溝状1-114	陶器	碗	(9.0)			土絵(金彩・緑・青・黒)、II 検の混入品か	灰	鉄	18c前	京・信楽
417	III	III-溝状1	溝状1-12	溝状1-106	陶器	皿		7.9		内面見込部は蛇の目釉剥ぎ、高台内のケズリは高台脇より深い	淡灰	鉄	17c後～18c	肥前
418	III	III-溝状1	溝状1-11	溝状1-113	陶器	皿		(5.8)		内面見込部に印花文・輪禿、内面煤付着	淡黄灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
419	III	III-溝状1	溝状1-8	溝状1-114	陶器	皿	(12.6)	(8.3)	2.3		淡灰	長石	17c前	瀬戸・美濃
420	III	III-溝状1	溝状1-5	溝状1-110	陶器	皿	(9.9)	(5.8)	1.9	大窯製品	淡灰	鉄	16c後	瀬戸・美濃
421	III	III-溝状1	溝状1-22	溝状1-103	土器	皿	(10.8)	(7.3)	2.4	回転糸切痕	淡褐～灰褐	—	不明	在地産
422	III	III-溝状1	溝状1-21	溝状1-110	土器	皿	(9.6)	(5.7)	2.3	回転糸切痕	暗灰～褐	—	不明	在地産
423	III	III-溝状1	溝状1-23	溝状1-106	土器	皿	(8.6)	(4.9)	1.5	回転糸切痕	暗灰	—	不明	在地産
424	III	III-溝状1	溝状1-20	溝状1-110	土器	皿	(8.9)	(5.4)	1.8		暗灰～褐	—	不明	在地産
425	III	III-溝状1	溝状1-26	溝状1-113, 土41-069	磁器	合子				漆継痕あり、外面型打陽刻文(連弁・花文)	白	青磁・透明	不明	肥前
426	III	III-溝状1	溝状1-19	溝状1-100	陶器	鉢	(32.8)			鉄絵、銅緑釉流し掛け	淡黄灰	灰	17c後	瀬戸・美濃
427	III	III-溝状1	溝状1-10	溝状1-111	磁器	瓶類		(5.0)		高台外面に赤絵による1重圏線	白	透明	17c後	肥前
428	III	III-溝状1	溝状1-24	溝状1-113	土器	内耳鍋	(27.4)			外面煤付着、内外面工具ナデ調整	暗褐～黒褐	—	不明	在地産
429	III	III-溝状1	溝状1-25	溝状1-113	土器	内耳鍋	(29.1)			内外面工具ナデ	暗褐～黒褐	—	不明	在地産
430	III	III-溝状1	溝状1-27	溝状1-105	陶器	水滴				御深井、獅子か、一部に呉須絵あり、上面に円孔1箇所、底面露胎、被熱痕あり	淡灰白	灰	17c中	瀬戸・美濃
431	III	III 検	検-2	III 検-156	磁器	碗	(10.2)			松文	白	透明	17c	肥前
432	III	III 検	検-1	III 検-152	磁器	碗		(3.7)		一部に呉須絵あり	白	透明	17c	肥前
433	III	III 検	検-3	III 検-152	磁器	碗		(5.2)		高台外面2重圏線	白	透明	17c	肥前
434	III	III 検	検-4	III 検-152	磁器	碗				上絵あり(赤・緑・黒)	白	透明	17c	肥前

No	検	出土地点	実測No	注記	種別	器形	法量 (cm)			技法・文様・形態の特徴	胎土	釉調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
435	Ⅲ	Ⅲ検	検-6	Ⅲ検-150	陶器	碗		3.9		白泥による刷毛目	灰~褐	灰	17c後	肥前
436	Ⅲ	Ⅲ検	検-9	Ⅲ検-152	陶器	碗		(5.1)			淡灰褐	灰	17c後	肥前
437	Ⅲ	Ⅲ検	検-7	Ⅲ検-152	陶器	碗		(4.7)		白泥による化粧掛け	淡灰	灰	17c後	瀬戸・美濃
438	Ⅲ	Ⅲ検	検-8	Ⅲ検-156	陶器	碗		(4.7)		漆継痕あり	淡灰	灰	17c後	瀬戸・美濃
439	Ⅲ	Ⅲ検	検-11	Ⅲ検-156	陶器	碗		(5.0)		被熱痕あり	淡灰	灰	17c後	瀬戸・美濃
440	Ⅲ	Ⅲ検	検-13	Ⅲ検-152	陶器	碗	(8.7)	(4.2)		腰部~底部露胎	灰	鉄	17c	瀬戸・美濃
441	Ⅲ	Ⅲ検	検-10	Ⅲ検-152	陶器	碗		(2.5)			灰	灰	17c後	瀬戸・美濃
442	Ⅲ	Ⅲ検	検-12	Ⅲ検-152	陶器	碗		(4.6)			淡灰	灰	18c	瀬戸・美濃
443	Ⅲ	Ⅲ検	検-5	Ⅲ検-152	磁器	皿				型打成形、七宝繫文、底裏「明」	白	透明	17c後	肥前
444	Ⅲ	Ⅲ検	検-22	Ⅲ検-159	陶器	皿	(10.5)	(5.9)	2.3	鉄絵、2重圏線	白灰	長石	17c前	瀬戸・美濃
445	Ⅲ	Ⅲ検	検-21	Ⅲ検-152	陶器	皿		(5.4)		鉄絵笹文	黄灰	長石	17c前	瀬戸・美濃
446	Ⅲ	Ⅲ検	検-20	Ⅲ検-152	陶器	皿		(5.8)		陶胎染付、高台端部以外は全面施釉、見込部に呉須絵	灰白	灰	18c後	瀬戸・美濃
447	Ⅲ	Ⅲ検	検-23	Ⅲ検-152	陶器	皿	(11.0)	(6.2)	2.4	内面に煤付着	灰白	長石	17c前	瀬戸・美濃
448	Ⅲ	Ⅲ検	検-24	Ⅲ検-152	陶器	皿	(10.1)	(5.0)	2.1	内面のみ鉄釉施釉、底部に回転糸切痕	黄白灰	鉄	17c前	瀬戸・美濃
449	Ⅲ	Ⅲ検	検-25	Ⅲ検-152	陶器	灯明受皿	(10.6)				灰	鉄	17c前?	瀬戸・美濃
450	Ⅲ	Ⅲ検	検-18	Ⅲ検-154	土器	皿	(9.4)	(5.8)		回転糸切痕	褐	—	不明	在地産
451	Ⅲ	Ⅲ検	検-17	Ⅲ検-152	土器	皿	(8.4)	(5.5)		静止糸切痕	暗褐	—	不明	在地産
452	Ⅲ	Ⅲ検	検-19	Ⅲ検-152	土器	皿	(10.4)	(6.3)		回転糸切痕	黒褐	—	不明	在地産
453	Ⅲ	Ⅲ検	検-14	Ⅲ検-152	陶器	鉢	(12.1)				灰	鉄	18c	瀬戸・美濃
454	Ⅲ	Ⅲ検	検-16	Ⅲ検-152	陶器	鉢		(15.7)		錆釉下地塗り、銅緑釉流し掛け、見込部に7条の櫛目あり、黄瀬戸鉢	灰白	灰	17c後	瀬戸・美濃
455	Ⅲ	Ⅲ検	検-26	Ⅲ検-156	陶器	香炉		(10.8)		脚部3単位、内面錆釉・外面鉄釉	黄白灰	鉄・錆	17c前	瀬戸・美濃
456	Ⅲ	Ⅲ検	検-27	Ⅲ検-152	陶器	甕蓋		(4.0)		外面鉄釉の摺絵、復元実測	灰	白黄	17c後	瀬戸・美濃
457	Ⅲ	Ⅲ検	検-15	Ⅲ検-152	陶器	壺類	(10.2)			耳部欠損	灰	灰	18c	瀬戸・美濃
埴塼														
458	I	I-土18	土18-18	土18-062	陶器	埴塼	(7.1)	3.2	5.1	金属滓付着	灰	—		不明
459	I	I-土18	土18-17	土18-062	陶器	埴塼	(6.8)	3.3	5.3	金属滓付着	灰	—		不明
460	I	I-土18	土18-33	土18-081	陶器	埴塼				金属滓付着	淡灰	—		不明
461	I	I-土18	土18-13	土18-062	陶器	埴塼		(3.2)		金属滓付着	灰	—		不明
462	I	I-土18	土18-14	土18-062	陶器	埴塼		(3.2)		金属滓付着	灰	—		不明
463	I	I-土18	土18-15	土18-063	陶器	埴塼		(4.0)		金属滓付着	灰	—		不明
464	I	I-土18	土18-21	土18-069	陶器	碗	(6.3)	3.6	5.7	埴塼に転用、金属滓付着	淡黄	不明		不明
465	I	I-土18	土18-20	土18-062	陶器	碗	(6.6)	(3.7)	5.5	埴塼に転用、金属滓付着	淡黄灰	不明		不明
466	I	I-土18	土18-34	土18-082	陶器	碗				陶器碗を埴塼に転用、金属滓付着	灰	灰		瀬戸・美濃
467	I	I-土18	土18-32	土18-062	陶器	碗		(3.9)		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	灰		瀬戸・美濃
468	I	I-土18	土18-27	土18-075	陶器	碗		(3.4)		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	不明		不明
469	I	I-土18	土18-24	土18-072	陶器	碗		3.8		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	不明		不明
470	I	I-土18	土18-26	土18-074	陶器	碗		(3.6)		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	不明		不明
471	I	I-土18	土18-19	土18-062	陶器	碗		3.5		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	灰		不明
472	I	I-土18	土18-29	土18-077	陶器	碗		(3.3)		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	不明		不明
473	I	I-土18	土18-31	土18-062	陶器	碗		3.7		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	灰		瀬戸・美濃
474	I	I-土18	土18-30	土18-078	陶器	碗		(3.5)		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	不明		不明
475	I	I-土18	土18-28	土18-076	陶器	碗		(3.6)		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	不明		不明
476	I	I-土18	土18-25	土18-073	陶器	碗		(3.5)		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	不明		不明
477	I	I-土18	土18-22	土18-070	陶器	碗		3.6		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	不明		不明
478	I	I-土18	土18-23	土18-071	陶器	碗		3.5		埴塼に転用、金属滓付着	淡灰	不明		不明
479	I	I-土19	土19-5	土19-007	陶器	埴塼				金属滓付着	淡灰	—		不明
480	I	I-土19	土19-6	土19-007	陶器	埴塼		(3.6)		金属滓付着	淡灰	—		不明
481	I	I-土20	土20-2	土20-070	陶器	埴塼	7.0	4.4	5.8	金属滓付着	淡灰	—		不明
482	I	I-土20	土20-6	土20-068	陶器	埴塼		3.7		金属滓付着	灰	—		不明
483	I	I-土20	土20-3	土20-072	陶器	埴塼	(5.5)	(3.0)		金属滓付着	灰	—		不明
484	I	I-土20	土20-8	土20-069	陶器	埴塼		(4.2)		金属滓付着	灰	—		不明
485	I	I-土20	土20-7	土20-014	陶器	埴塼	(6.2)	(2.2)	4.8	金属滓付着	灰	—		不明
486	I	I-土20	土20-5	土20-010	陶器	埴塼		(4.0)		金属滓付着	灰	—		不明
487	I	I-土20	土20-9	土20-016	陶器	埴塼		3.6		金属滓付着	灰	—		不明
488	I	I-土20	土20-4	土20-011	陶器	埴塼		(3.5)		金属滓付着	灰	—		不明
489	I	I-土25	土25-4	土25-020	陶器	埴塼				金属滓付着	灰	—		不明
490	I	I-土25	土25-3	土25-020	陶器	埴塼				金属滓付着	灰	—		不明
491	I	I-土25	土25-2	土25-077	陶器	埴塼				金属滓付着	灰	—		不明
492	I	I-土26	土26-2	土26-079	陶器	埴塼	6.7			金属滓付着	灰	—		不明
493	I	I-土41	土41-6	土41-049	陶器	埴塼	(7.4)	(3.8)	5.2	金属滓付着	灰	—		不明
494	I	I-土41	土41-8	土41-038	陶器	埴塼		(5.5)		金属滓付着	淡灰	—		不明
495	I	I-土41	土41-9	土41-049	陶器	埴塼	(6.5)			金属滓付着	灰	—		不明

No	検	出土地点	実測No.	注 記	種 別	器 形	法 量 (cm)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	釉 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
496	I	I-土41	土41-7	土41-049	陶器	湯呑碗				陶器湯呑碗を埴埴に転用、金属滓付着	淡灰	透明		瀬戸・美濃
497	I	I-P2	P2-1	P2-120	陶器	小杯	6.0	3.6	3.6	陶器小杯を埴埴に転用、金属滓付着	淡灰	不明		瀬戸・美濃
498	I	I-溝状1	溝状1-10	溝状1-107	陶器	埴埴	(7.0)			金属滓付着	灰	—		不明
499	I	I-溝状1	溝状1-9	溝状1-105	陶器	碗			(3.5)	陶器碗を埴埴に転用、金属滓付着	淡灰	灰		瀬戸・美濃
500	I	I 検	検-12	I 検-168	陶器	埴埴	(6.2)			金属滓付着	淡灰	—		不明
501	I	I 検	検-13	I 検-169	陶器	埴埴	(6.0)			金属滓付着	灰	—		不明
502	I	I 検	検-14	I 検-161	陶器	埴埴				金属滓付着	灰	—		不明
503	I	I 検	検-15	I 検-161	陶器	埴埴			(3.5)	金属滓付着	灰	—		不明
504	I	I 検	検-16	I 検-162	陶器	埴埴		2.7		金属滓付着	灰	—		不明
505	I	I 検-T1	T1-2	T1-131	陶器	埴埴	(7.4)			金属滓付着	灰	—		不明
506	I	I 検-T1	T1-3	T1-131	陶器	埴埴	(7.1)			金属滓付着	灰	—		不明
507	II	II-土56	土56-3	土56-080	陶器	埴埴	(7.0)			金属滓付着	灰	不明		不明
508	III	III-土41	土41-1	土41-071	陶器	埴埴	(3.8)			金属滓付着	暗灰	—		不明

土製品														
No	検	出土地点	実測No.	注 記	種 別	器 形	法 量 (cm)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	釉 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
509	II	II-土113	土113-191	土113-191	土製品	はじき	2.2		0.7	手づくね成形	褐	褐	不明	不明

No	検	出土地点	実測No.	注 記	種 別	器 形	法 量 (cm)			技 法・文 様・形 態 の 特 徴	胎 土	釉 調	推定製作年代	推定産地
							口径	底径	器高					
510	II	II-土23	土23-1	土23-221	土製品	鞆羽口	9.7	2.3	9.7	端部に金属滓付着、器面ナデ・指頭圧痕	淡褐～褐	灰	不明	不明
511	II	II-土79	土79-1	土79-122	土製品	鞆羽口	8.5	1.8	10.7	端部に金属滓付着、器面ナデ・指頭圧痕	褐～暗褐	褐～灰	不明	不明
512	III	III-土37	土37-1	土37-059	土製品	鞆羽口	9.4	2.1	13.9	端部に金属滓付着、器面ナデ・指頭圧痕	褐～灰褐	褐～暗褐	不明	不明

第3表 木製品観察表

図No	検出面	遺 構	整理番号	器 種	手 法	法 量 (cm)			備 考
						長 さ・口 径	幅	厚 さ・高 さ	
1	I	土18	A-I-1	下駄	榫目	(23.4)	7.7	厚1.3・高2.5	台槽円連歯下駄、前端欠損あり
2	I	建1	A-I-2	栓	榫目	3.5	2.8	厚2.8	歪みあり
3	II	土27	A-II-1	蓋	榫目	つまみ径4.6			椀蓋、内外面黒漆
4	II	土27	A-II-2	柄杓	榫目	15.6		厚0.8・高14.1	柄欠損、鉄分及び他の付着物有り
5	II	土27	A-II-3	柄杓	榫目	13.8		厚0.5・高10.5	胴部上方の欠損著しい、柄部欠損
6	II	土27	A-II-4	円板	榫目	27.0		厚1.3	片面に薄く黒漆、側板との接続部に竹釘2カ所あり
7	II	土27	A-II-5	櫛	榫目	(4.7)	(4.5)	厚(1.0)	やや蒲鉾型の櫛
8	II	土30	A-II-6	蓋	榫目	つまみ径4.2			椀蓋、内外面黒漆、外面には朱漆で丸文区画に花文様4箇所、体部に径7mmの小孔あり
9	II	土36	A-II-7	下駄	板目	21.1	8.2	厚1.0・高4.3	台方形連歯下駄、裏面に加工痕顕著、節持ち
10	II	土42	A-II-8	円板	榫目	13.1		厚1.0	全体に薄く黒漆
11	II	土56	A-II-9	蓋	榫目	つまみ径6.0・口径13.5		器高3.0	椀蓋、内外面朱漆、歪みあり
12	II	土56	A-II-10	蓋	榫目	つまみ径4.2・口径8.0		器高2.3	椀蓋、外面は黒漆の上に金蒔絵で丸文区画文様(家紋か)、内面は黒漆の上に朱漆重ね塗り
13	II	土56	A-II-11	蓋	榫目	8.4	6.4	厚0.6	長方形の箱蓋、小孔5箇所、外面に黒漆
14	II	土56	A-II-12	曲物	榫目	長径16.7・短径15.6		厚0.6・高(6.8)	歪み著しい
15	II	土56	A-II-13	櫛	榫目	4.7	13.0	厚0.9	ほぼ完形、中央歯部一部欠損、蒲鉾型
16	II	土56	A-II-14	下駄	榫目	19.1	9.1	厚1.5・高3.3	台方形連歯下駄、裏面に加工痕有り、後歯の減り著しい
17	II	土64	A-II-15	円板	榫目	16.2		厚1.1	
18	II	土64	A-II-16	不明	榫目	径2.7		厚0.9	中心部に径5mmの穴有り
19	II	土65	A-II-17	曲物蓋	榫目	径8.9		厚1.3	両面共に黒漆、上面は少し丸みを帯びている
20	II	土65	A-II-18	下駄	榫目	23.0	7.8	厚1.2・高6.8	台方形連歯下駄、板部に比べ歯は厚く大きい、鉄分付着
21	II	土70	A-II-19	円板	榫目	径33.0		厚0.9	断面に2カ所木釘の穴、鉄分少量付着
22	II	土79	A-II-20	椀	榫目	口径12.6・底径5.3		器高8.8	内面赤漆、外面黒漆、底部(底裏)に赤漆の文字か
23	II	土79	A-II-21	円板	榫目	8.3		厚1.1	全面に薄く漆、鉄分付着
24	II	土79	A-II-22	曲物	榫目	径18.5		厚0.7・高(6.7)	鉄分付着
25	II	土79	A-II-23	栓	榫目	径3.0		高5.8	鉄分付着、工具痕有り、使用痕有り
26	II	土82	A-II-24	膳	榫目	20.0	(8.2)	厚0.6	内外面黒漆、歪み有り
27	II	土91	A-II-25	箸		24.3	0.7	0.7	黒漆の箸
28	II	土92	A-II-26	円板	榫目	8.2		厚0.5	歪みあり

図No.	検出面	遺構	整理番号	器種	手法	法 量 (cm)			備 考
						長さ・口径	幅	厚さ・高さ	
29	Ⅱ	土92	A-Ⅱ-27	円板	榫目	径16.0		厚1.0	側面に竹釘痕あり
30	Ⅱ	土98	A-Ⅱ-28	蓋	榫目	7.3	(4.4)	厚0.6	六角形箱蓋、内面茶漆、外面にも漆痕あり
31	Ⅱ	土98	A-Ⅱ-29	円板	榫目	径8.2		厚0.8	鉄分付着
32	Ⅱ	土103	A-Ⅱ-30	円板	榫目	径17.8		厚1.1	中心から外側にかけて歪みあり、鉄分付着
33	Ⅱ	土103	A-Ⅱ-31	下駄	榫目	23.9	9.4	厚1.2・高3.4	台方形連歯下駄、後部に小孔3箇所(径2~4mm)、被熱痕あり
34	Ⅱ	土103	A-Ⅱ-32	下駄	榫目	(11.0)	(8.0)	厚1.1・高1.8	台槽円形連歯下駄、歯の減り著しい、鉄分付着
35	Ⅱ	土106	A-Ⅱ-33	下駄	榫目	23.1	8.0	厚1.2・高5.8	台槽円形連歯下駄、前歯3カ所釘による補修痕あり、片側欠損、指頭圧痕あり
36	Ⅱ	土107	A-Ⅱ-34	栓	榫目	4.5		上2.0・下1.2	摩耗著しく加工痕不明、使用痕あり
37	Ⅱ	土107	A-Ⅱ-35	箸	榫目	22.4	0.7	厚0.5	(C)は上方に小孔あり、他7点
38	Ⅱ	土113	A-Ⅱ-36	円板	榫目	12.7		厚0.8	付着物有り、全体に淡赤褐色
39	Ⅱ	土117	A-Ⅱ-37	椀	榫目	—	—	—	内外面黒漆の上に朱漆重ね塗り、鉄分付着
40	Ⅱ	土130	A-Ⅱ-38	箸	榫目	(22.4)	0.6	厚0.5	加工痕有り
41	Ⅱ	土130	A-Ⅱ-39	櫛	榫目	(3.1)	(10.2)	1.0	蒲鉾形、親歯および歯の先端部はぼ欠損
42	Ⅱ	溝状T	A-Ⅱ-40	円板	板目	22.0		厚1.1	節持ち材、接合面に2カ所釘穴あり
43	Ⅱ	水道1	A-Ⅱ-41	継手	角材 板目	26.4		厚14.0・高14.0	墨書あり、加工痕明瞭、竹管挿入孔に麻縄のパッキンあり
44	Ⅱ	桶1	A-Ⅱ-42-1	円板	榫目	径7.2		厚1.0・高3.5	柄杓の底板、№45と同一
45	Ⅱ	桶1	A-Ⅱ-42-2	曲物	榫目			厚0.3・高(3.5)	№44と同一
46	Ⅱ	検出面	A-Ⅱ-43	円板	榫目	径8.0		厚0.7	両面黒漆痕あり
47	Ⅱ	T1	A-Ⅱ-44	下駄	板目	20.2	(3.4)	厚1.3・高2.6	小型台方形連歯下駄
48	Ⅱ	排土	A-Ⅱ-45	継手	角材 板目	26.2		厚13.5・高13.4	竹管挿入孔は径5.8cmで麻縄のパッキンあり
49	Ⅲ	土5	A-Ⅲ-1	下駄	榫目	(14.9)	(6.8)	厚1.3・高2.8	台方形連歯下駄、子供用か
50	Ⅲ	土5	A-Ⅲ-2	下駄	板目	22.9	9.1	厚1.5・高3.7	台方形連歯下駄、足裏・指頭圧痕あり
51	Ⅲ	土5	A-Ⅲ-3	下駄	板目	19.6	7.0	厚1.3・高2.7	台槽円形連歯下駄、指頭圧痕あり、前後歯部とも片側が摩滅、鉄分付着
52	Ⅲ	土12	A-Ⅲ-4	椀	榫目	—	—	—	椀蓋、内・外面黒漆の上に朱漆
53	Ⅲ	土12	A-Ⅲ-5	下駄	板目	21.4	8.5	厚1.7・高8.1	台方形連歯下駄、裏面に加工痕が顕著、指頭圧痕あり
54	Ⅲ	土12	A-Ⅲ-6	不明	榫目	33.5	1.2	1.2	加工痕あり
55	Ⅲ	土13	A-Ⅲ-7	箸		24.6	0.4	厚0.7	加工痕あり
56	Ⅲ	土14	A-Ⅲ-8	把手		13.3	4.7	厚1.6	全面に薄く黒漆、湯桶の把手か
57	Ⅲ	土14	A-Ⅲ-9	台の脚	榫目	8.0		厚0.9・高3.5	下面中央に斜めの切り込みあり
58	Ⅲ	土19	A-Ⅲ-10	椀	榫目	口径12.8・底径6.0		器高6.1	椀蓋、内外両面黒漆の上に朱漆
59	Ⅲ	土19	A-Ⅲ-11	曲物	榫目	長径17.3・短径12.0		厚0.6・高11.5	楕円形に歪み、内側繋部分に漆、外側に朱漆
60	Ⅲ	土19	A-Ⅲ-12	下駄	板目	20.1	8.2	厚1.2・高3.0	台方形連歯下駄、指頭圧痕あり
61	Ⅲ	土19	A-Ⅲ-13	下駄	榫目	16.7	7.0	厚0.8・高1.2	台槽円形連歯下駄、法量から子供用とみられる、歯部ほとんど摩滅
62	Ⅲ	土19	A-Ⅲ-14	下駄	板目	17.4	7.8	厚1.7・高6.4	台槽円形連歯下駄、台部表面は全体に薄く剥離
63	Ⅲ	土22	A-Ⅲ-15	椀	榫目	—	—	—	内外両面黒漆の上に朱漆
64	Ⅲ	土22	A-Ⅲ-16	円板	榫目	径12.8		厚1.1	両面に薄く黒漆
65	Ⅲ	土23	A-Ⅲ-17	椀	榫目	口径11.0・底径5.0		器高3.4	内外両面に黒漆の上に朱漆
66	Ⅲ	土23	A-Ⅲ-18	円板	榫目	径15.5		厚0.7	
67	Ⅲ	土31	A-Ⅲ-19	刃類の柄	榫目	9.9	3.5	2.0	丸く加工、刃部差込孔あり
68	Ⅲ	土32	A-Ⅲ-20	下駄	榫目	20.8	9.5	厚1.1・高2.0	台槽円形連歯下駄、指頭圧痕あり、歯部摩滅顕著
69	Ⅲ	土33	A-Ⅲ-21	円板	榫目	径16.8		厚0.9	片面に黒漆が少量残る
70	Ⅲ	土33	A-Ⅲ-22	下駄の歯	榫目	10.5		厚1.5・高7.3	歯底部の減り方が均一ではない
71	Ⅲ	土34	A-Ⅲ-23	下駄	榫目	20.8	7.5	厚1.8・高7.5	台槽円形連歯下駄、指頭圧痕あり、後歯破損の後に釘3本打ち補強
72	Ⅲ	土36	A-Ⅲ-24	椀	榫目	口径12.3			内外両面に黒漆の上に朱漆、高台の潰れ著しい
73	Ⅲ	土36	A-Ⅲ-25	椀	榫目	—	—	—	内面は黒漆の上に朱漆、外面は黒漆の上に朱漆で文様あり
74	Ⅲ	土36	A-Ⅲ-26	下駄	板目	22.7	9.0	厚1.6・高4.0	台方形連歯下駄、後歯の摩滅著しい、指頭圧痕あり、鉄分付着
75	Ⅲ	土36	A-Ⅲ-27	下駄	板目	(16.3)	9.7	厚1.2・高3.3	台方形連歯下駄、指頭圧痕あり、右上方に釘2本打ち込みあり
76	Ⅲ	土36	A-Ⅲ-28	下駄	榫目	20.4	7.5	厚1.1・高3.4	台槽円形連歯下駄、後歯の摩滅著しい
77	Ⅲ	土36	A-Ⅲ-29	下駄の歯	榫目	12.3		厚1.7・高10.2	歯部差込み部分少し破損
78	Ⅲ	土38	A-Ⅲ-30	円板	榫目	20.6		厚1.2	潰れに依る歪み
79	Ⅲ	土38	A-Ⅲ-31	下駄	榫目	21.6	10.3	厚1.0・高4.0	台方形連歯下駄、台裏側に加工痕あり、後歯の摩滅著しい
80	Ⅲ	土39	A-Ⅲ-32	下駄	榫目	22.5	8.8	厚1.2・高3.0	台方形連歯下駄、台表面に刻印あり、指頭圧痕有り

図No	検出面	遺構	整理番号	器種	手法	法 量 (cm)			備 考
						長さ・口径	幅	厚さ・高さ	
81	Ⅲ	土39	A-Ⅲ-33	下駄	榎目	(13.6)	(6.9)	厚1.2・高4.0	台檜円形連歯下駄、台部欠損著しい、前歯片側の摩滅
82	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-34	椀	榎目	—	—	—	内外両面に黒漆
83	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-35	椀	榎目	—	—	—	潰れによる歪み、内外両面に黒漆の上に朱漆
84	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-36	蓋	榎目	つまみ径5.0・口径11.0	—	器高3.2	内面黒漆の上に朱漆、外面黒漆
85	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-37	円板	榎目	径20.4	—	厚0.8	黒漆残存
86	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-38	円板	榎目	14.2	—	厚0.8	片面に黒漆、側面に加工痕が残る
87	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-39	曲物蓋	榎目	径15.5	—	厚0.9	表面に2箇所、裏に3箇所釘が残る
88	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-40	下駄	榎目	20.7	6.6	厚1.1・高4.7	台檜円形連歯下駄、後歯は欠損のち釘を打ち補修、後歯の摩滅著しい
89	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-41	下駄	榎目	22.7	(7.3)	厚3.7・高5.8	台方形差歯下駄(露卯下駄)、後歯は欠損
90	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-42	不明	榎目	径2.5	—	厚0.7	—
91	Ⅲ	土41	A-Ⅲ-43	不明	榎目	径2.5	—	厚0.7	—
92	Ⅲ	土42	A-Ⅲ-44	円板	榎目	径15.4	—	厚1.2	片面は破損顕著
93	Ⅲ	土45	A-Ⅲ-45	円板	榎目	径14.9	—	厚0.8	片面部分的に炭化
94	Ⅲ	土48	A-Ⅲ-46	下駄	板目	20.9	8.9	厚1.5・高3.3	台檜円形連歯下駄、後歯摩滅著しい、台裏歯部付近に加工痕明瞭
95	Ⅲ	溝1	A-Ⅲ-47	円板	榎目	径18.8	—	厚0.8	側板との止め釘1カ所残存、歪みあり、中心部厚く周囲が薄い
96	Ⅲ	溝1	A-Ⅲ-48	円板	榎目	径14.7	—	厚0.9	—
97	Ⅲ	溝1	A-Ⅲ-49	下駄	榎目	(14.6)	9.5	厚1.3・高5.0	台方形連歯下駄、台部上面中央に「キ」刻書あり、後部1/2欠損
98	Ⅲ	溝1	A-Ⅲ-50	下駄	榎目	17.2	7.1	厚1.5・高4.8	台方形連歯下駄、子供用か
99	Ⅲ	溝1	A-Ⅲ-51	下駄	榎目	(15.2)	(3.3)	厚1.0・高1.8	台方形連歯下駄、歯はほとんど欠損、子供用か
100	Ⅲ	溝1	A-Ⅲ-52	下駄	榎目	20.7	7.8	厚1.6・高1.9	台方形連歯下駄、一部炭化、摩滅と潰れが著しい
101	Ⅲ	溝1	A-Ⅲ-53	下駄の歯	榎目	11.8	—	厚1.9・高8.7	接地面が斜めに減る、片面に欠損が多い
102	Ⅲ	溝状1	A-Ⅲ-54	椀	榎目	—	—	—	内外両面ともに黒漆の上に朱漆
103	Ⅲ	溝状1	A-Ⅲ-55	円板	榎目	径34.0	—	厚1.0	側板との接合部に竹釘痕あり、両面共に黒漆
104	Ⅲ	溝状1	A-Ⅲ-56	不明	榎目	径6.3	—	厚1.9	側面に黒漆、径5mmの小孔あり、椀の高台部の転用品か?
105	Ⅲ	溝状1	A-Ⅲ-57	箸	榎目	(15.9)	0.6	厚0.6	加工痕あり、他1点
106	Ⅲ	溝状1	A-Ⅲ-58	下駄	榎目	23.5	9.2	厚1.5・高1.9	台方形連歯下駄、指頭圧痕あり、歯部はほとんど摩滅
107	Ⅲ	溝状1	A-Ⅲ-59	下駄	榎目	22.6	9.9	厚1.6・高2.9	台方形連歯下駄、指頭圧痕あり、歯は右側が著しく摩滅、後歯に釘打ち込み、鉄分付着
108	Ⅲ	溝状1	A-Ⅲ-60	下駄	榎目	23.5	8.8	厚1.6・高1.8	台方形連歯下駄、腐食著しく歯部原形を留めない
109	Ⅲ	検出面	A-Ⅲ-61	椀	榎目	口径12.4・底径6.0	—	器高4.0	内外面黒漆の上に朱漆、外面に文様あり
110	Ⅲ	検出面	A-Ⅲ-62	杓子	榎目	(19.1)	7.6	厚1.5	柄の一端欠損、全体に黒漆が薄く塗られている
111	Ⅲ	検出面	A-Ⅲ-63	円板	榎目	15.4	—	厚1.6	厚めの円板、両面共に黒漆
112	Ⅲ	検出面	A-Ⅲ-64	曲物	榎目	長径19.3・短径17.5	—	厚0.6・(高) (9.0)	破損著しく歪み大
113	Ⅲ	検出面	A-Ⅲ-65	下駄	板目	23.6	9.2	厚1.0・高3.9	台方形連歯下駄、指頭圧痕あり、歯部は前後共に片側が摩滅、台裏面に加工痕あり
114	Ⅲ	検出面	A-Ⅲ-66	下駄	榎目	21.7	8.6	厚1.0・高2.8	台方形連歯下駄、歯部前後ともに片側の摩滅が著しい
115	Ⅲ	T1	A-Ⅲ-67	蓋	榎目	—	—	—	内外面黒漆、体部外面と天井部に文様あり
116	Ⅲ	排土	A-Ⅲ-68	曲物	榎目	径16.5	—	高 (12.7)	柄杓の曲物、歪み著しいため実測断面は残存状態の良い部分で復元

第4表 金属製遺物遺構単位器種組成

検	遺構	種	滓	総重量(g)	がま口	煙管	熙寧元寶	火箸	寛永通宝	丸釘	小柄	針金	釘	鉄鍋	銅線	不明	箒手	小計	検	遺構	種	滓	総重量(g)	がま口	煙管	熙寧元寶	火箸	寛永通宝	丸釘	小柄	針金	釘	鉄鍋	銅線	不明	箒手	小計			
I	SC	1	C											1					1	II	SK097	F	7	1616.4													7			
	SD	1	C											1					1		SK098	F	17	1839.9													17			
			F														1		1		SK101	C				1											1			
	SK07		F											1					1		SK103	F	1	75.4													1			
	SK18		F	10	1207.2														10		SK111	F											1				1			
	SK19		F	5	350.6														5		SK113	F	2	264.7													2			
	SK20		F							1									1		SK115	F	3	171.1														3		
	SK22		C											1					1		SK125	F	11	1457.3														11		
			F	4	38.7									2					6		SK128	F	31	3033.3									1					31		
	SK25		F	1	12.3														1		SK55	F	125	16927.7									1					126		
	SK26		F	13	202.6												3		16		SK70	F	55	12746.5														55		
	SK32		F					2										1	3		SK78	F	137	24614.1														137		
	SK41		F	1	31.2														3		SK79	F	146	18705.0														146		
	TK		UK														1		1		SP10	F	1	4.8													1			
			C														1		1		SP21	F	7	634.7														7		
			F										1				8		9		SP23	C						1									1			
	TT		F											2					2		SQ	C						1									1			
	TT1		F	2	180.8												1		3		TK	C				5			9					1			15			
	計			36	1978.4			2		1			1	2	2	19		1	64		F	35	5690.2										1	3			42			
II	SD02		F	2	128.1														2		UK	C						1									1			
	SK012		C						1										1		計		802	110017.9		1	10		16		1	1	2	7		9		849		
			F	8	1653.0														8		III	SD01	C					1										1		
	SK013		F	4	449.0														4			F	22	7017.2														22		
	SK024		F	1	1090.7														1		SK02	F	1	293.5														1		
	SK027		F	1	287.3														1		SK05	F	12	932.4															12	
	SK032		F									1							1		SK08	F	2	476.8															2	
	SK041		F	6	862.1														6		SK11	F	1	372.8															1	
	SK042		F	1	220.8														1		SK12	C				1												1		
	SK043		F	1	201.2														1		SK14	F	6	454.9															6	
	SK047		F	1	118.8														1		SK19	F	1	366.9															1	
	SK049		F														1		1		SK22	C				1												1		
	SK050		F	3	760.5														3		F	5	2343.0															5		
	SK053		F											1					1		SK25	F	13	6695.5															13	
	SK054		F	1	14.5														1		SK27	F	1	1537.0																1
	SK055		F	22	2057.5														22		SK28	F	5	1036.7																5
	SK056		C				1												1		SK29	F	3	1168.4																3
			F	2	315.1														3		SK30	F	17	909.4																17
	SK061		C						1										1		SK31	F	22	6368.7																22
			F																1		SK34	F	17	3725.9																17
	SK064		C							1									1		SK35	F														1			1	
			F	15	2930.8														15		SK36	F	28	5451.4																28
	SK067		C				2												2		SK37	F	5	1155.3																5
	SK070		F	24	1993.0									2					26		SK38	C						1											1	
	SK072		F	1	7.2														1		SK40	F	1	784.4																1
	SK078		F	48	6211.1														48		SK41	F	5	1556.6																5
	SK079		F	79	2479.3														79		SK46	F																		1
	SK085		C				1			1									2		SP4	F	1	426.2															1	
	SK088		C							1									1		TK	C				2			8							2			12	
	SK089		F	2	15.8		1										2		5		F	15	3576.7																15	
	SK091		F	2	441.0														2		計		183	46649.7		4		1		9							4		201	
	SK097		F	7	1616.4														7		総計		1021	158646.0		1	14		1	2	25	1	1	1	3	9	2	32	1	1114

*凡例/遺構番号: SC=建物址, SD=溝状遺構, SK=土坑, SP=ピット, SQ=遺物集中箇所, TK=検出面, UK=不明 種略号: C=銅, F=鉄



第Ⅰ検出面全景
(東から)



第Ⅱ検出面全景
(東から)



第Ⅲ検出面全景
(東から)



I 検 土41 遺物出土状況



I 検 建1



II 検 調査区東半分



II 検 調査区西半分



II 検 土6



II 検 土7



II 検 土27 木製品出土状況



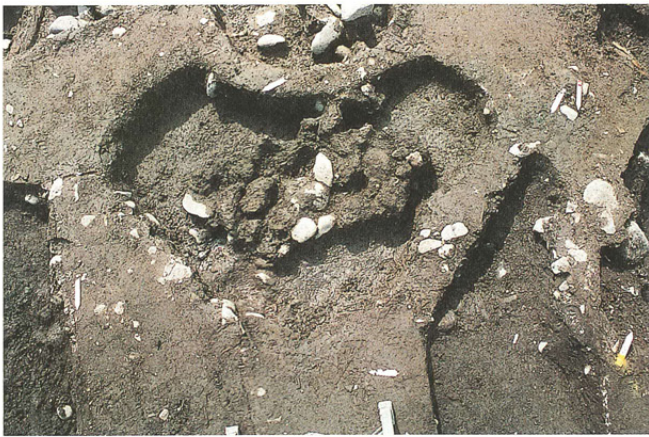
II 検 土31(右)・土32(左)



Ⅱ検 土44



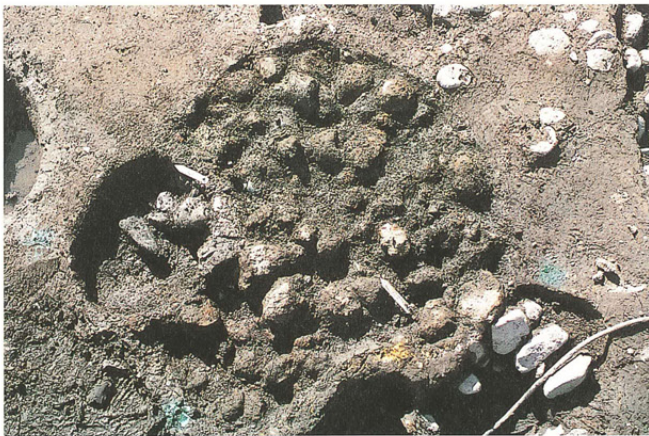
Ⅱ検 土44 しがらみ



Ⅱ検 土55 金属滓出土状況



Ⅱ検 土70 金属滓・木製品出土状況



Ⅱ検 土78 金属滓出土状況



Ⅱ検 土79 遺物出土状況



Ⅱ検 輔羽口・金属滓出土状況



Ⅱ検 土97



29



32



42



70



88



94



103



112



115



128



133



136



148 (外側)



148 (内側)



149



150



158



159



176



180



222



236



237



255



257



262



264



273



280



291



314



339



356



465 · 484



4



11



12



15



22



110

長野県松本市 松本城下町跡 小池町 第1次発掘調査報告書抄録

ふりがな	ながのけんまつもとし まつもとじょうかまちあと こいけまち だいいちじはつくつちょうざほうこくしよ
書名	長野県松本市 松本城下町跡 小池町 第1次発掘調査報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	松本市文化財調査報告
シリーズ番号	No.190
編著者名	竹内靖長、内堀 団、岡崎武祥
編集機関	松本市教育委員会
所在地	〒390-0874 長野県松本市大手3-8-13 TEL 0263-34-3000(代) (記録・資料保管：松本市立考古博物館 〒390-0823 松本市大字中山3738-1 TEL 0263-86-4710)
発行年月日	2007(平成19)年3月23日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
まつもとじょうかまちあと 松本城下町跡 こいけまち 小池町	ながのけんまつもとし 長野県松本市 ちゅうおう 中央3丁目639番1	20202	157	36° 13′ 54″	137° 58′ 17″	20060213～ 20060414	281.8㎡ (Ⅰ～Ⅲ検 合計759.1㎡)	民間集合住宅建設に 伴う緊急発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
松本城下町跡 小池町	城館跡 (城下町・町屋)	近世～近代	土坑231 ピット46 溝状遺構8 建物址1 石列1 水道遺構1		土器・陶磁器 土製品 木製品 金属製品 その他(埴塼・金属滓等) 石製品		近世松本城下町の町屋跡の調査である。整地層3面を確認し、第Ⅰ面で埴塼、第Ⅱ面で多量の鞆羽口・金属滓が出土したことから、鍛冶関連に従事していた居宅と考えられる。	

松本市文化財調査報告No.190

長野県松本市

松本城下町跡 小池町

—第1次発掘調査報告書—

発行日 平成19年3月23日
 発行者 松本市教育委員会
 〒390-0874
 長野県松本市大手3-8-13
 印刷 藤原印刷株式会社

